

梅沢人間力アカデミー 2015 年度夏合宿の感想文集

大見出し目次：（幹事長・幹事長補佐）	P P. 11 ～ 4
（4年生）	P P. 4 ～ 18
（3年生）	P P. 18 ～ 37
（2年生）	P P. 37 ～ 61
（1年生）	P P. 61 ～ 113

同一大見出し内： 参加者名五十音順

（幹事長・幹事長補佐）

【倉田皓祐】

今年度の夏合宿幹事長を務めさせて頂き、同期の大切さと縦の繋がりを学ぶことができました。6月に梅沢先生に夏合宿幹事長に任命された時は全く自信がなくどうしていいかわかりませんでした。そんな時にアドバイスをしてくださったのが卒業生の歴代夏合宿幹事長の方々でした。どのように夏合宿まで準備をしていけばよいか教えて頂きました。また、夏合宿にも来て頂き縦の繋がりのすごさを実感致しました。

次に、同期の大切さです。同期の助けがなかったら夏合宿は成功することができませんでした。4年生として最後の夏合宿を成功させたいという思いが全員にあったからこそ総括であるような感極まる雰囲気になったのだと思います。また、夏合宿幹事団には本当にたくさん働いてもらい助けて貰いました。しかし、組織を動かす大変さも学びました。「どのように指示を出せばいいのか。」「どこまで自分で動いていいのか。」などたくさん考えました。夏合宿の幹事長を経験することが出来たのは一生の財産だと思います。最後の夏合宿を最高の夏合宿にすることができて良かったです。残り半年間は後輩指導に力を入れていきます。

【飯塚友理】

アカデミー最後の夏合宿では、「人と人とのつながりの大切さ」を学びました。夏合宿中に特にそのことを感じる事が出来たのは、3日目のお昼に4年生会をした際と、最終日の総括です。

夏合宿3日目のお昼に4年生だけで集まり、今後のスケジュールの確認や連絡などをする時間が設けられました。その時に、全体を纏めることがうまくできず「みんなの力を貸してほしい。」と泣いて困っていた同期に対し、みんなは笑顔で「もちろんだ！」と答えました。そんな同期の姿がとても頼もしく感じ、心温まるような出来事がありました。たった30分の4年生会でしたが、とても印象に残る大切な思い出のひとつになりました。

また、総括で4年生同期は、それぞれ違う役職に就いて違うことをして頑張っていたに

も関わらず、みんなが口を揃えて語ったことは「人と人とのつながりの大切さ」でした。私も同期と同じことを話しましたし、本当に200人の前で伝えたかったことでした。総括後には「4年生みたいな先輩になりたいです!」「先輩の総括聞いて感動して涙が出ました!私もこれから頑張りたいです!」と言ってくれた後輩がたくさんいました。1年生なのに涙を流した後輩もいました。

人と人とのつながりや仲間を思う気持ちを持つことが大切だと改めて学び、そしてそのことに感動できるたくさんの素晴らしい仲間がいて私は幸せ者だと夏合宿を通じて気づくことが出来ました。そして、今後は「私も先輩方のような人になりたい」と言ってくれる後輩の成長の手助けをし、そのためにさらに自分自身に磨かなければならないと感じました。自分自身の成長は自分のものだけではないと肝に銘じながら精進する決意ができ、この仲間と一緒に頑張る乗り越えられると思っています。

大切な事を学び、そして心から感動した出来事にたくさん触れることが出来た最高で最後の夏合宿でした。

【藤澤洋美】

私は、今回二年ぶりに夏合宿に参加させて頂きました。二年前の当時は一年生で、先輩方の働きぶりや絆の強さに感動したことを覚えています。今回の参加は最高学年として、きちんと責任感を持ちつつ、後輩を引っ張っていこうという決意で参加させて頂きました。夏合宿を通して、主に嬉しかった事、後悔している事、気づいた事の三つについて述べたいと思います。嬉しかった事として、ワークショップで共に班活動を行った後輩の成長を感じられたことです。同じ班の1年生がアカデミーに入りたての頃は消極的だったのが、夏合宿中は笑顔が絶えず楽しそうに他の1年生と交流を深めていて、周りとうまく溶け込んでいる様子を見て安心することができました。また、夏合宿最終日に行われた総括では自分の想いを真剣に伝えている様子を見て、親心のような熱い気持ちになりました。夏合宿を通して後輩たちは一段と大きく変わったなと感じ、嬉しく感じました。さらに、「夏合宿はとても楽しかった」「夏合宿に参加して本当に良かった」「友達が増えた」「これからの活動も楽しみ」といった感想が聞けて、とても嬉しかったです。

反省すべき点としては、今回私は幹事長補佐に任命して頂いたにもかかわらず、自分の役職をうまく熟せなかったことです。指示待ち状態が多く、自ら考えて仕事をすることが出来ていなかったと感じています。それぞれの班長が寝る間も惜しんで準備に携わり、夏合宿当日も忙しく働いている様子を見て、自分自身の力の無さを感じました。アカデミー生活に力をより注いでいたならば、きっと自分らしく頑張れる方法が見つかり、自然と自ら思うように動けたのではないかと感じ、後悔しています。夏合宿を終えた今、残りのアカデミー生活を後悔することなく尽力していこうと決めました。

最後の気づいた事としては、同期だけではなく、アカデミー生全体の絆がこんなにも強いのだと夏合宿を通して気づくことが出来ました。夏合宿運営準備に携わっている幹事団だ

けではなく、アカデミー生一人一人が協力するからこそ、夏合宿は成り立つのだと感じました。また、私の中での大きな気づきは、素敵な仲間がたくさんいるという事です。私は、内気な性格から、自ら壁を作ってしまうことが多々ありましたが、この3泊4日アカデミー生と共に過ごすことで、慕ってくれる後輩たちや大切な同期の存在を強く感じることができました。素敵な仲間恵まれていて、この環境が温かいマイホームのように感じました。また、その環境の中に自分自身が居ることは本当に幸せな事であると改めて感じる事が出来ました。最後に、このような貴重な機会を与えて下さった梅沢先生には感謝の気持ちでいっぱいです。多くの学生と出会い、価値観を共有し、共に切磋琢磨できる仲間が居ることは、本当に幸せな事だと感じております。学生時代のこの思い出は自慢できる一生の宝物です。素敵な機会を下さり、誠に有難うございました。アカデミーの有難さを忘れず、卒業まで後悔のないよう、今まで以上にアカデミー活動に力を注いでいきたいと思っております。これからもご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

【三福彩夏】

私が夏合宿で感じたことは2つあります。1つ目は、4年生の先輩方の偉大さです。私は今年の夏合宿で幹事長補佐として活動させて頂きました。事前準備から間近で4年生の姿を見てきて、4年生のリーダーシップや団結力に圧倒されました。同時に、自分の未熟さを改めて感じました。今年の夏合宿で感じた反省点を今後のアカデミー活動に生かしていきたいと思っております。そして来年の夏合宿では最高学年として、後輩に凄いとってもらえるように頑張りたいと思っております。2つ目は、純粹に夏合宿が楽しかったと感じました。まだ話したことのない1.2年と話すことができたり、同期と本音で語り合ったりと合宿ならではの貴重な体験ができました。また、グループ研究の班も個性の強い人ばかりで、グループディスカッションの際は、賑やかに楽しい雰囲気でした。夏合宿でグループ研究の班の顔合わせができたことで、今後の活動が非常に楽しみになりました。補佐として班をリードしていけるように頑張ります。

このような貴重な体験をさせて頂いたこと、梅沢先生をはじめ、関わって頂いた幹事団の皆さんに御礼申し上げます。有難うございました。

【吉澤歩美】

私が今年の夏合宿に参加して印象に残ったことは二つあります。

一つ目は自分ではなく、相手のために働きかけることができたという点です。今年の夏合宿は自分が楽しむのも勿論ですが、後輩、特に1年生に楽しんでもらうことを一番の目標としていました。最終日の総括で多くの1年生がとても楽しかった、参加してよかったと話してくれていたため、その目標は達成することができたのではないかと思います。

二つ目は先輩方の力の強さを改めて実感したという点です。私は今年の夏合宿で、幹事長補佐を努めさせて頂きました。補佐として夏合宿の準備をする中で、生活班や移動班など、

他の班の活動も身近で見ることができたため、この夏合宿の規模の大きさを実感しました。その中でも特に先輩方の頼もしさを大きく感じました。4年生と一緒に活動できるのは残り半年となったので、先輩方の良い所をたくさん吸収し、その吸収したものを自分も後輩達に伝えることができるようになりたいと思います。そして、来年の夏合宿も自分たちが4年生として今年の先輩方のように後輩を引っ張り、成功させたいです。

(4年生)

【阿部向日葵】

今年の夏合宿は、私にとって本当に特別なものです。あの4日間のどの場面を切り取っても、かけがえのない素晴らしい思い出となります。しかしその中でも特に、私にとって忘れられない場面が2つあります。それは、キャンプファイヤーの終わりにイベント班で手を取り合い、深くお辞儀をした瞬間、最終日の総括で幹事や同期の溢れる涙を見た瞬間です。

約一ヶ月前イベント班の班長に決まったとき、率直に私には務まらないと思いました。他の人が適任であると思いました。それでも精一杯頑張ろうと思えたのは、幹事として頑張る同期の姿を見たからです。また、同じイベント班の班長である東條と佐藤の存在がとても心強かったからです。それからは毎日、1年生から4年生まで大学学年の異なる240人が本当に心から楽しめるイベントとはなんだろうと日々頭を悩ませました。準備の段階でどうアカデミー生に働きかけていいのかわからなくなったこともありました。今年初の試みである、企業からのスピーカーの借用は計画的に進められていませんでした。どの問題をとってもなかなか意見がまとまらず、夜中まで電話やSNSで話し合い続けました。そんな中で迎えたキャンプファイヤーは、直前まで天気が心配されるような空模様でしたが、なんとか雨にふられることなく決行できました。きっと熱い想いが空に届いたのだと思います。力のあるMCと、最高のスピーカーと、班員の臨機応変な対応と、なによりもみんなの楽しもうという協力があって、成し遂げることができました。燃えあがる炎をかこむみんなの笑顔は、キラキラと輝いていました。イベント班班長として活動させてただけのことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

迎えた夏合宿最終日、まさかあれほどの涙をみるとは思ってもみませんでした。胸があつくような言葉がたくさん聞けました。なんて素敵な場所に私はいるのだろうと思いました。人と人の繋がりには本当に大切であるということ、上級生の多くが口にしていました。ここで活動していれば、間違いなくそれを自身の経験を持って実感することができます。そして年度があがるにつれて、その想いは増します。さらに意欲的に活動すれば、その想いは何十倍にも膨らみます。

卒業まで残された月日は、あと半年と言われています。私が先輩にしてもらったことと、私がここで学んだことすべてを後輩に伝えたいです。そんな気持ちで、残りのアカデミー

活動も手を抜くことなく全力で取り組みます。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった梅沢先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。

【安藤大輝】

4年生として参加させて頂いた今年の夏合宿は、これまでの夏合宿とは比べものにならないくらいの楽しさと感動がありました。私は高校まで野球部に所属し活動していましたが、先輩や後輩と積極的に親交を深めようとはしていませんでした。しかし、大学に入りアカデミー活動を通して縦とのつながりの大切さを知り、少しずつ先輩や後輩と親交を深めようという意識が芽生え始めました。そして、今年の夏合宿で後輩とのつながりがどれだけ大切で幸せなことなのかを知ることができました。合宿中、宿舎ですれ違う後輩や一緒にテーブルでご飯を食べた後輩、一緒に山登りをした後輩、打ち上げで一緒に盛り上がった後輩や、真剣な相談や話をしてくれた後輩、ディスカッションで初めて話した後輩など、今まで関わったことのある後輩から初対面の後輩まで、私のことをとても慕ってくれる人ばかりでした。今まではこの繋がりが当たり前のように感じていましたが、夏合宿というアカデミー生と深く関われる機会を通して、慕ってくれる後輩の存在の温かさに感動と感謝の気持ちで一杯でした。

また、私は生活班の班員を務めさせて頂きましたが、同じ宿舎の宿舎長である仲井、山空の責任感の強さとリーダーシップを存分に発揮している姿をみて、頼もしいと思ったと同時にこのまま負けていられないと刺激をもらうことができました。他にも幹事長の倉田をはじめ、多くの同期と後輩が夏合宿の準備から当日の運営までを必死に行っている姿がとても輝いて見えました。卒業まで残り半年ですが、悔いの残らないようにアカデミー活動に精進していきます。夏合宿という素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生には誠に感謝しております。ありがとうございました。

【飯塚雄太】

私は夏合宿に参加させていただき、率直に今までアカデミーを続けてきて良かったと思いました。正直、私は2年生の頃夏合宿を最後に、アカデミーを辞退する事を考えていました。理由はアカデミー生活を充実させられていなかったことです。今思うと、アカデミーに積極的に参加出来ていなかった事が原因でしたが、当時は思い悩んでいました。2年前の夏合宿でその思いを同期や先輩に全て打ち明け、相談にのってもらったところ、アカデミーを続けていく決心をする事が出来ました。それから2年間アカデミーを続けてきて、アカデミーの見え方、夏合宿に参加する姿勢は変わっていきました。2年生の時はアカデミー活動についていく事に精一杯で、夏合宿ではたくさんの人とお話をして、交友の輪を広げることを中心に考えていました。3年生の時はアカデミーに貢献していく事、最大限に自己成長出来るようにアカデミーに積極的に参加する事を考えられるようになりました。夏合宿では移動班を務めさせていただいたので、夏合宿をつくりあげる仕事を全うする事、

半年後に卒業してしまう 4 年生からたくさんの学びを得ることを中心に考えていました。そして今年 4 年生になってからは後輩との関りを大切にする様になりました。今回の夏合宿でも後輩との時間を大切にしました。

夏合宿に参加し、今までアカデミーを続けてきて良かったと思う理由は、同期、後輩を含めた素晴らしい仲間の存在を感じた事です。2 年生から 3 回目の夏合宿でしたが、仲の良い仲間の数は年々増え、またより親密になっていました。よりたくさんの人と話せばよりたくさんの価値観に触れられ、より親密になればより深い話ができます。特に、仲の良い後輩が増え、夏合宿では相談事から馬鹿みたいな冗談までたくさん話をしました。私が今まで悩みを持っていた様に、後輩も悩みを抱えている事が多くあります。4 年生までアカデミーを続けてきたからこそその視点で、その後輩の悩みを聞いてあげられる事も出来ますし、昔の心境を思い出して新鮮な気持ちを持つ事ができました。何より一緒にいる時間がとても楽しく、このような時間は同期や先輩とばかり共有していたので、後輩の存在に幸せを感じました。

このように、今回の夏合宿では今までで一番密度の濃い時間を過ごすことができました。それは今までアカデミーを続けてきたからこそであり、この経験を悩める後輩に伝え、後輩にも是非このような素晴らしい経験をしてもらいたいと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を設けてくださった梅沢先生に深く御礼申し上げます。様々な貴重な経験することができ、とても感謝しております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【池田恭滋】

今回は 4 年生最後の夏合宿でした。就職活動があり、今年は参加できるかどうか分からなかったのですが、なんとか一泊二日ができる時間を確保することができました。

今年は移動班として夏合宿に参加させて頂きました。私の主な移動班での仕事は初日のバスの時間管理、誘導でした。初めての川越バスでの参加ということもあり、バスの時間管理、誘導は思っていた以上に大変でした。バスへの誘導では、学生を集合場所からバスの停まっている場所に誘導させるために何回もその間を往復し、人数が多いため大きな声で指示を出したりと朝から体力を消耗しました。バスの時間管理もサービスエリアでの休憩時間を厳守するアナウンスを何度も繰り返したり、池袋のバスとの時間調整など神経を集中する仕事が多く、自分の想像していた以上に移動班の仕事が困難なものなのだと理解することができました。戸隠に到着した後も、各宿舎への荷物移動やブルーシートの準備、早退者や遅刻者のタイムスケジュール調整など仕事が多くありました。忙しくはあったものの、初日は大きな問題が起こらなかったので安心しました。

二日目は就活の都合で早朝から帰宅させて頂きました。二日目以降のイベントには参加できませんでしたが、少しの時間でも夏合宿に参加できて良かったです。帰宅してからは企業の選考の準備をしていました。第一志望のみずほ証券の選考も進んでいて、かなりの

緊張と不安に心が押しつぶされそうになりました。みずほ証券の最終面接は夏合宿の最終日と同じ日でした。自分も大変だけれど、夏合宿に参加している他の4年生も頑張っているのだと考えると、少し勇気が湧きました。面接本番では、社会人交流会での3年間の活動を思い出しながら、少しでも自分のことを伝えられるように頑張りました。面接の最後に面接官の方から「来年からうちの会社と一緒に頑張ろう」と言われた時は嬉しくて泣いてしまいました。

面接を終えてからは、時間もあったので夜に池袋のバスに合流し、移動班の作業の手伝いを行いました。また、みずほ証券から内定を得たことを、梅沢先生をはじめ社会人交流会のみんなから祝って頂けて、心の底から嬉しいと感じました。

その後、3、4年生の飲み会に参加し、同期から自分が早退したあとの夏合宿の話を知りました。とても盛り上がっていたようで、最後の総括では涙を流した学生いたと聞いて今年の夏合宿は成功していたのだと思いました。就活で大変ではありましたが、最後に同期と話せて良かったです。

【川崎雅仁】

私が今回夏合宿に参加して印象に残っていることは2点あります。

1点目は、同期の頑張っている姿です。今回の合宿では多くの同期が、幹事の役職に就いていて、それぞれの仕事に勤しんでいました。特に、幹事長である倉田や、生活班班長の久保、移動班の小池の仕事ぶりを近くで見ていると、自分もこの3人に負けないよう頑張らないといけないという気持ちになりました。会計班は夏合宿当日あまり仕事がないので、移動班や生活班の手伝いをしました。また、他の同期で手が空いている人も、夏合宿を無事に終わらせるように運営の手伝いをしたり、と同期全員で夏合宿を成功させようと努力している姿を見て、自分自身同期に恵まれたなと強く感じました。楽しむときは本気で楽しみ、仕事するときは全力で仕事をするといった、しっかりと切り替えができる同期だったからこそ、後輩の信頼を得ることが出来、夏合宿を成功に導いたのではないかと思います。今回、会計班班長という役職をいただき、幹事として夏合宿を運営する立場として関わったことを誇りに思っています。そして、昨年同様秋季インゼミ・グル研で、班長という責任ある役職に任命されましたので、自分の持てる力を全て出し、班員の皆と共により良いものを作っていきたいと思います。

2点目は、後輩と親睦を深められたことです。他大学の1年生とはあまり関わる機会がなかったので今回の夏合宿では、1年生にできるだけ積極的に話しかけるという目標を立てて臨みました。夏合宿当日は、部屋の後輩から、全く話したことのない後輩まで様々な後輩と話すことができました。今まで関わりがなかった後輩から、将来や悩みについて相談されるのも夏合宿ならではの事だと思っています。

夏合宿の4日間は、後輩の相談を受け、親睦を深めたり、同期と夜遅くまで話あったりと有意義でものすごく濃い時間でした。私にとって、今回の夏合宿は今まで参加した夏合宿

の中で1番楽しかったですし、1番濃い時間を過ごせた最高の思い出になりました。夏合宿の班の中で唯一会計班だけが仕事が残ってますので、会計班班長として班員をまとめ、最後までしっかりと仕事をしようと思います。

【北村萌華】

私は今年で夏合宿の参加は4回目となりました。今年の夏合宿は4年間で一番楽しくもあり、一番悔しくもあり、これから卒業までの目標ができた夏合宿でした。私が一番印象に残っているのは4日目の総括です。1年生から4年生まで一人ひとりが夏合宿での思い出を語っているのを聞いて、今までの夏合宿のこと、アカデミー生活のことを振り返る事が出来ました。1年生でたくさんの人と仲良くなれて「参加して良かった」「これからも続けていきたい」と思ったこと、2年生で初めて班配属をして頂き、毎週会館に集まって準備したこと、夏合宿最中も集まって行動できた事、3年生では班長として幹事団に入れて頂き、幹事団の一員として参加できた事、そんなたくさんの思い出が次々と蘇ってきて、総括を聞いている間涙が止まりませんでした。いざ自分の番になったとき、後悔の思いでいっぱいになりました。それは班長として頑張った3年生や自分の役目を全うした同期が「頑張ってたよ良かった」と泣いているのに対して私はその涙が流せなかったからです。夏合宿中たくさんの仕事を抱える同期がいる一方で私は何をしてもよいかもわからず、時間を持て余すことが多々ありました。夏合宿に参加して良かったのか、私はこのアカデミーに必要とされていないのではないかと考えることもありました。しかし、こんな私でも参加して良かった、必要とされていたと思える出来事がありました。それはたくさんの同期・後輩と話せたことです。私に卒業してほしいと言ってくれて泣いてくれる後輩もいました。今後について相談してくれる後輩もいました。空いた時間に遊びに誘ってくれる同期がいました。この4日間で私がここにいる意味があったと感じる事が出来たので、本当に参加して良かったと思っています。私の大好きな同期が中心となって作り上げた今年の夏合宿は、今までの学生生活で最高の思い出です。

学生生活も残り約半年になりました。卒業のときに今回のような後悔が残らないようにこれからのアカデミー生活に精一杯力を注いでいきたいと思っています。まずはただ楽しいだけじゃなく、真剣にやるからこそ楽しかった以前のグル研のようなグル研になるように新規生のサポートに努めたいと思います。卒業の時に「頑張ってたよ良かった」という涙を流すことが私の目標です。

【久保誠】

アカデミー生活最後の夏合宿は8月2日～5日でしたが、私たち幹事団の夏合宿は準備から含めると7月から始まりました。各班のメンバーを決めるドラフト会議から始まり準備中から夏合宿が無事終了するまで、組織を引っ張っていく自身のリーダーシップの欠如やメンバー間のトラブルなど精神的に何度も押しつぶされそうになりながらなんとか最後の

夏合宿を成功に導けることができました。生活班統括の役割として特に、準備期間含め当日まで生活班班長である仲井久美、前田直人、山岸幸平、山本郁乃には厳しく指摘することも多々ありましたがそれだけ班長に期待をし、また、私たち 4 年の最後の夏合宿を成功で終わらせたいという気持ちの強い表れだったのだと思い返しました。

最終日の総括では、4 年生全員が涙を浮かべ「同期のつながりが大切である」「人と人との繋がりは大切である」と過半数の同期が口にしていたことを鮮明に覚えています。後輩からしたら、私たち 4 年過半数が同じことを言う総括は退屈に聞こえるかも知れませんが私たちは 4 年間を経験して心からそう感じています。だからこそ、このような素晴らしい経験を与えて下さった梅沢先生に心から感謝をすると共に、残りのアカデミー生活を 4 年生一人一人が本気で取り組み、後輩に還元していかなければならないという使命感さえ覚えています。梅沢先生このような素晴らしい経験を与えて下さり誠に有難うございました。

【弦間 綾】

今年の夏合宿では、移動班として参加させて頂きました。移動班では、行きのバス、宿舎間の移動、山登り、帰りのバスなど、安全に夏合宿を終えるために、人数確認をしたり参加者に呼びかけを行ったりしていました。普段、たくさんの人に大声で呼びかけたり指示をだしたりすることがないのでとても良い経験になりました。しかし、幹事の小池に頼りすぎだということと、うまく動けなかったことがとても悔しかったです。

また、最後の夏合宿ということで、参加する人達に楽しんでほしい、という気持ちを持って参加しました。毎年恒例の山登りや、キャンプファイヤーが最後だと思うととても寂しい気持ちになりましたが、会話をしながらの山登りは変わらず清々しく、イベント班が一生懸命企画してくれたキャンプファイヤーはとても楽しかったです。私の班の 1 年生もとても楽しそうにしており、嬉しくなりました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった先生また、それを一緒に運営した同期にとっても感謝しています。

【小池達也】

私が、夏合宿を通じて感じたことが一つあります。

それは、同期の大切さです。私は、夏合宿で移動班班長を務めさせて頂きました。夏合宿準備の段階では、同期の田中も移動班班長として一緒に活動していましたが、夏合宿当日、田中は欠席だったため、正直不安でした。というのも、去年はイベント班だったので当日の動きが把握できていなかったからです。しかし、不安な気持ちはあったものの 4 年生最後の夏合宿絶対に成功させたいという思いが強かったです。その結果、夏合宿では、不安と成功させたいという思いから、班長である私がひたすら走ってしまいました。三日目の朝、幹事長の倉田と二人で泣いたのが今では思い出です。私がうまく移動班の班員に指示ができていなかったため、私が走り回るという組織としてあってはならないことをし

ていることに気づき悔しくて泣きました。200人以上の人を動かす、スムーズに移動させるように指示を出す難しさを痛感しました。このままではいけないとわかっていながらも結局私が、走り回ってしまいました。三日目のお昼に、4年生全員を集めて手伝ってほしいと伝えました。その時、同期の皆が手伝うよって普通に言ってくれたことがとてもうれしかったのを今でも覚えています。辛いときに普通に手を差し伸べてくれる同期に出会えて本当に良かったと思いました。移動の際、同期の皆が参加者に移動するよなどの声をかけてくれていて嬉しかったですし、なんか手伝えることある？って聞いてくれたりした同期に今でも感謝しています。4日目の夜4年生だけで集まって呑んだときは、思い出話なんかもできて、ほんとに同期に恵まれたと感じました。

総括では、そんな同期が涙を流しながら思い思いの気持ちを伝えていてその姿を見て涙しました。最後の夏合宿にかける思いは皆強かったと改めて感じました。私は1年生の2月に入って三回目の夏合宿でしたが、ほんとにあつという間でした。毎年同期の大切さを感じてはいましたが、今年同期への思いは今までで一番強かったです。最後の夏合宿あまり後輩と絡むことが出来なかったのが心残りではありますが、残りの学生生活で後輩指導とともに思い出を作りたいと思います。夏合宿本当に楽しかったです。

【坂井美沙季】

今年の夏合宿は、一人ひとりの思いやりを感じる事ができた4日間でした。私自身としては、最後の夏合宿を楽しみながらも、臨機応変に行動することの難しさを感じた4日間でした。

私は、今回の夏合宿で下級生の成長に感動しました。特に1年生は初めての夏合宿ということで、同じ部屋に知り合いがいないことや、山登りに対して不安があることを何度か聞いていました。しかし、当日になると、多くの1年生が同期や先輩に自分から声をかける姿を見ることができました。さらに、今年は1年生にも生活班として頑張っていた人がいたこともあるかもしれませんが、食事の配膳など、自分にできることを進んでやっている姿を見て、仲間を助け合う意識を今まで以上に感じました。オリエンテーション時の班のディスカッションでは、ほとんどの1年生が「夏合宿で友達を沢山作ること」を目標としていましたが、目標以上に成長しているのを感じられたことが本当に嬉しかったです。

一方で、昨年に引き続き担当させていただいた移動班の仕事は悔いの残るものとなってしまいました。行きと帰りのバス移動の際には、大きな事故がなく安心できましたが、夏合宿中の移動に関しては、連携が上手く取れず、結果として班長の小池に負担がかかってしまったことが最大の反省点だと感じました。合宿中は臨機応変に動かなければ行けない場面が多く、これからのアカデミー活動や、社会人になってから取るべき行動を考えるにあたり、今回の夏合宿の経験から学んだことが多くありました。

最後に、他のサークルの夏合宿ではできないような貴重な機会を与えて下さった梅沢先生に心から感謝しております。また、お仕事の合間を縫って駆けつけて下さった藤井様、

川股様、田中様の 3 名の先輩方からは、社会に出てからでないといけない貴重なお話を聞かせていただき、大変感謝しております。誠に有難うございました。

【高野司】

私は今回の夏合宿を通して強く思ったことが2つあります。

1つ目はキャンプファイヤーが無事に成功したことです。今回の夏合宿ではイベント班という形で参加させて頂きました。そこでイベント班の大きな仕事の1つであるキャンプファイヤーを全員に楽しんでもらいたいと考えていました。大勢の人に楽しんでもらえるように夏合宿前から班で何度も集まり、歌・ゲーム・アンケート・進行など様々な準備を入念に行いました。その結果、既存生だけでなく、新規生からも「キャンプファイヤー良かった」「キャンプファイヤーを楽しかった」と聞くことができました。この際に東條や福田、佐藤など後輩の成長を感じ場面も多くあり、とても良い刺激となりました。またそれと同時に仲間と1つのことを成し遂げる達成感や充実感を感じ、本当に良い経験となりました。2つ目は人との仲間の大切さです。今回の夏合宿では同期、後輩と深く会話をする場面が多くありました。そこで藤井さんが仰っていた「人との出会いは人生を左右する」という言葉の意味をなんとなく理解することができました。4年生会をした際に、くだらないことから真面目な話まで何でも話すことができ、こんな関係になれる人とはそうそうない幸せなことだなと思いました。そして、大学を卒業してもこの先ずっとこの仲間と付き合いいくのだろうと感じました。それは同期に限ったことではなく、藤井さん・川股さん・田中さんが夏合宿に来てくださった様に後輩とも関係は続くのだろうと思いました。このような素晴らしい仲間と出会うことができ本当に良かったと実感できたのが、この夏合宿でした。

【高見澤仁哉】

今回の夏合宿は私にとって2回目の夏合宿でしたが、四年生としての最後の夏合宿でもありました。そのため、夏合宿への意気込みも昨年とも大きく異なり、今年の夏合宿では夏合宿への貢献という部分に意識が大きくシフトしていました。今年の夏合宿では、勧誘班と生活班を兼任させて頂きましたが、夏合宿を迎えるまでにたくさんの困難がありました。勧誘班として200名を超えるアカデミー全体の出欠管理、また、生活班として夏合宿中のアカデミー生の管理からお酒の発注まで、多くのことを考えなくてはなりませんでした。しかし、夏合宿を成功させたいという強い思いから、それらの多くの困難に対して粘り強く取り組むことができたと思っています。また、夏合宿中も生活班として常に能動的に動き、夏合宿をより良いものにするために行動することができました。

沢山の苦労があった夏合宿でしたが、今年の夏合宿を終えて感じたことが大きく二つあります。

一つ目に、心から尊敬できる同期の存在です。今回の夏合宿を終えて、夏合宿は多くの

人の努力によってつくられていると感じました。私自身、夏合宿を通して多くの困難に直面しましたが、幹事長の倉田皓祐をはじめ、多くの四年生がたくさんの苦勞をしたと思います。しかし、多くの困難に直面しながらもそれらを乗り越えていく同期を目の当たりにし、今まで以上に同期の存在を大きく感じ、尊敬できる存在であると感じました。

二つ目に、アカデミー生活も残り半年になり、四年生としてまとめの時期に入ったと感じています。今まで自分自身の成長という部分に意識が傾いていましたが、夏合宿を終えてアカデミーへの貢献という部分をより意識するようになりました。これからのアカデミー生活も残り少ないですが、アカデミーがより良い場所になるように自分自身アカデミーに対して何が残せるのか、常に考えながら残りの時間を過ごしていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて下さった梅沢先生に厚く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

【辻彩香】

今回の夏合宿は私にとって学生生活最後の夏合宿となりました。より良く夏合宿を過ごしたいと思い、2つの目標を掲げ参加しました。1つ目は「夏合宿を楽しむ、楽しんでもらう」ということです。普段私は自分から積極的に他の人に話しかけに行くことが苦手なのですが、参加者の約半分が新規生という状況を活かし、たくさんの人と話すようにしました。自分よりかは相手に楽しんでもらいたいという思いが強かったです。特に印象に残っているのは、宿舎での会話です。宿泊する部屋には私以外新規生ばかりで、初めはお互い緊張していましたが、段々会話が弾み明るくなることで、笑顔が増えていきました。また、宿舎全体で約30人と比較的人数の少ない環境だったので、あいさつをはじめとしアットホームな雰囲気でも過ごせました。2つ目は「夏合宿運営を裏側からサポートすることに注力する」ということです。私は昨年同様、会計班を務めさせて頂きました。公の場で指示出しや行動をすることが無いので、周りから見ると地味な係に見えるかもしれませんが、夏合宿運営において必要な経費を管理する唯一の係なので、失敗は許されず慎重かつ丁寧さが問われる重要な係であると思っています。私は、夏合宿費用振込用の口座の管理を担っているのですが、責任をとっても感じますが、最後まで徹底しようと思います。会計班の活動を通しての学びは、こまめな情報共有が大切であるということです。参加者や備品の購入など数字が変わるたびに予算表を更新しなければならないので、情報があることで助かりますし、正確性や作業の効率が上がりました。そして、この4日間を過ごし感じた事は「同期・後輩の頑張りに感動した」ということです。夏合宿を成功させるための準備期間、特に合宿当日幹事として仕事に励む同期や後輩を見て率直に凄いなと思いました。幹事も合宿を自由に楽しみたいはずなのに、疲れているはずなのに常に周りのことを考え、係同士協力しながら仕事に注力していて、責任感がとても強いのだと思いました。私も会計班として、最後まで責任を持って仕事に取り組みたいと思います。最後になりましたが、夏合宿という大変貴重な機会を与えてくださった梅沢先生、夏合宿運営に携わったすべての方々へ心

より御礼申し上げます。誠に有難う御座いました。

【仲井久実】

4年生最後の夏合宿はつらく、大変なことばかりでしたが時には楽しく最高の思い出になった夏合宿でした。

私は、生活班班長の大役を任せて頂きました。準備の段階では予約チームの班長としてお酒・おつまみや備品の買い出しから予算表の作成をしており、役職をつかせて頂いた6月下旬から毎日夏合宿のことを考えて睡眠不足になったことも多々ありました。無事に準備が終わり夏合宿当日を迎えました。当日の4日間は1日24時間こんなに短く、睡眠時間など関係ない状況を初めて経験しました。

この夏合宿を通して学んだことはたくさんあります。まず同期の大切さです。私は準備段階から仕事量が多く今までにないつらさを感じており、何回も同期に相談し励ましの言葉を貰いました。その時に優しい言葉だけでなく厳しい言葉をかけてくれる同期がいたから成長することが出来ました。夏合宿中も少し見かけてくれた同期が「お疲れ様」と声をかけてくれたのが嬉しくいつでも同期はとても心強かったです。次に仕事を誰かに頼むことがすんなりとできるようになりました。今までできることは全て自分でやっていることが多かったのですが、今回はやらなきゃいけないことが多く自分だけでは対応できない時がほとんどでした。私は、生活班班長と同時にアコールデの宿舎長もしていました。自分がアコールデから抜けないといけないとき生活班の後輩を頼りにしていました。後輩も責任と自覚を持ち自分が指示をしたこと以上の仕事をしてくれました。自分の判断が遅く迷惑をかけてしまったことが多かったのですが嫌な顔をせず仕事してくれる後輩がすごく嬉しく、後日「生活班として夏合宿に参加してよかった。仕事をふってくれて達成感を味わうことができた。」と後輩から直接その言葉を聞くことができました。この時に後輩に仕事を頼んで良かった、仕事を誰かに頼むことは悪いことではなく誰かの成長のきっかけに繋がっているのだと感じました。最後にこのアカデミーの素晴らしさを改めて学びました。夏合宿の幹事として他の学生にはできない経験をたくさんさせて頂きました。そして200人以上の素敵な人と出会える素晴らしい環境です。先生にはとても感謝しております。残りの半年間このアカデミーでたくさん思い出を作りたいと思います。

【野中美駒】

今回の夏合宿では、前回とは違い、「楽しかった」といった気持ちの他に「やりきった」という気持ちが非常に強く残りました。それは私自身、勧誘班班長、生活班班員という役職をいただき、4年生として運営に深く関わることができたからだと思います。

勧誘班は夏合宿中の仕事がない分、事前準備がとても大変でした。2ヶ月前の6月から動き出し、夏合宿の魅力を伝える為に夏合宿体験談を語る場を設けたり、女子会の開催をしたり、遅刻早退の把握、出席者リスト作成、宿ごとのご飯の人数把握、オリエンテーショ

ンの参加呼びかけ、当日のドタキャンが出ないように対策を考えたりなど沢山の仕事があり、夜遅くまで作業することが多く、辛いと感じることも多々ありました。

それでも諦めず、「夏合宿を成功させたい。」それだけの想いで一生懸命夏合宿に向き合ったからこそ、人数のミスや当日のドタキャンがなく夏合宿を終えたときの達成感があったのだと思います。

しかし、これは私一人の力だけではなく、他の勧誘班の後輩の力があつたからこそ今回220人ものアカデミー生が夏合宿に参加してくれたのだと思っています。「誰にどの指示を出せばいいのか。」「どこまで自分が動いていいのか。」など4年の班長としてマネジメントの部分で凄く悩んだこともありましたが、後輩に仕事を委ねて本当に良かったと思っています。女子会の開催をしてくれた、根本、安岡。オリエンテーションの出欠、遅刻早退の把握、ご飯の人数を受動的に手伝ってくれた鈴木、吉田、櫻井。そして1、2年生のアフターフォローを徹底してくれたWS班長。皆が協力してくれたからこそこの結果だと強く思っています。本当に感謝しています。

また、今回の夏合宿で大変印象的だったのが総括です。今でも忘れられません。大自然の中でアカデミー生同士の繋がりが強くなっていくことがよく分かり、とても嬉しい気持ちになりました。想いを本音で話すことの素晴らしさを再認識することができました。「私は素晴らしい環境にいる」そう強く感じました。

後輩からは、今後もアカデミーで頑張っていきたいという意気込みを聞いたことが何より嬉しく夏合宿に参加する前と後ではまるで別人のように変わっている後輩もいました。やる気に満ち溢れている後輩のモチベーションを下げないように、今後しっかりとサポートしていきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を設けてくださった梅沢先生に深く御礼申し上げます。様々な貴重な経験することができ、とても感謝しております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【平野鈴果】

私は経営研究会の夏合宿に1年の時から毎年参加しており、今年は4回目の夏合宿でした。ここでは、特に印象深かった3日目の新しいグル研班でのディスカッションについて書きます。

今回のグル研で、私は19班の班長を務めます。午前中は「なぜ経営研究会にいるのか」というテーマで話し、班の1年生の多くは「真面目な部分と楽しい部分が半々であり、魅力的だから」という理由で続けているのだと聞きました。私自身も、この経営研究会で楽しいことをたくさん経験してきましたが、それ以上に難しいことや辛いことを経験してきました。だからこそ充実した学生生活を送ってきたと思っています。したがって、1年生にも真面目な部分の魅力をもっと感じてほしいと思います。午後のインバウンドについてのディスカッションでは、午前の楽しい空気とは一変し、真面目な雰囲気でした。初めは1年生が

消極的な印象でしたが、上級生から発言のきっかけを作ると、議論が白熱しました。ディスカッション終了時に1年生に感想を聞いてみると、「こういう真面目なディスカッションも面白いと感じた」と言っており、非常に嬉しく感じました。

私は、この1日のディスカッションを通して、これからの班活動での目標をたてました。それは「真面目な話し合いや活動が面白いと感じてもらえるようなグループ研究にする」ということです。楽しいことはもちろん、難しいこともたくさん経験して、班のみんなの思い出に残るようなグル研にしたいです。夜の打ち上げや最終日には、班の誰かを見かけると声を掛け合ったり写真を撮ったりする様子があり、この夏合宿のディスカッションが打ち解けるよいきっかけになったと思います。学生生活最後の夏合宿に参加できて、よかったです。

【細川拓海】

この度の夏合宿は自身4度目の合宿となりました。また、撮影班班長、最高学年という2つの責務を果たすために事前準備をしっかり行った夏合宿でもありました。撮影班班長という点では、倉田をはじめとする幹事長や幹事長補佐からの信頼、期待、撮影班員からの注目があがり、正直不安が募る一方でした。事前準備の段階では、倉田から「たくみなら大丈夫でしょ！」とよく言われました。私は自身を含む撮影班員が現場で力を発揮するために7月から始まった夏合宿の班活動を積極的に行ってきたつもりです。一眼レフ、ビデオカメラ、三脚などの簡単な扱いを上級生も再度復習し、誰でも扱えるように指導しました。特に集合写真に関しては念入りに考えました。昨年度はどのように撮影したのか、段取りはどのようにしたのか、200人の集合写真を決して平らとは言えない地面でどのように撮影するのか、班員全員で考えました。しかし、事前準備では集合写真の形は決まっても、実際、現場に行ってみないとどうなるか分からないということで、「当日は、臨機応変に！」をスローガンとして掲げ夏合宿を迎えました。予想通り、昨年度のようにはいかなかったもので、その場で撮影方法（肩車をして上から撮影）を考え撮影しました。結果、登山での集合写真は昨年度よりも顔がはっきり写った写真が撮れたのではないかと思います。さらに、アゼリアの前での集合写真もとても綺麗に撮影出来たと思います。本当に撮影班員が私の指示に従い動いてくれたからこそ、良い写真が撮影出来たのだと思います。清水さんからお力添えを頂けたことが本当に大きかったです。

集合写真以外にも夏合宿では3000枚を撮影することを撮影班の目標とし、一眼レフ、デジタルカメラ、iPhoneなどを上手く使いました。今年度の撮影班は活発に動いてくれたので、目標枚数を超える写真を撮影することが出来ました。本当に撮影班員には感謝しています。

そして最高学年として夏合宿を成功に導くために、撮影班班長のみならず、仕事が無いときは他の班を協力したり、後輩指導をしたりなど運営のサポートも徹底しました。余計なお世話だった面もあったかもしれませんが、今思い返すと最後の夏合宿を大成功で終わ

らせる事に私自身も必死だったのだと思います。最終日、東京に戻ってきて芸術劇場で解散をした時にとっても大きな充足感を感じました。アカデミーの夏合宿には此度で4度目でしたが、4度目の夏合宿が1番楽しかったです。それは撮影班班長という役を任せられ、自らにプレッシャーをかけ、そのプレッシャーに押しつぶされないよう一生懸命に取り組めたからです。そして何よりもあれほど頼もしく、力強い同期の支え、心強い後輩がいたからです。本当に私は周囲の存在に恵まれていると感じています。夏合宿終了後には、その晩に一部の3、4年生で飲み会を開きました。私は大学生活で初めて心から楽しいと感じるお酒の席でした。

私にとって今年度の夏合宿は大変貴重なイベントでしたし、藤井さんが仰っておられた人脈は財産であるということの意味が分かったような気がします。今の1、2、3年生にも同じ気持ちを持ってもらえるように残り少ないアカデミー生活を一層大切に、自身の成長と後輩指導に全力を注ぎたいと思います。

【峯川大】

私は、今年の夏合宿でディスカッション班班長を務めさせて頂きました。それを通じて学んだことがあります。それは、もっと物事をよく考えて、現場であたふたしないだけの準備をすることが大切であるということです。

私は、梅沢先生から3日目の朝食時にご指導いただいた通り、現場に弱いと常々感じております。それは、一つの物事を成功させるためにはどんな準備・行動が必要であるのか十分考えることが出来ないあまりに、問題を起こしてしまうことがあるということです。実際に私は、梅沢先生からご指摘を頂くまでは、石浜の代わりの班長を誰にするか考えることが出来ませんでした。過去にも似たような失敗を繰り返してきた私にとって、今回の失敗は自分がいかに成長できていないか、改めて思い知らされたと同時に、大学4年生として自らの行動を考え直す必要性に強く迫られました。

私は考え事をするときはいつも、自分一人で頭を抱えていました。その結果、今回のようになにか問題を起こしてしまったり、ただただ時間を浪費してしまったりすることがありました。しかし今回の夏合宿を通じて、一人で考え事をしているのは決して有益なことばかりでないと感じました。今回の夏合宿では、ディスカッション班として一緒に活動した、渡邊や菅野、若佐谷らと事あるたびに何度も相談をしました。すると、彼らはすぐに反応をしてくれて、多くの意見を言うてくれました。一人で考え込んでいたことがばかばかしくなるくらい、考え事がすばやく解決していきました。この経験を踏まえて私は、考え事は一人では抱え込まずに、すぐに周りの仲間に相談するという習慣をつけていきたいと思っています。

大学生活最後の夏合宿で、仲間と助け合うという、生きていく上でも非常に大切なことに気づけたことをとても嬉しく思います。このような貴重な機会を与えてくださった梅沢先生に心から感謝しております。誠に有難う御座いました。

【渡邊夏樹】

今回の夏合宿を振り返ると4年間参加した中でも一番充実した3泊4日でした。その理由は3点あります。1点目はディスカッション班の仕事を全うすることが出来たからです。と言いますのも、私はアカデミーを長期離脱していたため復帰した最初の仕事がディスカッション班でした。ディスカッションが成功したかどうかによって新規のアカデミー定着に大きく関わるため非常に責任のある役職をこんな私に任せて頂いても宜しいのかと最初は戸惑いがありました。しかしこの仕事を任せて頂いた理由を考えた時に私の役目はプライベートの時間を使って同期との夜通しの語り合いを促進することだと考えました。そのためアカデミー全体での司会進行は峯川に任せ、私は裏方を徹底することに致しました。主に行った行動として生活班とディスカッションを行う場所の打ち合わせや、1年、2年の中心メンバーにさりげなく語り掛けることを行いました。結果として3日目の打ち上げの後も1年、2年ともにみんなが集まって話そう！という空気が自然と流れディスカッションも円滑に進んでいる様子でした。特に1年生は、どうディスカッションを成功させるか中心メンバーが模索しながらも指示を出している姿を見て、この子たちならアカデミーを引っ張っていけると安心しながら見ていました。1年生全体でも大いに盛り上がりを見せ私が与えられた役目を全うすることが出来たと心の底から嬉しく思っております。

2点目は後輩との繋がりです。私は長期離脱をしていたため新規生と関わる機会が皆無でした。そのためこの夏合宿でいかに1年生と話して交流を深めるかが今後のアカデミー活動をするうえで大事になっていくと考えました。そのためには220人の中で私を新規生に認知してもらう必要があると考えました。その絶好の機会が「自己紹介」の時と考え、みんなに印象を持たせるような話し方を行いました。結果として1年生の反応も上々で、私が話しかけたときでも、自己紹介面白かったですという声を頂いてそのまま話につなげることが出来たり、1年生の方からも、声をかけてくれる機会が多くあったり、作戦は成功したと思えました。中には、「先輩尊敬しています」や「夏合宿終わったあとごはんいきたいです」さらには私にハグしてくれる人たちまで現れて、アカデミー生には私はまだ必要とされている人なのだとか心から感じる事ができ、アカデミーに戻って良かったと思えました。

3点目が同期との絆を感じる事ができたことです。

正直なことを申しますと、私は長期離脱ということもあり、同期からの信頼を失っている状態だと思えました。建前上では戻ってきてくれて嬉しいとは言ってくれているものの、妙な距離感を夏合宿前から感じていました。だからこそ同期が困っていることがあったら積極的に助けていこうと考え、夏合宿前からコミュニケーションをとることにしました。そのおかげもあってか夏合宿中、移動班の小池からは夏樹の力を貸してくれと泣きながら私のことを頼ってくれたり、俺が動いていないとき、色々助けてくれてありがとうと感謝してくれたりする同期がいました。本当に心の底から嬉しくて涙が止まりませんでした。

私はまだ同期から必要されている、私はここにおいてもよいのだと感じることが出来たからです。もちろん同期全員からの信頼はまだ回復しているとは思っていません。ただ今後も困難があったときでも同期を支え少しでも以前のような関係を取り戻していきたいと考えていますただひとつ心残りだったのが、総括で同期が涙ながらに語ったその姿を直に見ることが出来なかったことです。後輩に話を聞くと感動的でもらい泣きしてしまった、このような先輩になりたいと口を揃えて話していました。就活のため早退したとはいえ本当に勿体ないことをしてしまったと思っております。

これからインゼミ・グル研が始まりますが、4年生として同じ班になった班員を全力でサポートしていく所存です。

今回夏合宿の幹事団の働きを近くで見て私自身実力差がかなりあると感じてしまいました。今回頂いたこのインゼミ・グル研の班一つだけに集中し、少しでも差を縮め成功に導きたいと思っております。最後になりましたが、このような機会を頂き誠に有難うございました。

(3年生)

【浅野航平】

今年の夏合宿で私はとても多くのものを得ることができました。合宿が始まる前、私は行ったこともない場所でまったく知らない人と4日簡も暮らせるのかとても不安でした。それに加え3年からの参加なので同じ日大生ともうまくやれるか心配でした。しかし、合宿が始まりプログラムをこなしていく内にそんな心配は杞憂だったことがわかりました。

宿舎では同室のメンバーと最初はぎこちなかったものの最後にはお互いの夢や目標について語り合えるほど打ち解けることができました。山登りではきつい道のりをいっしょに登り山頂にたどり着いた達成感を共有することでワークショップの班のメンバーとさらに仲良くなれたと思います。3日目にはグループ研究のメンバーと顔合わせをし、真剣にディスカッションに参加することで充実した時間を過ごすことができました。打ち上げではこれまで話したことのなかった多くの先輩、同期、後輩と話をすることができました。特に大東側の3年生には合う機会がなかなかないのでとても楽しい時間を過ごせました。

最後に4日簡を終えてみて私は人に自分から話しかけることの重要性に気づかされました。今回の合宿では積極的にこちらから話しかけることを心がけてみたところ、多くの人々の踏み入った話を聞くことができました。僕はこの合宿で様々なことを経験しましたが、もっとも成長できたのは、この待っているのではなく自分から人に話しかけ、初めての活動にも飛び込んでいく積極性だと思います。これからもこの心構えを大切に活動していきたいです。

【石橋凌太】

私が今年の夏合宿で感じたことは3つあります。

1つ目は、このサークルの人と人とのつながりの深さです。それを一番強く感じたのが、3日目の打ち上げです。私は撮影班の仕事で、アカデミー生から撮影を依頼されることが多かったのですが、学年ごとであったり、春季ワークショップ班ごとであったり、同じ人でもいろんなグループで仲良く話している様子を見ることができました。その様子を見て、このサークルの仲の良さ、つながりの深さを改めて感じました。

2つ目は、企画運営に携わった多くの人たちによってこの夏合宿が成り立っているということです。私は今回で3回目の夏合宿でしたが、今までと同じかそれ以上に、1つ1つのイベントを楽しむことができたと思います。それは幹事長、幹事団の人たちをはじめとする、多くの人たちの貢献のおかげであると、最終日の総括を聞いて強く感じることができました。

3つ目は、例年のような素晴らしい夏合宿を、来年は自分が作り上げたいという意識が生まれたことです。私は昨年の夏合宿から撮影班の仕事を務めてきましたが、どちらかといえば、上級生や幹事団の指示を貰ってから行動することが多かったです。一方、同じ3年生の中には、自分から率先して指示を出して行動している人たちも何人かいて、夏合宿を成功させるためにとっても頑張っているように見えました。来年は、まず撮影班の後輩たちに指示を出して仕事を割り振り、夏合宿全体の運営に貢献できるよう努力したいです。

今年の夏合宿で得られた貴重な経験を、これからのサークル活動にいかしていけるように頑張ります。

【石綿大樹】

今回の夏合宿では沢山の貴重な経験をする事が出来ました。いつも行っているグループディスカッションも、気持ちの良い自然の中で行うことで別のことのような感覚でした。

他の人も同じように感じたのか、皆いつもより意見の出しやすい環境下で積極的に発言していたように思えました。

山登りやキャンプファイヤーでは天気の崩れが心配されていたけれど、結果的に行くことができてよかったです。この二つのイベントを楽しみにしているという新規生の声を多く耳にしていたのでとても安心しました。また、イベント班として前々から準備していた催しも実際に行うことが出来てよかったです。

普段経験することのない貴重な経験をさせて下さった梅沢先生、幹事長、幹事団の皆様、本当にありがとうございました。

【岩村昂平】

今年で3年目の夏合宿、昨年度より規模が拡大し、3・4年生の活躍もあり大成功を収めたことは間違いありません。そして今回の夏合宿で、最高の仲間達に恵まれていたとい

う実感を改めて感じました。1年生からも沢山楽しかったという声を聞き、感無量です。自分にとってはもちろん、皆にとっても最高の夏の思い出になったに違いありません。私は今回、撮影班の班長を務めさせて頂きました。沢山反省点はありますが、来年に向けた課題として1つ、メンバーの稼働力の向上を挙げます。そのためには班長としてのリーダーシップかつメンバーの団結力を高めなければいけないと考えました。この1年は、ついでいきたいと思える人になるためにはどうしたら良いかを考える年にしようと思います。4年生、本当にかっこ良かったです。

そして最後に、このような貴重な体験をさせて下さいました梅沢先生、本当に感謝しております。

【大家一輝】

今回の夏合宿にしての感想としては、昨年参加した時よりも自分が成長した事と、まだまだ力不足だったという二つを大きく感じました。

昨年の夏合宿でも事前の目標として、一年生の顔と名前が一致していないので一人でも多く一致させようと思っていたのですが、結局一部の人だけと話すだけとなってしまいました。昨年の後悔を無くすために今年も同じ目標を掲げ、イベントでの交流、移動班での仕事の宿舎間の移動や登山時のサポートを通じて沢山の新規生と話すよう心がけました。その結果去年よりも沢山の新規生と関われ、名前を憶えられたと思えました。

また、今回の合宿では初めて係の仕事を頂き、移動班を務めさせて頂きました。夏合宿前に幾度となく話し合いを重ね、バスの座席表や夏合宿での移動班の立ち位置と流れを確認しました。その話し合いで先輩たちの頭の回転の速さに驚かされました。昨年に引き続き移動班の仕事を受け持った先輩もいたのですが、問題が起きた時に、次にどういったことをすればうまくいくかをすぐ発言している先輩方を見て、改めて凄いなと実感させられました。一番の失敗としては、二日目の登山では移動班の方で誰々がどの班の間に入って、列の乱れを無くし、体調不良者がいないかの確認、休憩所に着いた際の点呼という仕事が割り振られていたのですが、移動班同士の連携がうまくいっておらず、中々スムーズにいかないという場面が多々ありました。事前にしっかり連携して頑張ろうと言っていたにも関わらず、思うような行動が出来なかったところが一番の反省点でした。

来年も移動班の仕事頂けるのであれば、今年の失敗を活かし、来年はもっとよい夏合宿になるように貢献していきたいと思いました。ありがとうございました。

【川島和晃】

今年の夏合宿は去年と違うことが1つあります。それは夏合宿に参加する側の立場から夏合宿を成功させる側の立場に変わったことです。今回、私は移動班を務めさせて頂きました。移動班の仕事とは夏合宿前は池袋と川越のバスの座席決め、夏合宿中はバスの出発の際の点呼やサービスエリアの休憩時間の伝達、宿舎間の移動の付き添い、宿舎を移動時

の点呼、バスに荷物の積込みなどがありました。また今回、自分の宿舎には移動班の4年生がいなかったこともあり自分が移動班として宿舎の管理のトップも務めました。自分の宿舎の人たちに連絡事項の伝達や宿舎の人数の確認、それを班長の小池先輩に報告など移動班として多くの仕事を行いました。特にバスでの点呼や宿舎間の移動に関してはミスや事故が発生しないよう細心の注意を払っていました。移動班の仕事は大変でしたが大きなミスや事故がなく無事に夏合宿を遂行できてよかったです。また移動班として自分の責務を全うできたことによって去年の夏合宿とは比べられないほどの達成感を感じています。しかし達成感を感じると共に反省点もあります。夏合宿自体は成功しましたが、移動班の連携が思うように上手くいかない部分がありその結果班長の小池先輩に負担が掛かってしまいました。組織として改善点があったと思います。来年の夏合宿は今回の失敗を活かしていきたいと思います。

小池先輩を初め、幹事団の4年生の仕事の働きぶりを見てリーダーシップや問題解決力など4年生と比べて自分は未熟であることを認識しました。今後もアカデミー活動を頑張っていきたいと思います。

最後に梅沢先生、このような貴重な体験ができる夏合宿に参加させて頂きありがとうございます。ありがとうございました。

【菅野美幸】

私は今回三度目の夏合宿に参加させて頂いて、感じたことが二つあります。

一つ目は、ただ本当に楽しかったということです。山登り、キャンプファイヤー、打ち上げなど、どれをとってもとても楽しく、この夏合宿ならではの雰囲気を楽しむことが出来ました。また、行きと帰りのバスで隣の席だった1年生の男子に夏合宿の感想を聞くと、行きのバスでは「楽しみだが、知らない人が多くて不安もある」と話していましたが、帰りのバスでは「最後の総括では先輩方の話を聞いて感動した。4日間本当に楽しくて、帰りたくなかった。」と話してくれ、初参加の1年生に心から楽しんでもらうことが出来、本当に良かったと思いました。

二つ目は、来年も今年のように最高の夏合宿にしたいということです。今年の夏合宿が特に大きな問題もなく、楽しく最高の4日間を過ごすことが出来たのは4年生の強い統率力があったからだと思います。私自身は生活班とディスカッション班の仕事をさせて頂いたのですが、4年生が仕事をしている姿を間近で見ていると、やはり4年生の力は大きいと実感しました。また、同期がそれぞれの持ち場で頑張っている姿を見て、来年はこの同期皆と今年のように最高の夏合宿にしたいという思いを強く持ちました。4年生との夏合宿は今年で最後になってしまいましたが、先輩方が卒業するまでのこれからの半年間、多くのことを吸収させて頂き、来年の夏合宿も必ず成功させたいと思います。

【小山大貴】

私はこの夏合宿に参加して、多くの事を感じました。

まず、3年間連続夏合宿に参加させていただいたのですが、各学年で毎年感じるものが違うなと思いました。今年は3年生ということもあり、みんなを引っ張って行く立場にあり、また各班活動でも上級生の立場が多いので、後輩や、みんなの手本になる様な行動をしなければという意識でした。結果周りからはどう見られているのかわかりませんが、学年が違うだけでこんなにも感じることや意識が変わって来るのだなと思いました。今回の夏合宿を通じてまた一回り大きくなれた気がしました。

また、私はイベント班として活動していたのですが、イベント班として、バスレクや、キャンプファイヤーをやらせていただき、行うにあたって本当に準備は大切だなと思いました。また、大変だなとも思いました。個人的にはバスレク、キャンプファイヤー共に大成功だったと思います。しかし、その成功を収めるにあたり、本当に下準備などが大変で、苦労したからこそ、今回は素晴らしい活動ができ成功に終わったのだと思いました。努力すれば報われるということを再認識し、努力の大切さを知りました。そして、一緒に頑張った仲間の大切さも実感しました。最後キャンプファイヤーが終わった時は本当に感動しました。イベント班で頑張って良かったなと思いました。

また今回、今までにお話しできなかった先輩や後輩、新しく入ってきた一年生の方々とたくさんお話しができ大変刺激的でした。特に一年生と話す時は自分が一年生の頃を思い出し、初々しく思います。まだまだ話していない人もいると思うので、これからの活動で是非話しかけに行きたいです。3泊4日という短い間でしたが、非常に濃い毎日をおくれました。そしてあっという間でした。本当に楽しく、また学びのある夏合宿で充実していました。今回もこのような機会に携わることができて幸せでした。これからも様々なことに頑張っていきたいなと思いました。

最後に大学に入学してから3年生になるまであっという間だったので、今回の夏合宿の経験を生かして残り少ない大学生活を毎日毎日大切に過ごしていきたいなと思います。

【齋藤滉平】

今回の夏合宿では、夏合宿を支える班の一つである生活班に配属させていただき、学年性別問わず、仕事に対して真摯に向き合う仲間たちの姿を間近で見ることが出来ました。その中でも、後輩同期を見て抱いた感情と先輩を見て抱いた感情は違うものでした。

まず、自分の後輩である1, 2年生ですが、合宿中に様々な指示が飛び交い、それに困惑しても仕方がないような状況が多々あったにも関わらず、嫌な顔を一切せずに黙々と作業に取り組んでいた姿勢が印象的でした。自分の同期である3年生からは、それぞれの人達が、自分が今何をすべきであるかを冷静に考え、みんなのために主体的に動いている姿が印象に残りました。

後輩や同期のこられるの姿勢から、「自分も負けてはいられないな」と強く競争心を煽られました。

次に、自分にとって大切な先輩である4年生の先輩方についてです。4年生の先輩方は、今回の200人という大勢が参加している夏合宿でも、自分達の仕事から逃げることなくその責務を全うして下さった姿が印象的でした。また、3日目の夜に生活班の一部のメンバーの集まりでお話をしていた際に、とある先輩がうっすらと涙を浮かべていたのですが、私はその姿に強く心を打たれました。涙を浮かべるほどに、生活班として人をまとめることに苦勞をしていることがわかったのと同時に、それでもなお、自身の責務を全うするその姿勢から、夏合宿をなんとしてでも成功させたいというその先輩の思いが強く伝わりました。

今回の夏合宿を成功に導いて下さった4年生の先輩方は、来年の夏合宿にはもういません。来年の自分が、今の4年生のような人一倍の責任感を持つ人間へと成長し、少しでも夏合宿を成功へと導ける人間に成長できるかどうかで自信が持てず、不安で仕方ありません。そんな不安を払拭するために、また、そんな人間に成長するために、これからのアカデミー活動の日々の中で、責任感を強く持って活動に取り組むことは当然とし、今はまだいる4年生の姿から様々なことを学び、吸収するよう努力していきたいと思いました。

最後に、総括の繰り返しとなりますが、今回の夏合宿でみんなの素敵な笑顔を作った4年生へと近づくために精進すると同時に、来年の夏合宿でもこの笑顔を守って今の4年生を安心させるよう頑張りたいです。

【佐々木翔梧】

今回の夏合宿は私にとって3回目の夏合宿でした。毎年たくさんの気づきや学びを得せて頂いていますが、今年の夏合宿で特に印象的だったことは、本気を出している同期の姿と彼らの責任感の強さです。今年の夏合宿の参加人数は200名を大きく超える極めて大規模な合宿であり、全員が楽しくそして何より安全にケガなどなく3泊4日を過ごせるように運営をするのはとても難儀なことでありました。幹事長を頭に補佐やそれに続いて各班の班長と班員という組織で夏合宿に臨みましたが、当然3年生となった私も同期も役職につきみんなをまとめる役を担うことになりました。

私たち3年生は、一部メンバーを除き基本的には1年時からずっとアカデミーを続けてきています。その間多くの時間を一緒に過ごしてきました。具体的にはワークショップやグループ研究のようなアカデミー活動、あるいはアカデミー後の飲み会や旅行などのように。しかし、まだ3年生になってワークショップしか経験していない私たちですので、各自がリーダーシップを発揮して多くの人をまとめるといった場面を見ることはあまり多くはありませんでした。

今回の夏合宿では多くの同期が幹事団の班長やその他重要な役職に選ばれており、準備から当日に至るまで仕事に全力で取り組む姿を多く見ることが出来ました。各々が責任をもって一生懸命自分から仕事をしていることがひしひしと伝わり、上級学年になったことを痛感すると同時に、自分自身ももっと頑張らないといけないと思いました。

私は意識の高い同期が数多くいることを誇りに思っています。また、今私がこのような環境で大学生という人生の節目を過ごしていることに深く感謝すると同時に、今後は私も何事にも一生懸命に取り組む、同期とともにお互いを刺激し合って残りのアカデミー生活を充実させていきたいと考えています。

最後になりましたが、夏合宿という他では決して得られないような貴重な経験・学びの場を設けてくださった梅沢先生に深く感謝申し上げます。誠に有難う御座いました。

【佐藤功】

私は、今回の夏合宿ではイベント班班長を務めさせて頂きました。去年は初めての参加だったので、参加するだけだった夏合宿でしたが、今回は運営の立場ということで去年とは違う立場での夏合宿だったので新鮮でした。夏合宿の最大イベントであるキャンプファイヤーを行うにあたって、準備不足がないようにと念入りに行おうと思っていたのですが、詰めが甘くスピーカーの借用がギリギリになってしまいました。早めに梅沢先生にお伺いしていたらもっと早く対応できたと思います。それ以外の準備に関しましては、イベント班の班員たちと共に夏合宿の2か月前から毎週集まり、皆で何度も試行錯誤を行いその成果が当日出せたのではないかと思います。

この夏合宿を通して改めて、今の4年生と私にはかなりの力の差を感じました。何事にも真剣に取り組む、時にはふざけ全体を支えてくれている姿をみて、来年にはこの人たちに追いつくことができるのか不安になりました。あと半年しか時間はありませんが、今の4年生を超えるために少しでも吸収していきたいと思います。

最後に、イベント班班長という貴重な機会を与えてくださりありがとうございます。来年もイベント班として歴代の先輩方を超えるキャンプファイヤーを行いたいです

【佐藤朱理】

今年の夏合宿は、今までで一番楽しかったです。また、反省点もある夏合宿となりました。その中で、夏合宿で特に印象に残ったことは2つあります。

一つ目は、移動班としての仕事です。私は去年も移動班の仕事を努めていましたが、今年3年生ということで責任の重みが全然違いました。また、今年は200人以上の参加者がいたため、全体をまとめることが多々困難な場面がありました。そんな中一人ひとりがしっかりして臨機応変に対応しなければいけないところを私は人数の多さにしどろもどろになってしまいました。そのため、小池達也先輩に全て負担を負わせてしまいました。本当は小池先輩をサポートしなければいけないところ、それができなかったことが反省点としてあります。逆に、移動班としてしっかりできたと思えたことは、行きと帰りのバスの点呼と帰りの荷物運びです。バスの点呼では、休憩毎に誰一人抜けがないようしっかり確認して小池先輩に言われる前に仕事をこなすことができました。どうすれば効率良く仕事ができるかを考えながら行動できたと感じています。

帰りの荷物運びでは、バスにみんなの荷物を運ぶ際、運転手の人と協力して積極邸に荷物運びを手伝うことができました。運転手さんと「次は小さい荷物ね」、「次は大きい荷物ね」と話ながら行ったので、少し運転手さんと仲良くなれた気もしました。移動班のみんなで頑張った甲斐あって、問題なくみんなの手元に荷物を戻すことができたのかなと感じています。来年の夏合宿では、今年の反省点、良くできた点を上手く活かし、最上級生として恥ずかしくないよう行動していきたいです。

二つ目は、先輩、同期、後輩と仲良くなれたことです。先輩、同期とは去年よりもさらに仲良くなって会話も弾みました。打ち上げの際、素直な自分で楽しめることができました。後輩とは、宿部屋、キャンプファイヤー、新しいグループ研究の班などでたくさんの1年生と接する機会がありました。宿部屋では、みんなとてもいい子たちで私が指示したことを忠実に守ってくれました。お風呂の時間、1年生から積極的に話しかけてくれた時はとても嬉しかったです。新しいグループ研究では、一人ひとりにあだ名を付けて少し距離が近づけたと思っています。人見知りの子が結構いるので私から積極的に話しかけていき、少しずつ仲良くなりたいと思いました。

以上の二つが夏合宿に印象に残った出来事です。本当に楽しい夏合宿となりました。夏合宿というとても貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

【佐藤大五郎】

私は今回が3度目の夏合宿でした。今回夏合宿を通して印象に残っていることは2点あります。

1点目は、同期の頑張っている姿です。今回の夏合宿において、3年生ということもあり、多くの同期が幹事や、班長の役職に就き、仕事に勤しんでいました。私自身も今回の夏合宿でイベント班に所属させていただきました。その中で、3年生の同期が頑張っている姿が印象的でした。特にイベント班の班長を勤めた東條や佐藤功の活躍は目を見張るものがあったと思います。彼らの活躍ぶりに感心すると同時に、自身が彼らに比べて劣っていると痛感し、もっと自分も頑張らなくてはならないという気持ちになりました。今後のインゼミ・グル研では、夏合宿での反省を活かし三年生として班員の皆と協力し頑張りたいと思います。

2点目は、夏合宿最終日に行われた総括です。特に4年生の総括には感銘を受けました。4年生が夏合宿にかける思いや、アカデミーに対する思いを語り涙する姿に、私も思わずもらい泣きをしてしまう程でした。今回私は総括を通して、真剣に物事に取り組む姿勢は本当に素晴らしいものであると感じました。真剣に活動に取り組んでいなければ、あの場で涙することはないと思います。そういった意味でも、4年生が全員総括の場で涙していたのはすごいことだと思いますし、全員が真剣だったからこそ夏合宿が大成功に終わったと私は思います。

そのような素晴らしい先輩方もあと半年で卒業されてしまうので、その間に多くのこと

を学び、私たちの学年も先輩方に負けにくいらいの学年にできるよう頑張っていかななくてはならないと思いました。3泊4日の夏合宿は長いようで短く、あっという間でしたが、非常に中身の濃い、充実した3泊4日でした。夏合宿に参加できて本当に良かったと思います。

【鈴木萌子】

アカデミー3年目の合宿で学んだことは「膨大な準備を行ってこそみんなが素晴らしいと思う夏合宿にすることが出来た」ということです。

去年私は撮影班班員という役割でしたが、今回は撮影班班員に加えて、勧誘班班長という役割を与えて頂きました。勧誘班班長ということで、毎週行われる幹事会にも参加しました。幹事会に参加して初めて、三日間の夏合宿を成功させるために幹事長の下で沢山の班が作られ、準備が行われていることを知りました。また、そのことを知り、私が1年生、2年生の時に参加した合宿で本当に楽しいと思えたのは、先輩方の努力のお蔭だったのだと分かりました。新たな気づきから、私も夏合宿を成功させるために少しでも力になりたいという気持ちが強くなりました。

作業をしていく中で、「先輩方の偉大さ」と「自分の未熟さ」を実感しました。

今回、勧誘班班長をやらせて頂いて、一番近くでお世話になった勧誘班班長4年の野中美駒さんに限らず、どの先輩方も梅沢人間力アカデミーが大好きで、夏合宿を成功させたいという思いの強さを感じました。仕事の面でも、先輩方は常に先のことを考えていて、これもやったほうがいいね、と沢山の案が出てきて、自分の未熟さを実感しました。

そして夏合宿成功というゴールを常に考えている先輩方の凄さと沢山の尊敬できる先輩方が近くにいるこの環境に改めて感謝の思いが湧きました。

今回は2日間の参加でしたが、準備期間を含めて沢山の学びを得ることが出来ました。この学びを生かし、アカデミーに貢献していけるように頑張ります。また先輩が居てくださるのもあと半年しかありません。卒業されるまでに先輩方から沢山の事を吸収していき、アカデミーで沢山の思い出を作っていきたいです。

【東條裕紀】

今回の夏合宿では、普段日常生活では決して得る事のできない事が主に二つ得る事が出来ました。

一つ目は、達成感です。今回自分はイベント班の班長という大役を務めさせていただきました。イベント班としての主な仕事は初日のバスレクと2日目の夜のキャンプファイヤーでした。キャンプファイヤーに関しては、毎年の夏合宿の一大イベントと言っても過言ではないぐらいみんな楽しみにしているイベントなので、何としても成功させなければならぬものでした。自分は、そのキャンプファイヤーの司会を務めさせて頂いた事もあり、責任重大でした。キャンプファイヤーが始まる前は、上手くいくか等の心配で胸がいつぱ

いでしたが、始まってみると緊張などしている余裕もなくみんなを盛り上げる事で精一杯だったので、いつの間にかに時間がどんどん過ぎていきました。

そのおかげもあってかキャンプファイヤーが終わった後に先輩や同期、後輩の大勢から「凄く楽しかった」「ありがとう」等の声をかけて頂いたので、その時に体の中の力が何か抜けたような感覚に陥り、安心したと同時にものすごい達成感を得る事が出来ました。

もし、来年もこのような機会を得る事ができたその暁には、今年をも更に超えるような盛り上がりを生み出し、最高のキャンプファイヤーを作り出したいです。

二つ目は、縦との繋がりです。夏合宿では大学問わず、先輩や後輩と絡む機会がとても多く自然とそこで仲が深まっていく事が多々あります。今年も新しいインゼミグル研のメンバーや宿舎のメンバーなどと特に沢山絡む機会があり、先輩や後輩と今年も仲を深める事が出来ました。また4年生とは合宿の後3、4年飲み会を開き、みんなで思い出に浸り、泣きあい語り合いました。そこでまた縦との繋がりって本当に大事だと感じる事が出来ました。

このような思い出を作る事が出来たのも全て、梅沢先生のおかげです。

梅沢先生には、感謝しきれないくらいの思いでいっぱいです。

今年も夏合宿という最高のイベントを企画して下さい、本当にありがとうございました。

【富田幸嗣】

私は今回移動班の一員として参加しました。夏合宿を成功させる運営の立場で参加したことにより責任と夏合宿を終えての達成感は前回までには無かった大きな違いだと思います。移動班の仕事は夏合宿のしおりに書いてある時間通りに全員を移動させることが主な内容だったので時間の管理をすることに一番気を使って活動をしていました。その中で、移動班のメンバーだけでは時間通りに進まない時やほかの役職の人とお互いに連携して協力していくことも数多くあり、チームで活動することの難しさとお互いに大切さを実感しました。

また、役職を通じて後輩と深く関わる事ができたことも前回までの夏合宿との違いだと思います。私は部屋長も兼任していたのですが移動班の活動に追われて自分の部屋の管理がおろそかになっていた部分もありました。しかし、2年生の後輩は自分がいない時に部屋の管理を代わりに代行してくれ大変助かりました。彼とは夏合宿まであまり話したことが無かったのですがそれでも頼みごとを聞いてくれたことは本当に嬉しかったです。

【長妻征吾】

私にとって今回の夏合宿は、同期の強さを感じた夏合宿でした。

昨年に引き続き生活班の一員として夏合宿に参加させていただきましたが、昨年は2年生ということもあり、生活班としての仕事は先輩からの指示を待つことばかりでしたが、今年は自分で考えて動かなければならない部分が増えたと感じました。仕事量は増え、大変でしたが、その分達成感がありました。

私は私用のため3日目の朝に早退してしまったのですが、2日目の登山、キャンプファイヤーなどで、春季ワークショップの班員との仲を深めることができましたし、他の班の1年生や大東文化大の2年生と交流することができよかったです。

同期の活躍としては生活班の山岸が私のなかで印象に残っています。

同じ生活班として山岸と同じグループで作業をすることが多かったのですが、山岸は率先して作業を行い、彼のおかげで事前準備をしっかりと終えることができましたと思います。

来年の夏合宿は私たちの代が中心となって運営をしていくので、同期と切磋琢磨し、支えあい、夏合宿を成功させたいと思います。

最後に夏合宿を企画、運営してくださった梅沢先生、幹事団、4年生の先輩方ありがとうございました。

【永沼舞帆】

私は今回三回目の夏合宿に参加させて頂きました。三年生という立場として、初めて夏合宿に参加する一年生にアカデミーが楽しい場所であることを伝えたいと思い、夏合宿に参加致しました。

夏合宿で特に印象深かったこととして二つあります。

一つ目は、後輩と沢山話をする事が出来たことです。一日目の夜は宿舎内移動が禁止だった為、同部屋の一年生二人と新規の二年生一人と私の計四人で女子会を行いました。各自おかしを持ち寄り、大学や学年関係なく和気藹々と楽しむことが出来、とてもいい思い出になりました。また、そこで感じたこととして、やはり人は見た目によらないと思いました。話してみると第一印象とはかけ離れた性格をした子もいて、最初から決めてかかるのではなく、コミュニケーションを取ることの大切さに改めて気づかされました。

印象深かったことの二つ目としては、四年生の先輩方の姿と涙です。夏合宿を通して幹事長の倉田さんや、久保さん、小池さんの姿をずっと見ていました。夏合宿を成功させたいという一つの目標に向かって皆で頑張っているのを見て、純粹に凄く格好良いと思いました。

また、総括の際は四年生の先輩方が泣いているのを見て、必死で頑張ったからこそ溢れ出る涙であり、私も来年はそんな涙が流せるくらい頑張らなきゃいけないと強く思われました。

【羽生健悟】

私は夏合宿に参加し、今回で3回目の参加でしたがまた多くの気づき、学びを得て東京に帰ってくる事ができました。中でも特に述べたいことは2つあります。

まずは、移動班についてです。私は昨年に引き続き移動班の任を頂きました。今年の移動班は、班長2名が欠席と早退で途中から班長が小池先輩だけという組織体制でした。そのような組織体制で、大きな問題が発生しなかったのは良かったです。しかしそれは、偏

に小池先輩のおかげでした。全体の移動など一人で私たち班員に指示を出し、管理しており小池先輩に負担が全部偏っている状態でした。途中から早退者の送迎の管理は私が行いましたが、それでも小池先輩は私のことを気にかけて下さいました。そのようなことから、もっと頼られる存在にならなければならないといけない、またもっと自ら考えて行動することでサポートできたのではないかと感じました。あと約半年しかないですが、4年生から多くを学び、頼られる存在になりたいと思います。

述べたいことのもう1つは、多くのつながりを実感できたということです。今回の夏合宿には、200余名が参加しました。私は200名を超す合宿を他では聞いたことがありません。そのような規模の夏合宿に参加できて本当に良かったと思います。バスの移動、緑の中のディスカッション、宿舎、打ち上げなど先輩、同期、後輩、多くの方と話すことができました。中でも同期と心の底から話した夜を忘れることはないと思います。その話をしてからは、もっと人間力を上げたい、もっとゼミに貢献したいという気持ちでいっぱいです。今以上にゼミ活動を精力的に行っていきたいです。夏合宿では素晴らしい思い出を作ることができました。

また最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった梅沢先生をはじめ、幹事団の皆様には心から感謝しております。誠にありがとうございました。

【福田誠一郎】

今回の夏合宿では、ディスカッションや山登り、キャンプファイヤーなどを通じて多くの人と関わり、成長させてもらいました。様々な活動を行った中で特に印象に残っていることは2つあります。

まず1つ目は、イベント班についてです。私は、去年に引き続きイベント班に配属させていただきました。事前に皆で何度も集まり、頭を悩ませながらアイデアをひねり出して協力し作り上げたバスレクとキャンプファイヤーが成功した時には、とても大きな達成感と充実感がありました。直前まで雨が降るかもしれないという中、準備を行ったキャンプファイヤーは特に大きな達成感を覚えました。当日のいろんな状況の中で臨機応変に対応できたことが大成功につながったと思っています。雨だけでなく、当日の演目の入れ替えに対応するために移動時間中に流す曲を増やしたり、先生からのサークル内部の状況がわからないままマイクでしゃべるのはおかしいという指摘をいただき、マイクを移動したりしました。予定通りに進むことだけではなく、臨機応変に対応することが何かを成功させるために必要なことであるということを学ぶことができて良かったと思っています。また、キャンプファイヤーのMCをやり、200人以上の前で司会をやるという貴重な経験をさせてもらいました。最後の質問コーナーでは、緊張に押しつぶされそうになりながらも様々なサプライズを作り、東條君と息を合わせながら盛り上げることができたのではないかと考えています。なにより、キャンプファイヤーが終わった後に多くの人から「楽しかった」「最高だった」という言葉を聞くことができた時が一番大きな喜びでした。

2つ目は、慕ってくれる後輩ができたことです。私は、普段から後輩としゃべることが多いほうではないですが、今年の夏合宿では、春季ワークショップからずっと一緒にいる2班でディスカッションや登山を行ったことで人に言えないような相談をしてくれる後輩ができました。そんな深く付き合う後輩との絆はとても貴重なものであると思うので、これからも大切にしつつ、多くの人と深く関わっていきたいと思います。

今回の夏合宿で得た経験をアカデミー活動で生かして、日々精進していきたいと思います。この度は、夏合宿という場で大変貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

【増田樹也】

今年の夏合宿で私は多くのことを感じ、自分自身に対して大きな影響を与えました。その1つとして梅沢人間力アカデミーメンバーのつながりの強さをあらためて確認することが出来ました。最終日の総括の際に、先輩方の総括を聞いていて、来年の夏合宿には先輩方はいないという事を感じ、私は大学生活で初めて涙しました。また、2日目の夜に安藤先輩と話しているときにも別れが辛く、共に涙しました。それだけ梅沢人間力アカデミーのメンバーは固く結ばれているのだなと感じました。そして、同じことを感じた同期と梅沢人間力アカデミーを卒業される先輩方の代わりになれるように努力することを共に誓いました。

もう1つ自分に対して大きな影響を与えた出来事があります。それは、先輩が自分に期待してくれていたことです。私は4月に日大で行われた新人勧誘の幹事を務め、自分の力の無さから幹事をおろされました。そこから、私はなにか納得ができず、梅沢人間力アカデミーに対してやる気を見いだせていませんでした。そんな中、夏合宿では生活班の班員という役割を与えて頂きました。私はアゼリアの生活班員でアゼリアの生活班班長は久保誠さんでした。しかし、久保先輩はアゼリアだけを見ているわけにいかず、アゼリアにつきっきりではいれませんでした。そんな久保先輩はアゼリアの多くを自分に任せてくれました。そのことが自分はいれ楽しく生活班の仕事を頑張ることが出来ました。その結果、久保先輩や幹事長である倉田先輩からお褒めの言葉を頂き、これからのアカデミーも期待しているといった言葉も頂きました。先輩からこれだけ期待されていて、幹事をおろされた事をいつまでも引きずっているわけにはいかないなと思いこれからのアカデミーを頑張るという決意をすることが出来ました。こんな素晴らしい経験が出来た夏合宿に今年も参加でき、本当に嬉しく思っております。以上で私の夏合宿の感想文を終わります。

【松本大輔】

私は今回の夏合宿を終えてたくさんの事を学び、感じました。夏合宿の運営側での感想、参加する側としての感想の二つの立場から感想を述べたいと思います。

まず、私は運営側として移動班ということで初めての役職を与えていただきました。1, 2年までは何の役職もなく主体性もないままに参加をしていましたが、今回移動班に選ばれたことで上級生としての自覚・責任感が芽生え、どう運営すれば最高の夏合宿になるのかを常に考えながら行動したので今までとは違った楽しさを味わえました。宿舎では部屋長ということで自分の部屋の子に気持ちよく過ごしてもらうにはどうすればいいのか考え、ディスカッションではどうすればグループ研究をやりたいという積極性を持ってもらえるかを考えるなど様々な場面で上級生としての責任を負いながら行動しました。この経験は自分はやればこれだけのことが出来るんだという自信を生み、様々なことへ意欲的に取り組めるようになりました。

次に参加する側としての感想を述べます。私は今回の夏合宿に参加するにあたって、自分にとってアカデミーを最高のものにするという目標達成のために、後輩と積極的にコミュニケーションを図ること・同期との絆をより深めることを目標として参加しました。実際に目標達成のために行動したおかげで合宿最終日にはたくさんの後輩から名前を呼んでももらいましたし、同期からは自分の上級生としての行動を褒めてもらいました。この結果を受け止めた時、自分は本当に素晴らしい仲間と囲まれどれだけ支えてもらっていたのだろうと思ふ人との出会い・めぐり合わせの素晴らしさを知り、自分はこれを大切にしていかなければならないと思いました。

【三原翔哉】

私は今まで三回夏合宿に参加させていただきました。今までは楽しむだけでしたが、三年生という作る側の立場に立ち今までとは違った気持ちで参加した今回の夏合宿でしたが、今回の夏合宿に参加して、私は心の底から参加して良かったとすることができました。それというのも、今まで夏合宿の場では真剣な話をし、同期と仲良くなってもその大切さというものを実感することが出来ませんでした。ですが今回の夏合宿では、三日目の打ち上げ時に四年生との思い出等を思い出してしまい、泣いてしまいました。その時気にして頂いたのは四年生でしたが、帰りに池袋についてから三年生、四年生だけで打ち上げをさせていただきました。その終わりの時に三年生から四年生へ思いを伝える場面があったのですが、その時「この同期と一緒に良かった、この同期と今までになかったものを作っていきたい」そう思うことが出来ました。なのでこれから先今まで以上に同期の仲を深めていき、今までの先輩方を追い越していけるように精進していきたいと思ひます。

【武藤大樹】

私は今回の夏合宿に参加させていただいて感じたことが3点あります。

一つ目に先輩の偉大さです。班長会議を每晚終えて翌朝には一番に起きていた宿舎長の前田先輩、生活班全員に指示を出しながらも自分も人一倍分の仕事をこなす久保先輩、私の印象に残っていたのは生活班のお二方でしたが、他にも移動班の先輩は何かイベン

トがある度に声を大にして叫んでいました、このほかにも多くの4年生の先輩の偉大さを目の当たりにすることが出来ました。それと同時に来年の私たちがこのような尊敬する先輩のようになれるのか、とても不安に感じました。

二つ目に後輩の成長です。一つ下の代である2年生は去年の夏合宿に比べて一回りも二回りも成長したと感じました。生活班で一緒に仕事をした中村、寺田、佐野といった日大側の2年生が頼れる後輩に成長していて感動しました。今まで身近にいたから気付かなかったのか、何か仕事を割り振られた際に自分から率先して手伝ってくれたことや、私が仕事を誰かに頼む際にも、2年生なら安心して任せられると感じる場面がいっぱいありました。寺田は「僕がお酒の見張りは続けるので、武藤さんは1年生会の見張りをしてきていいですよ。」と言って自分の自由時間を削ってまで率先して仕事を手伝ってくれました。またお酒やおにぎり、お茶等を配る際にも、2年生が率先して仕事を求めてきて、また仕事をこなしてくれました。結果として私は安心して2年生に仕事を任せることが出来、自分は他の仕事に集中することが出来、スムーズに生活班全体としての仕事をこなすことができました。

最後に同期の存在です。私が今回の夏合宿で最も強く感じたのはこの同期の存在でした。私は今年の夏合宿でたくさんの同期の頑張っている姿を見ることが出来ました。移動班では普段はムードメーカーでみんなを笑わせてくれる松本が真剣な顔で叫んでみんなを誘導していたことや、川島や富田、羽生が普段あまり見せないリーダーシップを発揮し、みんなを誘導していました。イベント班ではキャンプファイヤーの時にみんなの前でMCをしていた東條、福田、ピアロッキーで夜にレクを企画してくれと佐藤、山田にアドリブでお願いしたにも関わらず、しっかり成功してくれました。撮影班は登山のとき、あの猛暑の中急斜面を登り降りしながら5000枚以上の思い出を残してくれた岩村、石橋。合宿前に勧誘班としてみんなを巻き込んで勧誘活動の指示を出していた吉田。毎晩遅くまで幹事長補佐として班長会議に出て幹事長をサポートしていた三福。そして生活班の斎藤、山岸、山杳、長妻、菅野、弘内は一緒に仕事をしていた分、どれだけ必死に頑張っていたか伝わりました。同期と夜にお酒を飲んだ際も、みんな体力が限界にも関わらずお互いに励ましあっていました。そのように励まされ助けられたからこそ私は夏合宿を終えることが出来たし、他の同期もお互いに励まし助け合うことが出来たからこそ夏合宿を終えることが出来たのではないかと思います。この素晴らしい関係を維持し、今後のアカデミー活動に取り組んで行きたいと強く思いました。

最後になりますが、このような貴重な経験を与えてくださった梅沢先生、幹事長、幹事団の方々、本当に有難うございました。

【安田健人】

夏合宿で経験し、得たものは数多くありました。その中でも、春季WS班のことや、今年イベント班に就かせて頂いていたのでその話をしようと思います。

私は、春季WS班では14班の班長を務めさせて頂きました。その14班のメンバーとももう一緒に活動する機会はなく、14班の新規生がグル研でもうまくやっていくことが出来るのか不安が募っていました。なので、夏合宿3日目のグル研の班でのディスカッションがどうだったのか聞いて回りました。新規生は皆大丈夫、やっていけそうだという意見が多く安心しました。特にうれしかったのは、打ち上げの際に、挨拶回りしていた時に14班の新規生から先輩のおかげで友達もできて、うまくやっていた。このサークルに入れてよかった。などの言葉を言ってくれて、自分はそれほど新規生に影響を与えていたのかと実感しました。私は新規生になにも与えられてないと思っていたので、報われたような気持ちになりました。

イベント班ではキャンプファイヤーの音響を担当させて頂きました。当日は雷が鳴っていたので出来るかどうか心配でした。事前設営の際にパラパラ雨が降って、スマートフォンに土砂災害のエリアメールが届くなどもうできないかもしれないと思いましたが、まさか最後までキャンプファイヤーが出来るとは思っていませんでした。宿の人も言っていました。隣の山では大雨が降っていたのにもかかわらず最後には星が眺められるほど雲が晴れていたと言われてまさに奇跡のキャンプファイヤーといっても過言ではないと思います。そんなキャンプファイヤーが成功してよかったと思います。

今年の夏合宿はうれしかったことや達成感を味わえるようなことがたくさんありました。そのような機会に恵まれたことに感謝しています。ありがとうございました。

【山岸幸平】

私は今回夏合宿に参加し、気づいたことが2つあります。それは人を動かすことの難しさと同期の大切さです。

私は今回生活班の班長として夏合宿に参加し、事前の準備から打ち上げのルールやどのようにしてお酒を配るかなどやることが多く大変でした。夏合宿当日はどのようになるのか不安でいっぱいでした。そんな中で夏合宿当日を向かえ、事前に決めていたことも当日になると変更になることも多く、報連相がこまめに取れなかったりしました。指示を出すのに苦労もしました。200名以上の大人数に指示を出して静かにさせたり、移動させたりするのになかなかスムーズに動いてくれない時もありましたが、4年生の先輩はもちろん生活班の班員やほかの班に所属していた同期の協力もあり、夏合宿の運営が出来たと思っています。しかし、最後の最後まで4年生に頼ってしまった部分がありました。また指示を受けてから行動することや自ら動けないこともあり4年生に対して最後の夏合宿にまで迷惑をかけてしまったのが心残りです。

来年は自分たち3年生が夏合宿の中心メンバーとなり、夏合宿を運営していかなければなりません。総括の時に4年生のほとんどの人が同期の協力なしでは夏合宿を成功させることが出来なかったと語っていました。それだけ同期は大切に頼れる存在であるということが再確認できました。今の4年生のように夏合宿の運営の中核になって動けるか不安で

はありますが、その不安を少しでもなくせるよう同期と協力して日々のアカデミー活動に参加していきたいと思います。

最後になりますが夏合宿の企画、運営をして下さった梅沢先生をはじめ、幹事団の皆さんに御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

【山田太地】

今回の夏合宿もとても気づきが多くありました。初めてイベント班に所属されてもらいバスケの司会を担当して、人を楽しませることの喜びと難しさということを感じることが出来ました。そして本当に楽しんで行うことが出来たので、良かったです。一年生からバスケ面白かったですとか言ってくれ、打ち上げの時にたいちさんと呼びかけてくれた時は、喜びでいっぱいでした。こうした関係は大切に、今後も一年生との交流を深めたいと感じました。あの森で200人という大人数のいる中で、ディスカッションができる環境があるということは本当に幸せなことだと感じました。普段では、アスファルトで覆い尽くされた中でしか生活を送れていないので、新鮮な空気を吸いながら活動が行えたのでいつもよりも、発言も多くでき気持ちが落ち着いた状態で入られたのではないかと思います。

班の中での交流も深まりみんなが意見を、積極的に出していたので、この環境がそうさせたのではないかと感じました。

今後のグル研をしっかりと取り組み班員全員がやりがいを感じられるように、それぞれの意見を尊重し、実際にインタビューを行ったりして、楽しんでもらうことが出来るよう、役立てればと思っています。

【山本郁乃】

3年生で参加した今回の夏合宿を振り返って、どんな4日間だったか一言で表すとしたら、「熱い想いでやりきった4日間」だったのではないかと思います。というのも、私は夏合宿の2か月前程、幹事長の倉田先輩から生活班班長をやってほしいと直々に言われたことが全ての始まりだったのではないと思うからです。正直なところ、生活班班長と聞いて大変驚き、引き受けるのにも時間が掛るほど、責任の重さや不安でいっぱいでした。迎えた夏合宿当日、私はいよいよ始まるという緊張と不安で、去年までの楽しみな気持ちは殆どなく、絶対に成功させる、という強い信念のような気持ちを抱いていました。4日間の夏合宿で印象に残っていることは、まず、2日目の登山です。1日目の夜22時半から2時間ほど行われた幹事会で、明日の登山を先生と3年の吉田と登ることを初めて聞かされました。毎年、3年生の誰かが先生と別ルートに登ることは知っていましたが、まさか自分が今年選ばれるとは想像しなかったので大変驚きましたし、体力は余り自信がない方なので、最後まで付いていけるか心配でした。当日は戸隠高原の広大な自然の中で、先生から山についての知識を教えて頂きながら、たまに雑談を交えながら、非常に貴重な体験をさせて

頂き、思い出に残る濃い時間となりました。2つ目に印象に残っていることは、毎晩に行われる幹事会です。幹事会には幹事長をはじめ、補佐、生活班班長、移動班班長、ディスカッション班班長、イベント班班長、会計班班長など、幹事団の中でも幹事中の幹事だけが出席します。そこでは各班の当日の反省と明日の計画や動きを確認するのですが、生活班や移動班は詰めが甘いため、幹事長からビシビシ厳しい指摘を受けました。「スケジュール通り」にやるためには全て時間を逆算して各班の予定を組み込ませ、連携を取りながら行わなければなりません。生活班は生活班のスケジュールだけでなく、移動班のスケジュールも頭に入れて動かなければ全体がスムーズにいかないことを痛感しました。どんなに話し合っても、当日予期せぬ出来事がいくつも起こります。それでも「スケジュール通り」に物事を進めるためにはハプニングに対して全体を見据えてどれだけ対処できるか、という周りには見えない地味な努力も重要だと思いました。皆が寝ている夜中に、寝る間を惜しんで真剣に会議をする先輩方の姿は今でも鮮明に記憶しています。また、3つ目の印象に残っていることは、宿舎アコールデでの1, 2年生の生活班員の頑張りです。私は生活班班長として4年の仲井久実さんとアコールデに泊まる43人を纏める立場でした。その際、生活班員の1, 2年生をどう動かすかが重要でした。また、生活班員という責任感を3泊の間持ち続けながら、モチベーションを高くもって仕事をしてほしいと思っていました。そこで意識したことは、1, 2年生に頼んだ仕事の報告が来たら、その都度、ありがとう、と感謝の気持ちを伝えるようにしたこと。些細な仕事でもありがとうと感謝されたら素直に嬉しいと思いますし、自分が生活班として頑張ることで皆が安心して楽しく過ごせるのだという見返りを実感してほしいと思ったからです。また、もう一つ意識したのは、指示する立場の私が人一倍働く姿を見せることです。頑張っている先輩の姿を見たら、1, 2年生たちも、自分たちも頑張ろうと思うことが出来ますし、生活班として団結力が生まれるのではないかと思います。その効果が徐々に出てきたせいか、初めは生活班としての自覚が見えなかった人も、徐々にやる気を見せ、次はどうしたらいいですか？何か手伝えることありますか？と意欲的に仕事をするようになりました。具体的には、風呂シフト通りに全員が同じ時間内で入浴を済ませられるようにタイムキーパーをしたり、就寝時間に各部屋回って注意したり、朝食を食べ終わった後の片づけ、最終日のゴミの纏め等々です。あらゆる面で1, 2年生は私や久実さんの指示に従ってしっかり動いてくれ、アコールデの生活班としてこのメンバーでやりきることが出来て本当に良かったと実感しました。最終日の総括では、何を話そうか、自分の番が来るまで決めていませんでした。前に出て、自然と出た言葉を大切にしようと思っていましたが、いざ前に出ると、これまでの苦労や、先輩方・同期の頑張る姿勢や、熱い想いが自分の中で溢れてきて、涙が出てきました。そして自分の番が来、前方に立ってこちらを見ている幹事団の人たちを見ると、より一層熱い想いが込み上げてきて、涙が止まりませんでした。正直、あの場で自分が何をしゃべったか余り覚えていません。フニャフニャと涙声で喋っていたので、途中、横にいらした先生に一言呼びかけられたのに対しすみませんと答えたのは覚えているのですが、皆に私が

喋ったことがちゃんと伝わったかどうか後で心配になりました。しかしそれでも、私の総括が終わると同期の菅野や永沼が駆け寄ってきて声をかけてくれ、4年生からも、ありがとう、よかったよ、総括の空気を変えたの郁乃だよ、と声をかけて頂いたのでとても心に残る総括となりました。また、4年生の総括は一人ひとりから夏合宿に対する熱い想いが溢れ出ていて、聞く人の胸を深く打つものだと感じました。4年生が同期の大切さや成長した姿、頼もしい姿を見せ合い、本当に支えあって頑張ったからこそ夏合宿は成功したのではないかと感じました。幹事団の4年生と同じく、私も「熱い想い」をもってこれまでやってきたと自信をもって言うことが出来ます。来年は私たち3年生が4年生になって夏合宿を引っ張ることになります。そこでどんな総括をするのか、同期の「熱い想い」をととても楽しみにになりました。貴重な体験をさせて頂き、誠に有難う御座いました。

【吉田健人】

私が今回の夏合宿で1番印象的だったことは4年生の先輩方が夏合宿成功に向け全力を尽くしてくださっている姿でした。

先輩方は自ら内発的にもっと良くする方法はないのかと考え、常に先を見据えて行動し、夏合宿をよりよくする為に死力を尽くしてくださっていました。

誘班、生活班の一員としてそんな先輩方を目の当たりにし、先輩方のように自ら考え、先を見据えて行動しなければと思い、挑戦してみましたが、普段の生活の中で人に言われてから行動する事がしみついてしまっていた私は一朝一夕で、先輩方のように動く事は全くできませんでした。来年は先輩方が卒業してしまいます。

来年は自分達3年生が中心となり夏合宿を成功へ導く事になります。

私は来年の夏合宿に向けて、日々の生活の中で自ら考え、先を見据えて行動することを意識し、人に言われてから行動する自分を変えるという目標を立てる事ができました。

夏合宿に参加する事ができ本当によかったです。梅沢先生をはじめ、4年生の先輩方、本当にありがとうございました。

【若佐谷友紀】

夏合宿が終わり、アカデミーの事もアカデミー生の事も自分は今まで知らなかったと気づきました。

今年の夏合宿では去年に引き続きイベント班に、そして新たにディスカッション班に配属させていただきました。正直、ディスカッション班に配属されて困惑しました。この班はアカデミーをよく知っていて先生に頼りにされている人が配属されるものだと思っていたためです。また、夏樹先輩、峯川先輩とはほとんど話したことがなく、菅野とも活動を共にしたことがなかったため配属当初は不安しかありませんでした。

ディスカッション班の活動は、私には初めてのことで頭を使いましたし、効率よくすべての物事を決定することはできませんでした。ですが、この3人と活動させていた

き、とても多くの事を学ばせていただいたと思っています。先輩方からは、相手に伝わるような話の持って行き方や眼には見えないところの細部の配慮を特に学ばせていただきました。菅野からは、誠実に行動することの大切さを学ばせてもらいました。また、アカデミーのことを更に知るとてもいい機会ともなりました。ディスカッション班として活動することで、アカデミー生と触れ合う機会が多く、総括の際に全員と顔を合わせることができたのはこの班でしか味わうことのできない特別な体験であったと思います。

イベント班は去年に引き続きであったため、比較的落ち着いて自分も楽しみながら活動を終えることができました。イベント班はなにがあっても明るい雰囲気です。自然にいい方向へ事が進む、不思議で素敵な班であったと思います。

対照的ですが、自分に刺激を与え成長させてくれた2つの班に配属させていただいたこと大変光栄に思います。今後、今回の活動で得たものを発揮し、伝えていけるよう精進致します。

(2年生)

【赤池隼太郎】

今回の夏合宿は1年生時のただ楽しんでいただけの時とは違い、2年生になって2回目の合宿だったことで、自分のことだけでなく、周りのことにも目を向けようと思いつながりながら合宿に臨みました。例えば山登り。1年生の時は、暑い、疲れた、シャワー浴びたい、早く帰りたい、などと自分のことばかり考え周りには全く目を振らなかったのですが、少し周りを見てみるとやはり何度も往復している撮影班の先輩方が目に入りました。

またキャンプファイヤーでもやはり運営は先輩方がやっていて、プログラムも先輩方がつくったものでした。思えば他にもまだまだバスレクなどありますが、合宿が始まるずっと前から先輩方は準備を進めていて、

この合宿はほとんど先輩方のおかげで成立しているのだということを感じることができ、感謝の気持ちでいっぱいでした。その思いを総括で言おうと思ったのですが、上手く言い表せなくて残念でした。来年は今まで楽しませてくれた先輩方へのお返しとして、楽しむだけでなく、楽しませる側として夏合宿に尽力したいと思います。今年もこの合宿に参加できて良かったです。

【安達聖哉】

今回の夏合宿で思ったことは、去年とは違いただ楽しむだけではなく夏合宿に初めて参加した1年生や新規の方に対して少しでも楽しいと思って貰えるように心がけるという意識をしたことです。去年の夏合宿ではあまり知り合いが少ない中での参加でしたが、同じ宿舎の同期だけではなく先輩方に話しかけて頂き友達を作ることもしれました。また先輩方との交流がとても楽しかったのを覚えています。だから私は、去年先輩方にして頂いた

ことを自分も見習いたいと思いましたし、夏合宿では自分から積極的に話しかけ交流を持ちたいと思っていました。夏合宿では、その目標を達成することができ多くの後輩や先輩方と交流を持つことができ、去年とはまた違う楽しい夏合宿になりとてもうれしく思いました。また、さまざまな人と交流していく中で去年よりも成長した自分になれたのではないかと思います。

今回の夏合宿では私は、班の役職には就いていなかったのですが、たくさんの同期が班の役職に就き夏合宿の運営に関わっている姿が印象に残りました。たくさんの同期が役職に就いていて単純に大変そうだなとか、役職に就くということはどういうことなのだろうと思っていました。また同期のみんなとかなり差がついてしまったと感じました。ただ夏合宿に参加するのと班の役職に就いて仕事をしているのでは考え方や意識も違い、夏合宿に対する見方も変わってくると思いました。来年の夏合宿では自分も何かしらの班に関わり夏合宿に携わっていきたいと思いました。

2回目の夏合宿になりましたがとても楽しくまた有意義な3泊4日を過ごすことが出来ました。貴重な経験をさせて頂き誠に有難うございました。

【石川翔】

夏合宿を通して、私が強く実感したことはアカデミーの団結力と絆です。

この2つを実感するに至った出来事が4つあります。

まず1つ目は、今回の夏合宿で私は撮影班を担当させていただきました。4年生の細川さんが先頭に立ち、日大3年生の岩村さんが中心に立ってまとめてくれていたので、2年生の私達はスムーズに役割をこなすことができました。特に2日目の登山では、細川さんのパワーとメンタルに驚かされました。撮影班は登頂から下山まで仕事が目白押しだったので、皆が疲弊してきている中、細川さんが常に先頭に立って引っ張ってくれていました。私も来年には細川さんのように後輩を勇気付けられるような先輩になりたいと思いました。

2つ目は、キャンプファイヤーです。

イベント班が中心となり、キャンプファイヤーを囲んで皆でゲームをしたり、歌を唄うなどしてとても楽しい時間を過ごすことができました。イベント班の方々が皆を盛り上げようとする姿勢が強く伝わってきて、私もアカデミーの絆を深めるために頑張っていくと強く思える様になりました。

3つ目は3日目の立食パーティーです。たくさん新規生や先輩方と交流でき、今回の夏合宿で1番の思い出になりました。

皆にお酒が配布される場面では生活班の方々がお酒の管理をし、皆をまとめてくれました。幹事長の倉田さんを初め、先輩方のとても強い団結力を感じました。

最後の1つは最終日の総括です。

最初は自分の感想を伝えるので精一杯でしたが、4年生の最後の夏合宿を通しての思いを聞いているうちに、今までの夏合宿の出来事が蘇ってきて、自分ももらい泣きしてしまい

ました。4年生への感謝と尊敬で一杯の気持ちになりました。

最後に今回の夏合宿で私のできることは僅かでした。しかし、4年生を初めとする先輩方のお力添えに少しでもなれたならアカデミー生としてこれ程誇らしいことはありません。今回のこの様な素晴らしい機会を与えて下さった梅沢先生、幹事長の倉田さんを初めとする先輩方、本当にありがとうございました。

【岡安優】

私は今年の夏合宿を終えて思ったことがあります。それは今年の合宿は去年自分が経験した夏合宿とは少し変化のある夏合宿になったということです。私は夏合宿に行く前は後輩の1年生とうまくコミュニケーションがとれるかどうか不安に思っていました。しかし、私は今年から2年生になったので先輩という自覚をもって夏合宿に挑みました。合宿1日目のバスでの移動中、私は補助席だったということもあり、初めは周りの人と話すタイミングをつかめずにいました。しかし隣にいた大東文化大学の先輩が私に話しかけてくれました。そしてその流れで隣にいた1年生とも話すことができました。また、バスレクの助けもあり、その後も先輩と就活についての話や後輩と地元の話などをしてコミュニケーションをとることができました。合宿2日目、山登りやキャンプファイアーに参加し、この夏の思い出を作ることができました。私は何よりその時驚かされたのが、それらのイベントを企画、運営していた先輩方です。先輩方のそれぞれの班ごとに分かれて全力で仕事を全うする姿がとてもかっこいいと思いました。

また、1日目は緊張してあまり同じ部屋の1年生としゃべれませんでした。2日目以降このゼミ活動のを中心に話すことができました。その後ほかの部屋1年生とも空いている時間を利用してコミュニケーションをとることができ、とてもうれしかったです。合宿3日目、この日初めて「グル研」のメンバーと顔合わせを行いました。ディッシュカッション時先輩方はもちろんですが、後輩達の意識の高さや能力の高さに衝撃を受けました。それを見て、私ももっと知識を深め自己主張をしていかななくてはならないのだと改めて痛感しました。その後の打ち上げでも同期達と楽しく会話をすることができて楽しかったです。合宿最終日、私がこの日もっとも印象深く思ったのは総括です。特に今年で卒業し、夏合宿に参加するのも最後になってしまう4年生の先輩方が涙を流しながら語ってくださったお話を聞いたことはこの夏合宿で一番のよい経験になりました。先輩方のお話を聞いて、先輩方全員がこの梅沢ゼミで大切な仲間と巡り合い、多くの経験をして、そして一丸となってこの夏合宿を成功させようとがんばってくれていたのだと感じました。

私は今年の夏合宿に参加して本当にいい体験ができたと思っています。今回の夏合宿に参加することで参加しなかった場合では決して得ることのできなかつた体験と刺激が得られたと思っています。また、今回の夏合宿での先輩方の姿を見て、来年の夏合宿では私も何らかの班に所属して仕事を全うし、夏合宿に貢献し、自分の成長にも繋げていきたいと思っています。そして、4年生になった時には、今年の夏合宿で見た先輩方のような素晴ら

しい人間になっていられるようがんばります。

【小口由季乃】

今回の夏合宿は昨年とは違った充実感を得ることができました。昨年は1年生ということもあって楽しませていただく側として夏合宿に参加させていただき、まだ話したことがない人がほとんどの中で先輩方や他大学の学生との交流を広めることができました。今年は2年生になり、生活班の役職を頂いたので、昨年とは違う立場での参加でした。生活班として4日間活動する中で役に対する責任感を感じるとともに、生活班の仕事を通して達成感を得ることができました。また今回の夏合宿で改めて先輩方の偉大さを強く感じました。

夏合宿中の生活班の仕事は多く大変な面もありましたが、その分やりがいを感じることもできました。しかしその反面で自分の力不足も改めて実感しました。生活班は1つ1つのイベント毎に仕事があり、その場に合わせて迅速に仕事をしなければいけませんでした。事前に生活班全体で仕事内容を確認していたものの予定が変更になることが多々ありました。その際に先輩方は臨機応変に行動し、的確な指示を全体に出していました。私は先輩方の指示が出てから動くことが多く、自分から積極的に行動することができていませんでした。また先輩方の朝早くから夜遅くまで働く姿や自分の仕事が忙しいにも関わらず周りをみて的確な指示を出し、まとめている姿を見て改めて先輩方の凄さを感じました。今回の夏合宿で学んだことを今後活かし、来年も同じ立場で夏合宿に参加させていた際には周りをみて積極的に行動し、運営側としてより夏合宿に貢献していきたいです。

夏合宿最後の総括では先輩方の夏合宿に対する思いを聞き、どんな思いで夏合宿に参加していたのか知ることができことができました。先輩方の強い思いを聞いて、私達の学年も4年生になったら先輩方のような学年になりたいと感じました。今回の夏合宿で学んだことを今後の活動に活かしていきたいです。夏合宿に参加し有意義な4日間を過ごすことができました。ありがとうございました。

【金子誠】

私は去年に引き続き、経営研究会の夏合宿に参加しました。去年と違うのは、今年は2年生で後輩ができたことです。私は今回の合宿ではできるだけ多くの人と関わり、コミュニケーションをとることを目標にしていました。そしてそれは、キャンプファイヤーや合宿の打ち上げ、グループ研究でのディスカッションを通じて多くの先輩、同期、後輩と関わりコミュニケーションをとる目標を達成することが出来たのでとてもよかったです。そしてここからは合宿の感想を述べたいと思います。

まず二日目の山登りは去年も登ったこともあり去年ほどきつくはありませんでしたが、それでも結構きつかったです。しかし道中では多くの人たちとコミュニケーションを取ったり、集合写真をとったりできて楽しかったです。

三日目はグル研の班に分かれてディスカッションをしました。ワークショップとは違って、初めての班だったのでドキドキしました。

そして四日目は200人以上の参加者が一堂に集まって打ち上げをやりました。合宿の打ち上げでは先輩、同期、後輩の人たちとコミュニケーションをとることが出来ました。特に打ち上げ時の2年会では同期との仲をさらに深めることが出来ました。

そして最終日では総括をやりました。自分は緊張してしまい、あまりうまく話せなかったと思います。そして先輩方、特に4年生の話は感慨深いものがありました。自分も4年生になったら今の4年生のように総括できるようにアカデミー活動を頑張っていきたいと思最後にこのような意義のある合宿を開いてくださった梅沢先生、幹事団の皆さん本当にありがとうございました。

【金田彩香】

今回の夏合宿に参加して一番に思ったことは参加して良かったなということです。夏合宿に参加する前はいろいろと不安があり、当初は参加することに対して消極的に考えていました。特にほとんど知らないたくさんの人々と生活を共にするということが最も気に掛かっていました。しかし、いざ参加してみると、山登りやキャンプファイヤー、打ち上げなどの行事や宿舎での生活などを通して、所属する大学に関わらず、様々な人と話す機会を持つことができ、結果的に、この人間力アカデミーの夏合宿に参加したからこそとても有意義な時間を過ごすことができました。また、この夏合宿の中で一番印象に残っている出来事は、3日目のディスカッションと最終日の総括です。どちらを通して先輩方の偉大さを改めて感じることができました。ディスカッションでは、班員の発言を一つの文章としてまとめるなどの文章作成の方法を私たち後輩にも図式を用いつつ、手順を踏んで分かりやすく示して下さったり、話合いが行き詰まったときにはさりげなく案を出して下さったり、とても参考になりました。最終日の総括では、先生もおっしゃっていましたが、特に最上級生である4年生の先輩方が、この人間力アカデミーでの活動に精一杯に取り組んできたからこそその涙を流されていて、私も数年後、涙を流すことができる程に、取り組むことができたと思うことができるようになりたいなと思いました。

正直、この夏合宿を通して数年後、先輩方のような先輩に果たして自らはなることができるのかという不安は高まりました。しかし、来年は私も先輩という立場に立つことになるでしょうし、先輩方も不安を抱えつつ、それを乗り越えて前に進んできた結果が、今の姿に反映されていると思うので、私もそれにならい、この人間力アカデミーの中で一步一步、着実に前に進んでいくことが出来ればいいなと思いました。

また、今後の予定として、まずは、先輩方の姿を見つつ、インゼミ・グル研活動に積極的に取り組むなどのことを通して班に少しでも貢献し、偉大な先輩方の姿に近づくことが出来ればいいなと思いました。

【上假屋優花】

夏合宿を通して、2つのことについて述べさせて頂きます。1つ目は、沢山の新規生と交流することが出来たことです。普段私は受付の仕事をさせて頂いていることもあり、班員以外の人と交流する機会はありませんでした。ただ、実際に話をしたことがある人は少ない上、他大学の新規生に関しては交流する機会がなかったので、今回の夏合宿で交流していきたいと思っていました。実際に夏合宿では、宿舎内や新しいグル研班の新規生だけでなく、2、3日目の宿舎移動や打ち上げの時に他の新規生とも話しました。その結果、沢山の新規生と仲良くなることが出来て良かったです。それだけでなく、自分のWS班の新規生が班員以外の人達と交流している姿を見ることが出来ました。普段の活動では、新規生の殆どが自分の班内ではとても楽しそうに過ごしているものの、空き時間などに他の班のところへ行くということがありませんでした。しかし、夏合宿で新規生達が宿舎内で仲良くトランプをしていたり、打ち上げの時に新しくできた友達と楽しそうに過ごしたりしていたので、その様子を見ることが出来て嬉しかったです。

2つ目は、先輩方の偉大さを改めて感じたことです。今回私は初めて役職に就かせて頂き、ほんの少しだけですが夏合宿の準備に携わらせて頂きました。そこで初めて合宿当日までの動きを、一部に過ぎませんが知ることが出来ました。また、昨年も先輩方がこのように運営してくださっていたことと、来年・再来年は自分達が運営していかなければならないことを実感しました。とはいえ、実際に先輩方の様に出来るかは正直不安です。しかし、最終日の総括で4年生の先輩方が最後の夏合宿を通じての思いを涙しながら語る姿を目の当たりにし、私も2年後には先輩方の様に涙しながら語れる程、一生懸命取り組んでいきたいと強く思いました。

今回で2回目の参加でしたが、初めてできた後輩や初めての役職などと昨年とは少し違った気持ちで参加し、充実した夏合宿を過ごすことが出来ました。

【北村健人】

今回の夏合宿は自分にとって、先輩方の偉大さと自分も先輩になったんだと感じた合宿でした。

私は梅沢人間力アカデミーに入って2年目ということで初めて部屋長とイベント班という役職を務めました。

イベント班では主にバスレクとキャンプファイヤーの企画をしました。キャンプファイヤーではどうしたらみんなに楽しんで貰えるか、どうしたらスムーズに大人数をまとめられるかなどを事前に集まり考えました。当日はみんなの笑顔や、後から楽しかったと言ってもらえた事が一番の喜びでありまた達成感でした。また来年も是非やりたいと思いました。

また、この合宿は倉田幹事長を始めとする先輩方の力によって成り立っていることを裏舞台に参加して初めて知りました。飲み場では生活班の方が飲みすぎないように呼びか

けをしたり、山登りの場では列が崩れないように移動班の方が率先して動いていました。去年まではあまり感じていませんでしたが来年はもっと頑張っただ動かないといけないと感じました。特に四年生の方の率先ぶりには本当にびっくりしました。後輩にもしもの事がないよう常に動いてる姿を見ました。最後の総括での先輩方の涙から合宿をまとめる事の大変さを感じました。

来年は自分がその立場になる番です。今の四年生ほどの力はまだあるとは思いません。でも少なからず近づく事は出来ると思います。来年に向けて成長していきたいと思います。

【黒沢笙太】

私は夏合宿を通しての感想の一つ目は率直に楽しかったと思いました。楽しかったことはたくさんあったのですが一番印象的だったのは宿舎でご飯を食べる時間です。毎日朝晩多くの人と関わり楽しく過ごすことで新たな自分の一面を発見できた気がしました。

二つ目の感想は生活班での活動はとてもハードで大変でしたが大好きな先輩方や同期たちと活動ができて本当に良かったです。生活班の先輩方は幹事会などで私よりも疲れているはずなのに、常に私たちの体調などを気遣ってください先輩たちの偉大さ感じました。そして夏合宿の最終日に仲井さん、山杳さんが私たちの活動を褒めて下さって生活班をやっていて本当に良かったなと強く感じました。来年の夏合宿は私たち2年生がそれぞれ重要な役割に付くと思うのですがそれに向けて自分を高めていきたいです。

【齋藤楓】

今回の夏合宿は自分にとっては二回目の夏合宿ということでしたので、昨年次に満足にできなかったものを重点的に取り組むようにしてきました。そのこととして、この合宿で私は主に、より多くのアカデミー生との会話を重点的に取り組もうとしてきました。昨年の2014年度の夏合宿に参加した時の私は、最初の合宿だったためか極度に緊張していて、なかなか人と交流することができませんでした。そのため、私は昨年度の失敗を繰り返さないために、今年度の夏合宿時では50人以上との交流をし、中でも同時に活動する機会が少ない他大学のアカデミー生(特に一年生)と親睦を深めるという独自の目標を作り、実行に移してきました。結果としては当初の目標であった50人以上と交流するという目標には残念ながら届くことはできませんでしたが、昨年度を大幅に上回る数の方々と親睦を深めることが出来ました。二つ目に、合宿の経験者として新規生に指導をするよう努力してきました。今回の夏合宿では私は班に所属していなかったため、今後の活動の説明など主に新規生の指導、説明などでアカデミーに貢献していこうと思いました。自分は高校三年間の間は具体的な部活動に所属していなかったために、このような後輩指導の経験が少なく、合宿が始まる前から正しい指導ができるのか心配でしたが、合宿以前よりも自主的に動くようになってきたなどの後輩の変化が見られたため、満足のいく結果になることが出来たと実感できました。この、コミュニケーション能力、そして後輩への指導力を身に着ける

ことが出来たのは、このアカデミーを続けてきたからだこそだと私は実感しています。もちろん先輩方やOBの方々に比べれば、まだまだ自分の能力は小さく、全体を導いていけるようなものではないと感じています。この差を埋めるために、私はこのアカデミーを通して力をつけ、上記の能力を向上させていきたいと考えています。そして、今後の春季グループ研究では今回の合宿で学んだことを生かし、素晴らしいものにできるよう努力していきたいと思います。

【坂田悠生】

僕が夏合宿に参加して改めて先輩方は凄いなと思いました。特に4年生の先輩方のリーダーシップや連携、準備など徹底していると思いました。僕は前回のワークショップに参加させて頂きその時は準備と、スケジュールリングが大事だということを教えていただきました。そして先輩方の話では今回の夏合宿でその大きさが良く分かるとおっしゃっていたので今回夏合宿に参加している間はそのことを注意して参加させて頂きました。そこで4年生の倉田さんをはじめとした各宿舎の宿長さんや係の班長さんたちを見てこれだけ大人数をまとめているほぼ予定通りに全てのことをこなしていてすごいと素直に思いました。もちろん夏合宿自体僕自身とても楽しく参加させて頂きたくさんの仲間達と話して色々な繋がりもできてすごくいい経験になりました。

このような体験をできたのも先輩方の準備やスケジュールリングが徹底しているからなのだと思います。来年の夏合宿では僕自身が準備やスケジュールリングをしてみんなを楽しませる側にまわりたいと強く思いました。

【櫻井優樹】

2015年度の梅沢人間力アカデミーの夏合宿をアカデミーの仲間と過ごして、特に感じたことは、後輩指導の難しさと、仲間の大切さです。

私は今回の夏合宿ではアゼリア、すずらんの部屋長を務めさせていただきました。部屋長としての活動は、主に生活班の人と協力して行いました。そこで感じたことは、先輩として後輩を動かすことの難しさを感じました。部屋長だったので、指示を出すのは少人数でしたが、具体的に指示をしなくてはならない場面が多くて、戸惑う場面が多かったです。そんな中、生活班の同輩や先輩方が迅速に行動しているのを見て、驚きました。合宿中に成長している同輩を見て、私も成長したい、負けてられないという気持ちになりました。

また仲間の大切さは、4日間全体を通して感じました。特に感じたときは、山登りの時に互いに励まし合いながら登った時と、打ち上げの時に先輩、同輩、後輩と話した時でした。こんなにも信頼できる仲間、共に活動したい仲間、いつまでも一緒にいたい仲間と出逢えて幸せを感じました。

4日目の総括の時に一番印象に残ったのは、先輩方が涙を流していたことです。私は、今回の夏合宿では、勧誘班班長を務めさせていただきました。私は幹事会に出席して、先

輩方が夏合宿を成功させるために、必死で取り組んでいたのを間近で見っていました。なので私は夏合宿が成功して、涙を流している先輩方を見て、感極まり、もらい泣きをしました。来年私は3年生になって幹事を務めさせていただけるのならば、今年先輩方以上に必死で取り組んで、今年以上の夏合宿にしたいです。

夏合宿に参加して新たな仲間と出逢い、既存生とも仲を深めることができ、これからの活動が楽しみで仕方ないです。仲間を大切に、先輩として確りと活動していきます。

このような貴重な機会である夏合宿を設けていただいた梅沢先生に感謝しています。ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

【佐野恵美】

今年の夏合宿は、昨年参加した夏合宿以上に充実した合宿となりました。今回私は夏合宿で生活班に所属させていただきました。昨年の合宿では、より多くの人と交流を持って4日間を楽しむということが目標でしたが、今年の合宿は、自分自身が楽しむことに加えて、生活班の一員としての意識を高く持ち、夏合宿を成功させようという目標を持って参加しました。生活班という役職をいただいたことに最初は不安な気持ちしかありませんでしたが、配属させていただいたからにはしっかり役割を果たそうと決めて、今回の夏合宿に臨みました。

準備の段階から当日の4日間、生活班として活動して一番感じたことは、先輩の偉大さでした。準備の段階では予約チームとして仲井久美さんや武藤さんに仕事を一から教わり、当日の動きに関しては宿舎長であった山岸さん、また斎藤さんにお世話になりました。また今回宿泊した宿舎の中で女性の生活班員が私だけだったために、一人でやらなければいけない仕事も多かったのですが、幹事長補佐である吉澤歩美さんや他の上級生の先輩方が仕事を手伝ってくださったりもして、大変助けられました。どの先輩も本当に頼りがいがあり、真剣で、また気を遣える方ばかりで、大きな憧れを抱きました。またアカデミー生全員に夏合宿を楽しんでもらいたいという思いから仕事を全うしていることが伝わる場面が多くあり、そういった先輩方がいてくださるからこそ夏合宿は楽しく充実したイベントになるのだなと改めて感じました。

生活班の役回りを通して先輩方の偉大さを再確認することができましたが、生活班に限らず、色々な先輩方のそれぞれの人間の大きさというものも、今回の夏合宿では沢山感じることが出来ました。打ち上げでは3・4年生の先輩と交流を持つ機会が多く、私にとってはその時間が心の底から楽しいと思える瞬間でした。ひたすら楽しい話をして笑ったり、親身になって話を聞いてもらうこともあり、とても充実した時間でした。しかし合宿が終わってみると、4年生と活動できるのはあと半年、3年生も一緒に活動できるのはあと1年半であることに気づきました。同時に、自分はこの偉大な先輩方から何を吸収できるだろうと考えるようにもなりました。まだその答えは明確ではありませんが、先輩の背中を追うことができるということは実は貴重なことであって、そのことを改めて意識するきっかけ

けとなったのがこの夏合宿であるということは強く感じています。最終日の総括にて三年生が、「四年生のような代にしていきたい」と仰っていましたが、私たち二年生も、そんな上級生をよく見て、互いに高めあえる学年になれたらいいなと思いました。そして自分自身も、そんな先輩方に近づけるよう頑張っていきたいと強く思います。

今回の合宿でインゼミグル研班の初めての顔合わせがありましたが、夏合宿で感じたことを忘れずしっかり自己成長できるよう、まずは目の前のグル研の活動を大切にしていきたいと思いました。先輩方の活躍を見て、吸収し、またこれからは後輩に行動で伝えられるようになっていきたいです。

最後になりますが、夏合宿4日間がとにかくとても楽しかったです。たくさんの人と交流できる機会があることに感謝して、これからもアカデミー活動に取り組んでいきたいとします。

【澤田彩葵】

今年初めて梅沢人間力アカデミーの夏合宿に参加した。今年の春にアカデミーに参加し始めてから四か月目、同い年の大東の生徒ですらまだわずかにしか顔と名前を覚えていない状態での参加は不安しかなかった。最初の目標は多くのアカデミー生と親しくなることだったが、結果的にそのことを達成しただけでなくよりたくさんの価値ある経験ができたので、今回夏合宿の組織の一員になれて非常に良かったと思っている。

自分は初対面の人と接することが苦手意識的に避けてしまうが、バスで隣席した日大の先輩は積極的に話しかけてくれた。行きのバスでレクとして他己紹介をした際に、共通の会話を通してその先輩と私の紹介の質は明らかに違っていて早くもアカデミーに在籍している先輩の人間力の高さを感じた。その先輩は他のアカデミー生と比較しても飛び抜けて言葉選びが上手く表現も巧みで、とても魅力的に紹介してもらったことを今でも鮮明に覚えている。その日は到着後にグル研班の顔合わせがあったのだが、たまたま知り合いが二人も一緒だったためリラックスすることができた。その時は、知り合いがいてラッキーだと思っていた。

合宿二日目、メイン行事のうちの二つ、山登りとキャンプファイヤーが実施される日だ。山登りに関して周囲からはマイナスな意見も聞いたが、せつかく大自然に来たのだからということで個人的には楽しみだった。山登りでは登山、お昼休憩、写真撮影、下山などの全てを通じて先輩方の絆と、お互いを最高の仲間だと思っている様子が伝わってきた。先輩方全員がそのような最上級の状態だったかと聞かれればそういうわけではないと思うが、多くの仲間とたくさん話し、笑い、協力する姿を見せている方ほど輝いていた。自分はまだそのような状態とは程遠く、理想とのギャップを感じ、初めて自分自身の立ち位置に物足りなさを覚えた。

キャンプファイヤーでも山登りと同じ先輩方の様子が伺えた。今回の夏合宿は大学のサークルとしては非常に管理がしっかりしている印象を出発前から受けており、どちらかと

例えば中高の修学旅行を彷彿させたが、その中でアカデミー生があれほどいきいきとしていることに驚いた。管理の徹底を先生が行うのではなく生徒の組織が協力して行っていることに中高との違いがあるように思え、そのような環境だからこそ制約感を感じることなく、節度ある中でも最大限にイベントを楽しめるのだと強く感じた。

三日目のディスカッションでは自分の中のアカデミーに対する意識が大きく変わったと感じた。今まで火曜アカデミーは授業の都合や予定によりなかなか最初から最後まで在席することが難しかったため、あまり活動に力が入らなかった。今回のディスカッションを通して一、二年と四年（たまたま三年が班に不在だった）の間に考え方や纏め方、その効率に明らかな違いが存在することを改めて感じ、目標となる具体的な自己成長ビジョンを掴めたように思う。

四日目の総括は体調を崩してしまい、終始不参加となってしまい大変残念だった。総括では涙ぐむ人も多数いたと聞き、一年から四年までの生徒がそれぞれ合宿を通してどのようなことを思ったのかを知ること、またそれを共有することが出来なかったのが心残りだ。また、役職柄お忙しい立場にあったはずの四年の先輩がずっと気にかけてくださり、不甲斐なさ感謝が胸を渦巻いた。

たくさんアカデミー生と親しくなるという今回の当初の目的は、特に朝昼晩の食事時に大きく達成することができた。自分から意識して積極的に話しかけたこともあるが、何より気さくに返事をくれ、さらに話を盛り上げてくれたアカデミー生のおかげで合宿前よりこのコミュニティに溶け込めたように感じた。先生や先輩方の仰っていた通り素敵な人達ばかりだ。周囲に溶け込み始めると、より深く付き合いたいという思いが湧いた。また、夏合宿運営の分業、グル研活動における先輩方の姿を見て、思考力、判断力、行動力、団結力など人としての魅力につながる人間力をもっと身に付けたいとも思った。このような感情は夏合宿に参加していなければ、抱くことはなかっただろう。これから一年間、積極的にアカデミーに参加することで周囲との絆を深めると同時にさらに人間力を磨いた上で来年の夏合宿に臨めば、また違った感情を抱き、違う景色が見えるのではないかと、輝いて見えた先輩に少しでも近づいているのではないかと。来年は三年になるため、合宿に対する責任も増えると思うが、責任を全うすることで今年以上に達成感、充実感、一体感得られると思うので積極的に取り組んでいきたい。これからの活動を通して、そのような責任を与えられるようなキラキラ輝く先輩に近づきたいと思う。副産物と表現するには勿体ないこのような上昇志向が芽生えたことが、夏合宿の意義だったと感じる。

【重岡広樹】

去年は、友達になってくれる人はいるのだろうか、荷物は大丈夫なのか、など、前日はひたすら不安を感じていました。しかし、今年は、去年とは撮影班としてのアカデミー貢献の場を与えていただいたということもあり、きちんと撮れるかなどの不安もありましたが、二度目ということもあり、楽しいことを知っていたため、ワクワクする気持ち強く、

荷物を準備している時から心が躍っていました。また、当日、戸隠に到着すると、澄んだ空気、鳥のさえずり、芝の感触、大地や木々の香りといった、喧騒にまみれた都会では味わえないものを一身に感じて、やはり、自然って素晴らしいものだとは再認識しました。

夏合宿始まってからは、常に撮影班として活動していて、皆さんの良い表情を撮るために、基本的には1日中、カメラを持ち続けてシャッターチャンスを逃さないようにしていました。そんな日々の中で、特に大変だったのは、登山でした。約200人の列の前後を行き来することを3、4回くらいして、汗だくになりながら、無我夢中で、シャッターを押しました。疲労感に戸惑いつつ、去年も撮影班であった細川先輩達は私達が楽しんでいながら、こんなにも大変な思いをしながら、皆さんの思い出を形に残そうとしていたことを身をもって知り、先輩達の苦労の一部を知れたことを嬉しく思いつつ、同時に、感謝の気持ちで溢れてきました。そして、その日から私も先輩達に追いつこうという気持ちがさらに高まり、益々、良い写真を撮ろうと頑張りました。

まとめとしまして、今年の夏合宿は責任や苦勞が増えましたが、その分、やりがいもありましたし、何よりも撮影班の先輩達と一緒に行動し、色々なことを教えてもらい、微々たるものですが、ほんの少しは近づいたのではないかと思います。

最後になりますが、合宿の前も合宿の最中も先輩方、お世話になりました。有り難う御座いました。そして、梅沢先生、このような貴重な体験ができる夏合宿に参加させていただいて、本当有り難う御座いました。

【清水皓平】

今年の夏合宿では、去年よりもさらに充実した夏合宿になったなと感じることができました。合宿に行く前までまだ知らない仲間が多く、自分はしっかりと話をすることができるとても不安でした。そこで今年の夏合宿の目標として去年話せなかったまだ知らない同期や後輩、先輩方と積極的に話をすることでした。グループ研究や山登りなどの活動や宿泊先での会話を通し、意見を言い合って考えを深めることだけでなく、趣味の話などで盛り上がるなどで仲を深めることができました。

また後輩ができたことで、夏合宿からより一層2年生としての意識を持つようになりました。日大1年生だけでなく、大東生にもまだ話したことがない1年生が多かったので、これを機に積極的に声をかけることができました。結果的にライン交換をし、お菓子をあげたことで「カラムーチョ先輩」とまで言われるくらい仲を深めることができました。

今年度の夏合宿では多くの先輩や後輩、同期の仲間と話し、絆を深めることができました。昨年の夏合宿ではまだ入ったばかりということもあり、会話をするだけで満足していましたが、今年は先輩として自覚を持って行動したり、先輩や動機だけでなく、積極的に後輩に話しかけたりすることができ、とても充実した夏合宿にすることができました。来年の夏合宿では3年生ということもあり、班に加わるかと思っています。なので、毎年毎年を充実した夏合宿にしている後輩や新しく入ってくる1年生の為にも、私が班のメンバー

として加わったら、先輩方のようにしっかりと自覚と責任感を持ち、後輩に楽しかったと言ってくれるような夏合宿にできるよう頑張りたいと思いました。

【鈴木久瑠美】

この夏合宿を通して、まず山登りやキャンプファイヤー、大自然の中でのディスカッションなど、普段の生活ではできない事をたくさんすることができ、とても楽しかったです。

また何よりも、多くの人とコミュニケーションをとることできてよかったなと思いました。私の生活した部屋には大東生が多く、最初は不安でしたが、先輩方とお話させて頂いたり、一年生や同期と話すうちに不安がなくなり、毎日とても楽しく過ごすことができました。

最終日の総括では、先輩方のお話にとっても感銘を受けました。毎日みんなをまとめ、ひっぱって行ってくださった先輩方を見て、改めてすごいなと感じ憧れを抱きました。同時に、先輩方を支える同期も積極的に行動していてすごいなと感じました。今度は私もイベントを作り上げる側にたち貢献したいです。先輩方のようになれるよう、また同期に追いつけるよう、これからの活動に精進していきたいなと思います。

【鈴木将太】

私は今回夏合宿に参加させていただいて大きな気づきがありました。そして昨年に比べて違った視点で物事を見ることができました。

昨年の夏合宿は、初めての合宿ということもあり、先輩方に、もうそろそろ準備をするようになど指示を受けて行動していました。しかし今年は同じ部屋の一年生に「もうそろそろ出発するから準備しておいてね」など、上級生として指示をする立場になりました。指示をするときはしっかりしながらも同じ宿舎の人とゲームをして遊んだり、キャンプファイヤーなどの行事を楽しんだりとメリハリのある行動ができたと思います。今回の夏合宿を通して指示をする立場に回ったことで運営に関わっている先輩方がいかに大変かよくわかりました。同じ部屋だった前田先輩は合宿中寝るときしか部屋に来られないほど忙しくお仕事をされていました。しかし、先輩方の夏合宿の総括を見ると一生懸命に仕事をしたからこそ達成感が味わえると思いました。今後は私も達成感を味わえるように頑張って活動していきたいと思います。

【高橋奎太】

今回の夏合宿は移動班として参加させてもらいました。去年とは違い運営側としての参加だったので、新鮮な気持ちで合宿に参加することができました。移動班としては先輩たちのサポートがうまくできたと思いますが、先輩達に負担を掛けてしまった場面もあったのが反省点として残りました。また今回は初めて後輩という存在がいる中での合宿であり、

部屋長にも任命されたのでこれまで以上に一年生の人たちと触れ合うことが出来て後輩とこれからももっと仲良くなりたと思います。

今回の合宿は去年以上に楽しく学ぶことが多かった合宿でした。来年は三年生として今年よりも運営側に関わることが多くなると思うので、今年以上に成長しようと思います。

最後にこのような合宿を開いてくださった幹事の皆様、そして梅沢先生に心より感謝の言葉を述べたいと思います。ありがとうございました。

【高橋伸季】

私の今回の夏合宿での一番の収穫は人脈の輪を広げることができたことです。

私は今回初めて夏合宿に参加して、2年から入った新規生ということで、先輩や同期の知りが少なく、行く前は楽しむことができるか、不安がありました。

しかし、登山やキャンプファイヤーなどの行事を取り組んでいるうちに、大学や学年に関係なく、色々な人と交流することができ、全力で楽しむことができました。OBの藤井さんが「人脈は宝だ」と仰っていましたが、その通りだと実感することができた夏合宿でした。また、私たち新規生が楽しむことができたのは、役職の仕事を自らの睡眠時間を削ってまでこなしてくれた先輩方のおかげだと、強く思います。来年参加するときは是非役職の仕事に携わりたいです。

【寺田佑】

この夏合宿が終わった時に感じたのは大きな達成感でした。この達成感を感じることができたのは、生活班という役割を担っていたからだと思います。私は生活班としての夏合宿を経験するまで、どれだけ大変でやりがいのある役割なのか知りませんでした。主な仕事は風呂のスケジュール管理、就寝起床の管理、その他は移動班と連携して統率を執ることでした。中でも、最も大変だったのは風呂のスケジュール管理です。10分という限られた時間の中で着替えや入浴を済ますようにするのはとても大変でした。また、アコールドの浴場にアゼリアの大部屋の方々が移動する際に雨が降ってしまい、移動班と生活班のどちらが誘導するのか混乱してしまうことや、大部屋の人と連絡が取れないなどのトラブルが起きました。しかし、そのような不測の事態にも先輩方は冷静に対処し、全ての生徒を入浴させることができ、改めて先輩方の偉大さを知りました。

ふと昨年の夏合宿を思い出すと、楽しかったという思い出がたくさんあります。しかし、この楽しい思い出を作ることができたのも幹事団をはじめとする生活班やイベント班、移動班、撮影班、会計班の先輩方が裏でサポートして下さったからだと役職について初めて知りました。来年の夏合宿では今年の反省を活かし、みんなが楽しかったと思えるようにサポートしていきたいと思います。

【洞江はるか】

今年の夏合宿は、私にとって2度目の夏合宿でしたが、昨年とは異なるものでした。昨年は友達を沢山作ることを目標に参加し、とても楽しい夏合宿でした。今年は楽しむことは勿論のこと班活動を一生懸命やることを目標にしました。私は今年の夏合宿では撮影班に配属されました。撮影班の仕事は、皆の写真や動画を撮ることです。シャッターを押すだけなら誰にでもできることですが、この夏合宿の写真は謝恩会やパンフレットに使われるとても大事な写真になります。そのため沢山その素材となるような写真を撮る必要があります。撮影班の仕事はアカデミーを担っていく上で重要な役割であると思います。特に山登りの際の撮影は、体力的にとっても大変でしたが、皆が友達とお喋りしながら登っている姿や雰囲気写真を収めることはとても楽しかったです。撮影班は夏合宿に限らず、報告会や謝恩会などの行事の際にも活動をしていくので、これからも積極的にアカデミーに参加し、撮影班としてもアカデミーに貢献していきたいです。また、夏合宿の中で最も印象に残っていることは、最終日の総括です。1年生から4年生までそれぞれが自らの思いを語りました。特に中心となって夏合宿を運営して下さった3,4年生の中には涙を浮かべながら話している人が沢山いました。私の知らないところで沢山の苦労があることをとても感じました。私たちが楽しい夏合宿を過ごせるのも先輩たちの苦労があつてのことだと思いました。私も先輩方の様に夏合宿の成功に涙を流すことができるくらい来年はもっと夏合宿の運営に関わり貢献したいと思いました。また夏合宿を通して改めてアカデミー生の素晴らしさや人間力の高さを実感しました。一人一人がルールをきちんと守り、積極的にコミュニケーションをとることのできる人が沢山いるように感じました。そのためアカデミーは私にとってとても居心地の良い場所です。このような居心地がよくて成長できる場を大切にしなければいけないと思いました。また同時にもっとアカデミーに貢献していきたいと思いました。

【豊澤慶之】

私は今回撮影班として活動させていただきました。撮影班をやらせていただいて、一つ気づいた事があります。山登りの際、撮影班はアカデミー生の方々を撮らせていただくために何度か前と最後尾を往復しました。山の傾斜を往復することは、あの暑さも加わり汗が全身から噴き出してきました。本当に大変でした。去年も山登りには参加させていただきましたが、今年の山登りはまったく違うものになりました。瑠璃山の1748mというのが本当に長く、高く感じました。私は瑠璃山の頂上に着いた時、本当に感動しました。これまで味わった事のない達成感でした。そして、そこからの景色もまた去年とは異なりました。山頂から見える山々の緑や風、空気、青空、太陽など全てのものが鮮やかに見えました。私はここで、その過程やその時の自分の置かれている状況などによって達成感が変化してくるのではないかと思いました。そして、これは学年や自分のなかの成長などによって変化してくるのではないかと思いました。それはある意味自分の内面を表しているのではないかと思います。本気で一つのことに打ち込むとここまで感じ方が違うものになるの

かと本当に驚きました。来年は3年生になるためにより成長できるように、日々の活動から全力で取り組んでいきたいと考えています。そして、3年生になった時どのような景色を見ることができるか今から楽しみです。

【中村大輝】

今回私は、去年に引き続き、二回目の夏合宿の参加でした。そして、今回の夏合宿では前回一年生として参加した夏合宿とは違った楽しさや達成感がありました。理由としていくつか述べさせていただきます。

まず、一つ目は生活班に配属させて頂いたことです。去年の夏合宿では役職ではなく、ただ楽しむだけの三泊四日でした。ですが今年の夏合宿では、生活班として参加させていただき、楽しみながらも、少し運営に携わらせていただき、組織を運営することの苦労やむずかしさを感じることができました。また、その苦労を感じたことで、先輩方のすごさを改めて実感することができましたし、去年とは違う達成感を味わうことができました。

二つ目は同期の存在です。去年の夏合宿では、ほとんどの人が初対面ということで話すことで精いっぱいでした。しかし、今年の夏合宿では仲の良い同期、先輩とより仲を深めることができたと思います。また、打ち上げの際の二年会には少ししか参加できなかったのですが、話したことのなかった同期とも話すことができとても楽しかったです。また、頑張っている同期を見て、自分もこのままではダメだといいい刺激をもらうことができました。

三つめは先輩・後輩の存在です。今回、二年生になり初めて大学で後輩ができるということで、今回の夏合宿は一年生や今年で最後になる四年生の方々と積極的に話すということが目標の一つでした。その目標は達成できたと思っています。後輩と関わる中で、何よりうれしかったのが一年生から話しかけてくれるということが多かったことです。また、四年生とたくさん話をすることができてとても有意義で思い出に残る夏合宿になりました。残り少ないゼミ活動で四年生の先輩方と積極的に関わり、少しでも先輩方のようになれるように努力したいと思います。

そして、今回の夏合宿では楽しかったことだけでなく、自分の課題を見つけることができました。それは、指示を待つまで自ら考えて進んで行動することができていなかったということです。生活班の仕事をする中で先輩方に頼りきりで、先輩方からの指示をもらうまで自分から行動できていなかったと感じています。これからは先輩方から指示をもらうまで待つのではなく、自分から仕事を探して行動できるようにゼミ活動に尽力したいと思います。

最後になりますが、この夏合宿に参加できてよかったと思っています。梅沢先生をはじめ、幹事団の方々、今回の夏合宿を設けて頂きありがとうございました。

【中村祐】

私は今回夏合宿に2回目の参加となります。今年の合宿は内容の濃い充実した4日間だったなと感じています。

理由といたしまして私は今回撮影班として仕事をしました。撮影班の仕事は大変と聞いていました。しかし実際は大変な思いは全くなかったです。カメラを向けたときにみんなが笑顔でこちらを向いてくれたり、カメラを通してたくさんの人たちと交流が取れたり、楽しいことばかりでした。もし来年も撮影班に配属されるのであればカメラを買い、更に撮影班として積極的に活動していきたいと思います。

2つ目としては後輩と親睦を深められたことです。他大学の1年生とはあまり関わる機会がなかったので今回の夏合宿では、日大生や東洋生の1年生に積極的に話しかけるという目標を立てて臨みました。夏合宿当日は、部屋の後輩から、あまり話したことの無い後輩まで様々な後輩と話すことができました。

3つ目としては夏合宿の運営の様々な班で活躍していた同期の姿を私は見ました。この1年半で仲間の成長を感じ、たくさんの影響を受けました。そんな同期と将来について真剣に話し合う機会もあり、同じ学年なのに自分よりもしっかりした意見や考えを聞いて改めてすごいと思いました。そして同期の皆においていかれないように自己成長し続けたいと、強く思いました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった梅沢先生を始め、夏合宿幹事団の皆様には心から感謝しております。誠に有難うございました。

【西澤伊吹】

今年の夏合宿は、私の中で、昨年と大きく変わっていたことがありました。それは、昨年1年生だったころは、夏合宿には参加する側の立場だったのが、今年2年生になって夏合宿を成功させる側の立場になったことです。先輩として初めての夏合宿だったということで、後輩とも関わることになるということに加えて、私は今回役職を与えてもらい、夏合宿の運営に関わる仕事をさせてもらえたことで、先輩方の力のおかげで夏合宿が楽しいものとなっていたことを目の当たりにしました。その中で、昨年私が夏合宿を楽しく感じられたのは、先輩方が裏で活動してくれたおかげだったのだということに再認識しました。自分が今日までアカデミーに残っていたのは、夏合宿での思い出が少なからず影響しています。夏合宿を気軽に楽しめたのは先輩方の大変な努力があつてのことだったということが改めて感じることができました。そのため、夏合宿当日は、1年生に嫌な思いをさせることのないよう、楽しんでもらえるよう、少しでも先輩方の力になれるよう努めました。

具体的には、部屋についたらすぐに、部屋で一緒になった1年生と言葉を交わし雑談をして居心地がいいと思える部屋にしたり、朝ごはんのとき1年生の多くいる卓に座ったり、登山のときや打ち上げで1年生とも話したりすることで、1年生が窮屈しないようにすることや、先輩の手伝いを積極的に行ったり伝達をしっかりと行うことで、夏合宿のいい流れを崩さないことに努めたりしました。夏合宿前はあまり知らなかった1年生と関わられたこ

とは楽しかったですし、さっそく1年生から頼りにされたのはうれしかったです。また、先輩からも感謝の言葉をもらえたので、より頑張ろうと思えました。

1年生や先輩方と多く交流できた夏合宿で、昨年同様とても充実した日々を過ごすことができました。そして、その充実した夏合宿を作るために多大なる努力を行っていた先輩方の力に再度気付かされました。来年の夏合宿では、今回私が先輩方に対して感じていることを、後輩から感じてもらえるような先輩になっているように、日々のアカデミー活動で精進していきたいと思っています。今年の夏合宿も参加できて本当に良かったです。

【西村成城】

今回で夏合宿への参加は二回目になります。一回目の参加でも人間力を高めることができましたが、今回の夏合宿は前回と比較にならないほど濃く、そして大きく、人間力を高めることが出来たと感じて居ます。

戸隠での3泊4日の中で、私は「もっとたくさんの人と知り合いたい」、「もっと深く語り合いたい」、「ずっと一緒にいたい」、この3つを強く感じて居ました。

「もっとたくさんの人と知り合いたい」。合宿中、できる限り多くの人に話しかけましたが、200人以上もアカデミー生がいる中で全員と時間を取って話すことはできませんでした。しかしそれでも普通に生活を送っていた場合と比べ、かなりの人と話すことができました。今まで話したことがない人と話すことは私にとっても新鮮な刺激を与えてくれます。今まで知らなかった考え方、感情表現の仕方、視点…、どれをみても素晴らしく、改めて自分の視野の狭さ、考え方の偏りを意識することとなりました。こんな貴重な体験が合宿中はそこらにありました。私の人間力は飛躍的に高まり、同時にこれからの生活でも人との出会いを大切にしたいと感じました。「もっと深く語り合いたい」。深く語り合うことで奥行きのある人生観を得ることができます。今までどんな人生を送り、今をどのように感じ、そして先のことをどう考えて居るのか、深く知れば知るほどもっと深く語り合いたいと思いました。合宿中深く語り合う中で、自分の人生を大きく左右するような出会いをしたのだと気づかされる場面が多くありました。その様に考えると、この合宿自体が私の人生に大きな影響を与えたと考えても自然です。人生観に深みを得るという形で人間力を向上させることができたこの合宿は最高のもので、また人生の転機でもあったのだと感じました。

「ずっと一緒にいたい」。最も強く感じていたのがこの想いです。この想いは今も強く私の心に残っています。合宿で出会った素晴らしい人たちと一緒に人生を創っていきたい、お互いに人間力を高め続けたい、そう強く感じました。改めてこの合宿は一生涯の友人を作るには最高の環境だったのだと感じさせられました。自分と語り合った多くの人が同じ思いを抱いてくれたのなら、それこそ『「熱く、真っ直ぐな思い」を持って周囲の人と接することができる“力”』である人間力を相互にかつ最大限に高められたのではないかと思います。登山、キャンプファイヤー、ディスカッション、打ち上げ…。イベント自体はもちろん素晴らしいものでした。ですがその素晴らしさを何十倍にも引き上げる素晴らしい仲間

が、この合宿にはいました。夏合宿は私の人生の転機となりましたが、そこで出会った仲間はこのからの私の人生に半永久的な影響を与え続けるだろうと思います。そして影響された私がまた誰かに影響することでアカデミーで得た素晴らしい人間力が加速度的に、また時間を越えて伝わっていくのです。自身の人間力を高めることが出来、またそれを伝えていくきっかけとなったこの合宿は私にとって本当に素晴らしい経験となりました。梅沢先生をはじめ幹事団のみなさま、そして宿舎のオーナー、バスの運転手さん、他多くの方に支えられ夏合宿を充実させることができました。本当にありがとうございました。

【根本萌】

今回の夏合宿は、不完全燃焼という言葉がぴったり合う夏合宿でした。まず、去年と大きく違うことは、役職をいただけたこと、後輩がいるということの2点です。去年はひたすら楽しみ、先輩の凄さを実感し、私も先輩のようになりたいと思っていました。今年はその先輩の立場であるのにもかかわらず、なりたかった先輩にはなれていませんでした。

勧誘班班長という役職をいただけて本当に本当に嬉しかったです。日大側の女子会を任せただけ、無事大成功で終わることができました。日大一年女子の総括を聞いていても、皆、不安ではなく目標を持って参加していた様で女子会を開催してよかったと思いました。しかし、私は勧誘班の仕事として女子会の開催ということしかしておらず、他の仕事は野中先輩が全部やってくれているから頼まれたときだけ仕事をしよう、という受け身の姿勢でしかいませんでした。野中先輩は生活班も兼任していて、少しは負担を減らさなければならなかったはずであるにもかかわらず、自分は何をしていたのだろうと反省しました。日大2年女子2人は準備から当日まで本当に頑張っていて、とてもキラキラ輝いていて、1年生からみたら素敵な先輩であったと思います。また、先輩方からみてもとても頼りがいのある後輩であったはずです。私からみてもとても魅力的でした。それとは対照的に自分は受け身の姿勢でいて、当日も特に仕事もなく、自分がなりたかった先輩にはなれていませんでした。また、今年的一年生はとても力がある後輩ばかりでこんなことをしていたらどんどん追い抜かされてしまうし、先輩としてみてもえなくなります。なので、普段のゼミ生活から、自ら進んで仕事をし、貢献し、成長意欲をもつことを忘れずに今後の活動に参加していきます。そして、来年の夏合宿ではやりきった！と言えるようにしたいです。

【野村勝也】

私は今年の夏合宿に参加し様々な体験をすることができました。1年生の時は、自分が楽しめれば良いと考えていました。

しかし、学年が1つ上がり、今回は新規生が入り、自分の背中を見る人ができたので、だらしないところを見せることがないように心掛けていました。

そうしているうちに、自分だけでなく他の人の行動も見えるようになりました。

その結果、合宿が円滑に進むように、時間を調整したり、班員に連絡をしたり、後輩が分からないことを教えてあげたりしている3、4年生の凄さや存在の大きさを実感することができました。

3、4年生から刺激をもらえる貴重な体験ができてよかったです。

【萩原麻友】

私は梅沢人間力アカデミーに2年生の6月頃参加したため、初めての夏合宿となりました。夏合宿に参加する前は、不安ばかりが募ってしまい仕方ありませんでした。同期は1年生の頃からアカデミーに参加しているのに対し、私は2年生からの参加となってしまうためです。そのため当日、戸隠へと向かうバスの中でも合宿中に孤立しないか、また行動にしても考え方にしても、みんなと比べて遅れをとらないかなど不安ばかりでした。当時の私を振り返ると、引け目を感じてか最初は1年生や初対面の同期にも敬語を使い、自ら壁を作っていたように感じます。しかし、夏合宿が始まってすぐに後輩、同期、先輩が気さくに話しかけてくれたおかげで、その不安はすぐに消えて行き、自ら積極的に話しかけるまでになりました。山登りやキャンプファイヤー、ディスカッション、打ち上げなどのイベントで初対面の人と仲良くなることができ、合宿後遊びに行く予定を決めるくらい仲良くなった人もいました。特に私が一番リラックスできた時間は、同室の人たちとの時間です。腹を割って相談が出来る人が同室にいたことで、心に余裕ができ、夏合宿を楽しいものへと変えてくれたことに間違いありません。

この夏合宿は私にとって濃い4日間でした。こういった機会がなければ、私は今でも不安を抱え、このサークルを続けると決心することはできなかつたと思います。このような機会を与えて下さった梅沢先生を初め、夏合宿運営に携わっていたアカデミー生に深く感謝しております。誠にありがとうございました。

【平良木惇哉】

今回の夏合宿では、友人の少なかつた私でも大学の垣根を越えて友人を作ることができ、とても有意義な夏合宿を過ごすことができました。そして、自然豊かな環境で心身とも癒すことができました。来年も参加させていただきたいと考えています。ありがとうございました。

【福本将也】

私は今年の合宿で2回目の参加になります。去年は、話したことのない同期に話しかけて友達を増やすことで精一杯でした。しかし今年は2回目ということもあり、たくさんの後輩、先輩とお話しすることができました。またピアロッキーの部屋長を任されていて、

初めはしっかりと仕事を行えるか不安でした。しかし合宿を終えて振り返ってみると、朝ごはんの時間に部屋の人を起こすことや、点呼をしっかりととることができたので仕事をしっかり行えたのではないかと思います。来年はさらに重要な仕事を任されるかもしれないので、与えられた仕事はきちんとこなし、合宿を楽しみたいと思います。

【松井桃香】

今年の夏合宿も去年に引き続きたくさんの思い出を作ることが出来ました。その中でも特に印象に残ったのがキャンプファイヤーです。去年と違うところは、今年はイベント班の班員として、ゼミ生の皆さんを楽しませる側として参加させて頂いたところです。毎週土曜日に会館に班員全員で集まって、どうしてもゼミ生の皆さんが気持ちよく楽しむことが出来るかを、試行錯誤しながら話し合いを行ってきました。

また、これだけの大人数をスムーズに移動させるにはどうしたら良いかを重点的に考えました。しかしこの集まりに対して、思っていた以上に会館は遠く、実を言えばなんとなく気持ちの上で積極性に欠ける部分がありました。ですが、班長である大東4年の阿部向日葵さんをはじめ、同期の大東2年の北村健人など、自ら会いに行きたくするような頼りがいのあるメンバーが周りにいてくれたおかげで、実際には楽しく多くの活動に参加することが出来ました。そして何より、キャンプファイヤー当日にゼミ生の皆さんが笑顔を浮かべながら、楽しんでくれている様子を見て、微力ながらも班活動に積極的に参加してよかったなと思いました。

また、この経験を活かして、来年の夏合宿がより楽しくなるように努めたいと強く思いました。このような貴重な体験ができた夏合宿を企画してくださった梅沢先生にお礼申し上げます。有難う御座いました。来年の夏合宿もとても楽しみです。

【的場麻美】

私は今回、2回目の夏合宿に参加させていただきました。今回参加して印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、撮影班として、わずかながら運営側に関わらせて頂いたことです。今回撮影班に配属されて、ただ参加するだけであった昨年とは違った学びを得ることができました。撮影班は事前準備であまりできることがなく、当日の状況によってそれぞれが臨機応変に動かなくてはなりません。正直あまり撮影の経験がなかったため、カメラを使いこなしていい写真を撮ることができるのか、自分で考えて行動することができるのかと不安なことばかりでした。しかし、先輩方の姿を見ていて、来年は自分もあんな風にならなくてはならないのだと感じ、多くのことを学ぼうと意識して活動することができました。特に撮影をしながらの山登りは少し大変でしたが、とても心に残るいい思い出となりました。また、4日間を通して気付いた課題をしっかりと反省し、来年はさらによいものを残すことができるように行動をしていきたいと思っています。

2つ目は、今まで話したことがない人や仲の良かった人ともさらに絆を深められたことです。普段は、活動のときに会って話す程度の接点しかありませんでしたが、4日間みんなと一緒に過ごしたため、自然と会話をすることが増え、新たな一面を知ることができました。この大切な仲間と今後お互いに支えあい、高めあえる存在となって活動をしていけたらと思います。

今回の夏合宿は昨年とは比べ物にならないほど楽しく、多くの学びを得ることができました。今回得たものを無駄にしないように、今後の活動にしっかりと生かして頑張っていきたいと思います。

【宮崎弘樹】

私は、昨年の夏合宿でとても緊張した事を覚えています。今年は友達や知っている先輩もいたので、緊張する事はありませんでした。そのため今回の梅ゼミ夏合宿では新規生を中心に積極的に声をかけ、関わり合う事で沢山の人と知り合って、今まで以上に深い人間関係を作るように心がけて過ごす事を目標に望みました。その中で私が夏合宿で強く感じた事が2つあります。1つ目は、先輩方が私と比較した時にとても偉大であるという事です。私は今回の夏合宿で仕事に就いていなくても、先輩としてできる事があると思い新規生の緊張感をほぐすために、積極的に声をかける事や部屋長が忙しくていない時に、部屋のメンバーを少しでもまとめるように心がけて行動しました。しかし、キャンプファイヤーやイベント、ディスカッション、登山などを成功させた時、先輩方のまた一段と成長した姿を見ると、私自身もまだ成長不足を感じる部分がありました。先輩方に近づくためにも積極的に行動し続ける事が重要だと改めて実感しました。2つ目は人脈の大切さです。私は大東側に、あまり友達や知り合いがいなくて不安がありました。何とか夏合宿をきっかけにして、人脈を広げようと思い、大東の友達と一緒に話した事のない人と関わり合う事ができました。私のグル研班は、初対面の方々が大半なのでグル研などを通じて作った人脈を大切にしていこうと考えています。

これら夏合宿で強く感じた事を忘れずに、グル研では活動に沢山貢献するため、積極的に行動して先輩の自覚を持って望もうと考えました。今回の夏合宿も充実した3泊4日を過ごせたのでこれから1日1日を無駄にせず、自己を高めていこうと思います。

【森本時央】

今回、私は移動班という役職を与えて頂きました。去年参加させていただいた際には、先輩達に企画していただいた楽しいイベントに参加するだけでした。1年が経過し、今年は合宿参加者全員を無事に移動させるという責任を持って参加しました。実際に始まってみると、先輩方の指示通りに動くのが精一杯で、自分で考えて動くということが少し足りなかったように思います。また、移動班班長である小池さんをはじめとする先輩方の手伝いをもう少しできたら良かったという後悔が残りました。

しかし、最終日まで大きな事故もなく、登山や宿舎間での移動がしっかりできたのは移動班や生活班の協力があったからだと思います。無事に終えることができて本当によかったです。

また、自分が部屋長を務めさせて頂いた部屋には優秀な1年生、同期がおり、とても円滑に4日間を過ごすことができました。頼りがいのない部屋長の指示をしっかりと聞いてくれたこと、夜には一緒に人狼ゲームをしてくれたことに感謝したいです。

この4日間で得た経験を大切にこれからの活動をがんばりたいです。

【安岡万菜】

今年の夏合宿も私にとって、非常に価値のある5日間であったと思います。昨年は1年生で分からないことが多かったこともあり、先輩方からの指示が出るのを待って行動していました。しかし、今年は2つの役職を与えていただき、共に私を成長させてくれたのではないかと思います。勧誘班班長では、4年生の偉大さを感じ、私も4年生のような仕事のできる頼れる先輩になりたいという目標を持つことができました。あぜりあのめのう部屋の室長では、後輩に指示を出すことのむずかしさを実感することができました。

勧誘班班長に選ばれたことを聞いたときは、正直なところ「なぜ私なのだろう。やりたくないな。」とっていました。というのも、大東の2年で班長になったのは私ひとりだったので不安だったからというのと、夏合宿当日も仕事をしたいとっていました。しかし、先輩から私を班長に選んだ理由を聞いてから、この仕事に対するモチベーションが一気に上がり、自分にできる範囲の仕事は、積極的に取り組むようにしました。夏合宿当日に勧誘班の仕事がなかったのは、やはり物足りない感がありましたが、中心になって運営する先輩方の姿を夏合宿前の準備期間に間近で見て、4年生の偉大さを改めて感じることができました。

今回の夏合宿で得たものを今後のアカデミー活動にも活かしていき、4年生のような先輩になれるように、これからも成長し続けたいです。来年の夏合宿はまた学年が1つ上がるので、今年以上に仕事が増えるとは思いますが、自分自身が楽しむことも忘れず、ひとりでも多くの方が楽しかったと思える夏合宿を運営するサポートができたらいいなと考えています。5日間とても楽しかったです。このような機会を与えてくださった梅沢先生、班長に選んでくださった先輩方、夏合宿中に私と話したり、写真を撮ったりしてくださったみなさん、本当にありがとうございました。

【山口将治】

私は今回の夏合宿にはとても楽しく参加できました。また、非常に充実したものであったと感じています。それには、2つの理由があります。

1つ目の理由は、同期の仲間たちです。今年の同期の夏合宿参加者数は昨年の夏合宿参加者数と比べると少なくなっていました。しかし、同期達の夏合宿に対するモチベーショ

ンは去年より高いように思えました。私は、たくさんの同期が役職についており合宿中にとっても忙しそうに作業をしている姿を頻繁に目にしました。そして、その同期達は、忙しい中にもそれぞれやりがいを感じて作業していたように見えました。私は、今回の夏合宿では役職についてはいませんでしたが、合宿中の役職に就いていればよかったと今では後悔しています。だから、次の機会には何か役職に就き作業してみたいと思いました。

2つ目の理由は後輩の存在です。私は、今回で夏合宿への参加は2回目になります。そこで、去年と今年で絶対的に異なる点として1年生という後輩の存在がありました。さらに、私の宿泊した部屋が大部屋ということもあり、他の部屋よりも1年生の人数が多いということもあって、自分の中では去年とはかなり違った夏合宿でした。もちろん、大部屋には先輩もいらっしやっただのですが、役職の仕事などで忙しく大部屋の全員をまとめることはとても大変そうでした。このようなこともあって私は、自分のためだけでなく周りの人のために動く場面もあり、その大切さと難しさを体験できました。この体験ができたのは先輩方の的確な指示はもちろんのこと、私の指示に素直に従ってくれた後輩のおかげです。本当に感謝しています。

最後に、このような貴重な体験ができた夏合宿を行っていただき梅沢先生をはじめ、幹事団の方々、先輩方、同期の仲間、後輩達には本当に感謝しています。ありがとうございました。

【山本幹人】

今年の夏合宿では3、4年生の先輩方の素晴らしさに気づくことのできた3泊4日であったと感じた。今年は2年生ということでイベント班の一員としてキャンプファイヤーのお手伝いをさせていただくことになった。去年の夏合宿では、なんとなく参加しなんとなく3泊4日を過ごしていた。しかし、夏合宿成功にはここまでの長い年月の準備があつてのものだと知りとても驚いた。当日も先輩方は一晩中寝ずじまいで、夏合宿成功のために動いてくれていた。そんな姿を今回は身近で見ているととても感動したとともに、自分もこんな先輩方を見習っていきたいと感じた。

去年と比べサークル内では仲良くさせていただいている多くの同期、多くの先輩方がいたので今回は存分に楽しむことができ、本当にいい思い出となった。

新規の1年生とそこまで交流できなかったのが唯一の心残りではあるがこれから始まるグル研等を通し仲を深められたらと思う。

来年は大好きな4年生がいないのは本当に悲しいが、3年生としてそんな先輩方に負けなくらいの夏合宿を作りたいと思う。

【吉澤幸村】

今回の3泊4日の夏合宿を通して感じたことは3つあります。

まず初めに非常に楽しかったということです。登山やキャンプファイヤーなど多くの人

と関わる機会があり非常に濃い時間になりましたし、初めてあった人たちと笑いあえることができ楽しく4日間を過ごすことができました。

次に多くの学びを得ることで充実していたなと思いました。グル研の話し合いや一人一人の感想などを聞くことにより価値観が広がったように感じました。

最後に安心という気持ちを一番強く感じました。

2年生ながら新規で入ったため1年間やってきたグループに馴染めるかどうか不安を感じていましたし、日大でも知らない人が多い中大東文化大学の人も居るという環境にも不安がありました。しかし、打ち上げのあとの学年会で意外と多くの新規生がいたという事実を知ったのと既存生が気持ちよく受け入れてもらえたことにより非常に安心することができました。この夏合宿を通して多くのものを得ることができ非常に充実した濃い合宿だったと感じ、参加してよかったなと思いました。

【和田遼太郎】

私が今回の夏合宿に参加して感じたことは人との繋がりは大切にすべきだということです。夏合宿の統括では四年生の先輩方が涙ながらにそれぞれの思いを語っていました。その姿は私の心にとっても残るもので、私も将来先輩方のようになりたいと強く思いました。先輩方は縦、横の繋がりがとても強く、みんなで協力しあっていて私の目にはとても魅力的にうつりました。私も他の2年生や1年生との繋がりを強化し、今後のゼミ生活を充実したものにしていこうと思います。

最後になりますが、このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生、幹事団の先輩方、本当にありがとうございました。

（1年生）

【赤坂聖馬】

今回の夏合宿に参加させていただいて、今まで交流することができていなかった人と、様々な企画を通じて交流することができ、夏合宿に参加して本当によかったと感じています。

参加以前は、先輩方や同期と親しくなれるかといった不安もあり、参加することに対して前向きに考えることができませんでした。しかし、実際に参加してみると、先輩方が気さくに話しかけてくれて、3日目の打ち上げ後の1年生会などの企画もあり、同期との仲も深めることができ、不安が一気に解消されました。また、合宿中は共同生活ということもあり、先輩方と接する時間も長く、貴重なお話をたくさん聞くことができ、とても充実した3泊4日を過ごすことができました。来年は、生活班などの役割が与えられたならば、自分から行動できるように、今年の先輩方を手本に役割を全うしたいと考えています。

【浅利誠吾】

私が今回の夏合宿で感じたことは主に二つあります。

一つ目は今まであまり関わることのできなかつた先輩や同期とお話することができ、交流できたことです。今回の合宿では部屋で一緒に過ごす人や、グループ研究などで今まで話すことがなかつた日大生、そして大東生とたくさん話すことが出来ました。そのほかにも打ち上げなどでも先輩や同期と関わり様々な話を聞いたことは自身にとってとても身になりました。

二つ目は先輩方の積極的な行動力、そして統率力を感じるということがことです。私はこれからの目標としてリーダーシップのある上級生になりたいと考えています。そして今回の合宿ではその模範となるような数々の先輩方と交流できました。班長や部屋長など、それぞれの長がしっかりまとめあげ、物事を進めていたことにとっても憧れました。今後の活動ではこのようなリーダーシップをとれる先輩を目指し活動に励んでいきたいです。

【天野航太】

自分はこの夏合宿で様々な人と友達になれてとてもよかつたです。また、普段の生活では体験できない山登りやキャンプファイヤー等ができ、楽しかつたです。

夏合宿が始まる前は、どうなることかと不安でしたが、一日目が終わる頃にはそのような不安もなくなり、楽しめるようになりました。これも企画を考えたくださった先輩、同じ部屋で指導して下さつた先輩、一緒に楽しむことができた同期がいてくれたからだと思います。本当にみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。自分は今回の合宿では楽しませてもらっている側だったので、自分がこれからみんなをまとめられるか心配ですが、先輩方のように周りの人に助けを借りて、共に頑張っていけば大丈夫なのかなと思ひ、少し安心しました。最後の総括では四年生が涙ながらに話しているのを聞き、自分も最後は泣けるように、そのために全力で臨んでいこうと決心しました。自分が四年生になる頃には、今の四年生のようになれているかわかりませんが、今から少しずつ自分を鍛えていこうと思ひました。

【新井浩暉】

戸隠についたときに最初に思つたことはすごい山の中だと思ひました。あと、夏なのに涼しいなと思ひました。しかし、こんな山奥で何かあつたら大丈夫なのかと不安に思ひましたが、何事もなくてよかつたです。

初めは宿の部屋などに知っている人がいなくてさらに、1年生が自分以外日大生でとても不安でした。ですが、すぐ部屋の人たちと仲良くなることができました。大東や日大という垣根を超えて仲良くなることができました。部屋だけでなく宿の人たちと学年を超えて仲良くなることができました。夜はみんなとジェンガやトランプをしてとても楽しかつたです。

2日目の山登りはワークショップ班での登山で3、4年生はいなかったですが、班員の人たちとさらに仲良くなれたと思います。登山中は、日差しがきつく2リットルのペットボトルと500ミリリットルのペットボトル2本を持つての登山だったのでかなり疲れしました。その後のキャンプファイヤーのじゃんけん列車では2回ともすぐに負けてしまったけれど楽しかったです。他にもマイムマイムやアンケート結果発表、質問コーナーなど楽しませてもらいました。

3日目のグループ研究の班でのディスカッションでは、インバウンドについての話し合いでテーマと活動日を決めました。班での顔合わせはこれが初めてだったのですが、みんないい人たちでよかったです。

打ち上げでは、話したことのない他の宿舎の人とたくさん話すことができとても楽しかったです。

4日目の朝に諸事情で帰ることになったのですが、この合宿でたくさんの友達と貴重な経験ができました。この合宿で改めて人脈の大切さを知ることができました。また、同じ部屋だった先輩から目標を持ってそれを達成することで自分に自信を付けることの重要性を教わりそれを実践して行こうと思いました。この夏合宿を通して少しは自分が成長できたのではないかと思います。これからのグループ活動などを通してより成長できるように頑張っていきたいと思っています。この合宿でお世話になった宿の方々や幹事の方々、そして梅沢先生のおかげで初めての夏合宿がとても楽しいものになりました。また来年も是非参加したいと思っています。

【新井良太】

私の合宿に行く最初の目的は、できるだけたくさんの友達を作ることや先輩に顔を覚えてもらうことでした。しかし、途中からはたくさんの友達より真面目な話をちゃんとできる少数の仲間がほしくなりました。理由は先輩方のお話を聞き、そして行動や会話を見て羨ましく感じたからというのと、この経営研究会にきている同期の中でもこの先のことをちゃんと考えている人がいるということ、またそうではない人もいるということにも気づけたからです。結果三泊四日の合宿を通して、これから信頼して付き合っていけるような仲間ができ、そして先輩方からたくさんの有意義なお話を聞かせてもらうことができました。この合宿での経験を大切に、これからの活動に励んでいきたいです。

【安藤さくら】

夏合宿に参加して大東はもちろん他大学とも関わりが増え多くの友人を作ることができました。バス内でのオリエンテーションで顔や名前を覚えられたし合宿に対する緊張もほぐれました。合宿所に着いてから240人の前で自己紹介など人生初めてで本当に緊張して何を話したのかも覚えていません。2日目の山登りはワークショップの班での最後の取り組みでした。みんなで登った山からの景色は本当に綺麗で達成感で溢れていました。三日

目のグル研班での顔合わせでは、先輩方が緊張をほぐしてくださいました。まだ不安はありますが、頑張っていきたいです。また、卒業なさった先輩方のありがたいお話も聞くことができ、社交に入って良かったと思いました。夜の立食パーティーでは、他大学とも交流できたくさんの友人を作ることができました。また、梅沢先生のありがたいお話も聞き改めて社交という場を作ってくださった梅沢先生に感謝するとともに、社交として活動できる喜びを感じました。四日目の総括では、途中から体調不良の話を聞く事ができませんでした。自分自身も発表することができなかつたのですが、来年もこの夏合宿に参加したいです。

不安しかなかった夏合宿も、良い意味で期待を裏切られた夏合宿になりました。素晴らしい機会を作ってくださった梅沢先生に感謝するとともに、夏合宿で出会えたサークル生に感謝したいです。本当にありがとうございました。

【飯田百恵】

今回、夏合宿に参加したことで改めて仲間の大切さ、先輩方の偉大さを感じる事が出来き、また自己の成長にもなりました。参加する前は、先輩方が口を揃えて「夏合宿は楽しい」とおっしゃっていたため、「どんな合宿になるのだろう。」という期待の気持ちもあった反面、日本大学、東洋大学の学生や社会人交流会でまだ話したことのない同期や先輩方と交流できるということで、初めて会った人の前で上手く自分を出す事が出来るのかという緊張や不安もありました。しかし、同じ部屋だった先輩と同期がすごく優しく気さくな方だったので、そのような不安は初日で無くなりました。それから同じ宿舎の同期や先輩と交流する機会が多く、輪が広がっていくのを実感することができ、嬉しく感じました。二日目の登山では炎天下、そして小学生以来の登山ということもあり正直大変でした。しかし、目的地に着いたときの達成感とそこから見た景色が綺麗で、久しぶりに自然を体感することが出来ました。夜のキャンプファイヤーでは、イベント班の方々を中心に盛んに盛り上がり、今まで話したことの無かった人と話す機会もあって楽しい時間を過ごすことが出来ました。三日目のディスカッションでは初めてグループ研究の班員との顔合わせで、私はこの日まで班員の方と交流出来ていなかったのが緊張でした。しかし班長さんをはじめ、個性豊かなメンバーが揃っており、またディスカッションを行った際には1人1人が自分の考えを持ち積極的に発言をしていて、色々な人の価値観に触れることも出来ました。このような調子で今後の活動も楽しくなりそうだなと思いました。夜の立食パーティーや一年生の親睦会でも、次々と輪が広がっていくのを実感したと共に、自分のコミュニケーション力が少しずつ上がったという実感も湧きました。最終日には、先輩方の総括をお聞きになって、やはり学年が上がっていくごとに夏合宿に対する思いというのは違うのだなと思いました。この3泊4日、私たちが充実して過ごすことが出来たのも先輩方のサポートがあったからこそその充実さであり、先輩方1人1人が夏合宿を成功させようと必死に自分の役割を全うしており、その姿がすごくカッコ良かったです。自分も先輩方のよ

うな人間力を身に付けたいと思いました。特に四年生の涙からは、このアカデミーの素晴らしさと仲間の大切さを学びました。このように3泊4日という期間の中で多くの同期や先輩と関わったこと、自己の成長にも繋がったこと、社会人交流会は素晴らしい組織だということを感じることが出来た合宿でした。先輩方のサポート無しでは、このような楽しい合宿は味わえなかったと思います。

幹事長さんをはじめ、先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

【生島秀一】

今回の合宿では、友達100人作るにはなれませんでした。大東文化大学や東洋大学など様々な大学の人と話すことができました。いつもは日大でサークルが行われているので他大学と話したりすることがなく、今回が初めてでしたので、最初はとても不安で、初対面の人と話することができるのかと思っていました。また新しいグループ研究のメンバーとはうまくやっつけられることができるのか不安に思っていました。

でも、実際に行ってみると気軽に話すことができ、またグループ研究では新しいグループの人と積極的に話すことができとても良い経験になりました。今回のプログラムは、梅沢先生の言っていた通り友達100人作るには最高のプログラムだったと思います。実際何人の方ともlineを交換したりすることができましたし色々な人と話すこともできましたのでまた来年も参加したいと思いました。その時は班に属し楽しむ立場から運営する立場になりたいと思います。

【石川舞】

初めての夏合宿の率直な感想は先輩方の偉大さを感じたということです。先輩方が企画、運営など、私たちの想像をはるかに超える大変なご苦勞をなさってくださいましたからこそ私たち一年生や新規生が楽しめたのだと思います。

私が一番思い出に残っていることは4日目に行った総括です。1年生の発表では合宿を楽しめた、成長できたなどの意見が沢山聞け、これからこの同期とアカデミー活動を頑張っていこうと思いました。2、3年生の発表では夏合宿後の抱負や合宿を通して学んだことを述べておられていたのが印象的でした。その中で特に印象的だったのは大東文化大学3年生の山杳さんです。山杳さんは発表の前に泣いてしまっていて発表できなく、少し時間をおいてから発表していましたが、その言葉にはとても重みがあって、このアカデミーをととても大切にしているのだなと感じました。4年生は最後の夏合宿で、笑顔で発表されていた方や泣いて発表されていた方など様々でしたが、4年生の皆様はとても堂々としていてとてもかっこいいと感じました。私は先輩みたいになりたいと強く思ったので、これからのアカデミー活動を通して先輩のようになれるよう、努力していきたいと思っています。

今年の夏合宿は純粋に楽しんだ夏合宿でしたが来年は運営する側になり、私も夏合宿を

成功させるために力になれたらと思っております。これからのインゼミ・グル研では班活動を積極的に参加してインバウンドについての研究を深めると共に班の絆も深めていきたいです。

【石川諒太】

私はこの夏合宿に参加させていただいて印象に残ったことをいくつか述べさせていただきます。

1点目は以前の自分よりも積極的に行動ができたことです。自分は基本的に受身な人間で初対面の人に話しかけることは苦手でした。しかし、この夏合宿では多くの人に話しかけることができ、すぐに仲良くなれたのは正直驚きでした。また、グループ研究の時では以前なかなか自分の意見や発表をすることはできなかったのですが、今回はしっかりと自分の思いを伝えることができました。自分が多少成長したのかもかもしれませんが、やはり周りの方々が素晴らしい人間が多くて助けられたのが一番の要因だと感じました。

2点目は多くの先輩と交流させていただいたことです。以前はwsの班の先輩としか交流がなかったのですが、夏合宿は日大、大東、東洋の先輩と会話をさせていただきました。特に印象に残っている方は、普段はユニークな方なのですがしっかりとした考えをお持ちで将来のビジョンもある程度決まっているというお話を聞いて驚きました。また、どの先輩にも共通していることがコミュニケーション能力が高く、初対面の方とも会話が盛り上がっていてすごいと思いました。年齢は2、3歳しか変わらないのですがここまで自分と差があるとは思いませんでした。

そして最後の3点目は、この夏合宿が想像以上に楽しかったことです。正直、最初は初対面の方と寝泊まりをするのは苦痛だと思っていましたし、数あるイベントを楽しめるのか不安でした。しかし、そのような不安は全く関係なく心の底から楽しむことができました。

私はこの夏合宿を通じて確信したことがあります。それは、先生がおっしゃっていたように梅沢人間力アカデミーで活動をしていけば自分自身を大きく成長させることができると感じました。だから、これからも今以上に積極的に活動に参加していきたいと思えます。

【石橋礼唯】

私は最初に夏合宿の話を知ったとき、今回の夏合宿に参加することにたいして乗り気ではありませんでした。私は単純に面倒くさそう、他大学の生徒と同じ部屋になるのは不安だなと思っていたのです。しかし先輩方の体験談を聞いて自分も人間力を上げる何かを掴めるかもしれないと考えて結局私は合宿に参加することを決めました。

それでもバスに乗る前は緊張が多少ありました、バスの乗車席を見たとき、同じバスには知り合いと呼べる人がほとんどいなかったからです。しかし長野に到着するまでの間に同じ列の同期、先輩方と交流を深めることができ、私の不安はどこかへ霧散していき、そして自分に自身を持つことができました。これからの4日間は自分にとって必ずプラス

になると思いました。

それだけに2日目の山登りを新しいグループ研究班で登れなかったのは、これから長い付き合いになるであろう班のメンバーと交流できる時間が少なくなるということを示していたのでとても残念でした。私にとって久しぶりの登山はいい交流の機会だと考えていました。

しかし3日目に初めてグル研のメンバーが集まって、自己紹介や雑談をして楽しく話していく内に、2日目班で登山できなかったことなどたいした問題じゃないと私は感じました。班の方々のコミュニケーション能力の高さに驚きましたが、私も十分自分を出していったのと感じたからです。これまでの2日間だけでも人間力が少しは上がったと思ったので私は嬉しかったです。

宿舎の一年生とは3日目までにはほとんど仲良くなれましたが、ほかの宿舎に宿泊しているアカデミー生徒とは2日目のキャンプファイヤー後の自由時間や3日目の打ち上げを通して交流をしました。梅沢先生がおっしゃっていたように100人の友人ができたかは分かりませんが、これらのイベントや一年生会を通して少なくない数の、日大生のみならず他大生を含んだ同期や先輩方と話ができました。

私はこの合宿に参加して積極性という人間力を手に入れることができたと思います。それは合宿中のさまざまな魅力的イベントとそれを作り上げ、また私達をサポートしてくださった先輩方のおかげだと思っています。今では参加して本当に良かったと思っています。来年もおそらく参加すると思います。そのときは自分の力を伸ばすだけでなく後輩のサポートもしていきたいと考えています。

【泉谷亮】

私が夏合宿に参加した理由は大東だけでなく、他大学の人達と交流する機会を作ることや今までに関わったことがない先輩と交流することができるからです。

私は入学してから友達が少なくて合宿で友達をたくさん作れるチャンスだと思いました。初めての合宿で緊張していましたが先輩方が優しく声をかけていただいたおかげで気持ちが落ち着きました。

夏合宿1日目は朝に池袋に集合して2号車バスに乗って出発しました。初めは隣の席が誰なのか分からなかったので話しかけることができませんでしたが、話しかけないと始まらないと思っていたので積極的に話しかけてみました。そしたら相手からも色んな話をしてくれて仲良くコミュニケーションとることができました。2号車は日大生が多くてほとんどの人が知らない人で不安でしたが相手からも色んな話をかけてきてくれたのでバスの中ではレク等やりながら楽しく遊ぶことができました。

宿舎に到着し、私はあぜりあの喫煙部屋でした。喫煙部屋だったので少し心配でしたがそんなことはありませんでした。他の部屋の喫煙者が吸いに来た時も吸うだけではなく話しかけてくださり、仲良くさせていただきました。1日目は何もなくて終わり、2日目は山登

りとキャンプファイヤーをやりました。

山登りではWSの班と登りました。仲が良い12班と頂上まで登ることができて幸せでした。久しぶりの山登りだったので登れるか心配でしたがみんなと楽しく協力しながら登りました。キャンプファイヤーはみんなと踊って歌ったりして盛り上がることができました。

3日目は新しいグル研の班で集まり活動が始まりました。みんなと仲良くなるために積極的にコミュニケーションをとることができました。

これからはグル研としての活動が多くなると思うので積極的に活動に参加していきたいと思います。4日目の総括では1人1人が前に出て発表する中、1番感動したのは4年生の発表です。涙を流しながらも梅沢先生に対して発表している姿を見て感動しました。私も4年生になった時には今の先輩方のようになれるように頑張ります。夏合宿を通して、色々な人とコミュニケーションをとることができ、社会人交流会のチームワークの大切さを知ることができました。ありがとうございました。

【板野祐里】

私は第一に、三泊四日の合宿に行ってよかったと思いました。先輩方が口をそろえて「とりあえず夏合宿までは続けたほうがいいよ」と言っていた意味が分かりました。東京では味わえない自然が豊かで涼しい環境の中での生活がとても居心地がよかったです。この合宿で先輩方の偉大さを改めて実感しました。朝早くから夜遅くまで起きてみんなのために働いたり、陰ながら支えてくれたり、私たちを楽しませようと一生懸命イベントを考えてくれたりと先輩方の力の凄さに驚きました。私も来年は先輩方のようになりたいと強く思いました。また、バスや部屋、グル研の班で全く知らない人と交流することが最初はとても不安でした。しかし先輩が積極的に話しかけてくれて最初の不安がなくなり、色々なお話しをして盛り上がり楽しかったです。一年生会でも自己紹介から始まり、ゲームをやり、なかなか他大学の人と交流する機会がなかったので良い機会でした。

この合宿を通して沢山の素晴らしい先輩や同期と仲良くなれました。今後アカデミーでもっと頑張ろうという気持ちになりました。年に一度の貴重な機会に参加して本当によかったです。

【一場空杜】

今回の合宿で先輩、同期色々な人と交流をすることができました。たくさん先輩と食事の時に一緒にさせていただいたりもしました。先輩とたくさん関わって知ったのが、先輩の真面目さと偉大さ、そして何よりも素晴らしいと感じたのは、オンとオフの切り替えの早さでした。先輩方は僕ら後輩と楽しむときは凄く楽しんでいましたが、役職の仕事となると、顔つきが変わり、まるで人が変わったかのように200人をまとめたりしていて、先輩方が支えてくださった合宿で自分は楽しむことができたのだと感じました。来年、再来年はどんどん挑戦していこうと思いました。

また、初日、最終日と 200 人の前で話す機会があり、そこで感じたのは自分の無力さでした。あそこで緊張しているようでは、社会で通じないと思いました。しかし、もっと積極的になって来年は堂々と話したいと感じました。

先輩たちの背中を見て、先輩から後輩へ受け継ぐことの大切さを学んだので、しっかり受け継ぎ、後輩が入って来るために良い準備をしたいと思いました。合宿を通して、たくさんの人と関わり人間力を高めることができました。今後の活動で生かしていきたいと思います。

【伊藤陽香】

夏合宿に参加して、私の中で一番印象に残ったことは、全く関わったことのない人や大東、東洋の人と仲良くなれたということです。普通にアカデミーの木曜日だけに参加していただければ仲良くなれたとしてもあまり親睦を深められなかったと思います。しかし、3泊4日の間、テレビや携帯の電波が繋がらないような空間を共にすることでちゃんとその場にいる人同士が関わり合えたと思います。ましてや、大東や東洋の人は、顔すら知らないで今回参加して初対面でぐっと仲良くなれたのは今回の行事がない限り出来ないことでした。そして、他のサークルには無いような貴重な体験だったと思います。なぜなら、他のサークルは趣味ややりたい事が同じ仲間が集まってサークル活動していくのに対して、梅沢人間力アカデミーはサークル内で成長したい、という大きな括りの中で集まっているので、趣味もやりたい事もそれぞれ違う人が集まって活動しているからです。様々な人間がいる中で力を合わせてワークショップやグループ研究をしていくのはとても魅力的だと強く思います。新しく振り分けられたグル研の班でも、力を合わせて頑張ります。

【乾将大】

自分は様々な人と交流を持ち、自分の今後についてよく考えることが出来た合宿だったと思います。

今回の合宿では200名もの学生が参加していたので様々な人と交流を持つことが出来ました。例えば、あまり関わる機会が少ない他大学の方々や今まで挨拶程度しか交わしてこなかった同期とも様々な話をする機会があり親睦を深めることが出来ました。勿論仲の良かった同期とはより親密な関係になれたと思います。

特に今回の合宿では先輩達の様々な企画や新入生に対する細やかな対応、引率などにとっても刺激を受けました。4年生の総括を聞いて自分も4年生になった時にあのような素晴らしい総括が出来るようにこのサークルで努力していこうと思いました。

また、今回の合宿で同期も同じように思っている人が多くその人と今後について話すことが出来たのは今回の合宿で一番良い経験になりました。

私はグループ研究や今後の活動に積極的な参加を心掛け、今年で卒業されてしまう4年生や3年生の先輩から様々なことを学びたいと思っています。

【猪股将太】

率直に述べると、今回の夏合宿は本当に楽しいものだった。

行きのバスに乗る前こそ、「これからの四日間、上手くやっていけるかな……」と、正直とても心配に思っていたが、いざバスに乗ってみると、周りの先輩たちは気さくに話しかけてくださったし、隣の席の同期とも仲良くなることもできたため、抱いていた不安はすぐに消えた。

合宿二日目に行われた登山とキャンプファイヤーはとても楽しかった。登山は登っている時こそ大変であったが、仲間と励まし合いながら登りきった頂上から眺めた景色は本当にきれいだった。

三日目のグループ研究班で行われたディスカッションでは、先輩たちが素晴らしい意見を出す姿や、出された意見をまとめる姿を見て、先輩たちの実力の高さと自分の未熟さを改めて知ることとなった。それと同時に、私も先輩たちのような実力を身につけられるように努力していこうと決意した。

冒頭でも述べたが、今回の夏合宿は本当に楽しいものだった。これは、先輩たちが月日をかけて入念な計画を練ってくださったおかげであると思う。私も来年以降は楽しむだけでなく、楽しみ楽しませるための計画を練ることに携われるようになりたい。そのために必要な力を、今後のサークル活動に全力で取り組んでいって、身につけていこうと思う。

【岩宮綾香】

オリエンテーションの時にはあまり思わなかったけれど、合宿当日の全体集合の時の人数の多さに驚きました。また普段のワークショップの集まりの時などは大東生がほとんどなので日大生が半分以上いることにも驚きました。

今回の合宿で後悔していることは予定があり途中で帰宅したためディスカッションに参加できなかったことです。グループが新しくなるので最初の顔合わせ、話し合いに参加したかったです。

一番印象に残っているのは山登りです。大人数での山登りだし、サークルでの山登りなので「軽く登ってすぐ終わるのだろう」と正直思っていました。登っていると傾斜がきつかったり砂利道だったりとかなり大変な山登りでした。しかし上り下りの時間が長かったのでもいるんな人たちと話すことができました。普段の集まりの時、授業がありいつも途中参加だったので同じグループの中でも話したことがない人がいたのでこの山登りで話せてよかったと思いました。

宿でのご飯の時や夜の自由時間にも同じ大東生だけでなく日大や東洋生とも話せたのでサークルで顔見知りが増えてうれしかったです。

来年もサークルを続けていたら途中で帰ることのないように三泊四日を楽しみたいと思いました。

【植村英明】

私は夏合宿参加前、充実した合宿にできるのか正直不安でした。前日までずっとどうしたら自分にとって充実した合宿にすることができるのか考えました。その中で自分は、梅沢先生をはじめ、先輩方が準備してくださった素敵な環境のなかで、楽しみながら友人の輪を広げることこそが充実した合宿にする上で重要なことだと考え、それを目標として合宿に臨みました。実際に合宿に参加してみると、山登りとキャンプファイヤーなど、どの行事も一生心に残るくらい楽しく、友人の輪を広げるという目標も達成することができました。

また、人それぞれの総括を聞くことも自分にとって刺激になりました。特に四年生の先輩方の話は経営研究会に在籍していることがどれほど価値のあることかを再確認にすることができる良いきっかけとなりました。自分も四年生になった時に、今年の四年生のようになりたいと思いました。今年是一年生として合宿に参加する側でしたが、来年は運営に携わる側として参加したいです。

【大熊純司】

今回の夏合宿を経験して、沢山の人の考え方を知ることができました。特に、そのことを感じる事ができたのが、最終日の総括です。それは、1年生の感想だけでも合宿で一人一人違う感じ方をしており、さらに、学年が上がるにつれて合宿に対する気持ちの強さや考え方、感じ方に自分の意志を持っており、さすが先輩だなと感じました。また、その中でも合宿を成功させるという共通点があり、一致団結していて改めて先輩方の団結力の強さを感じました。私も先輩方のようになるために日々、努力していきたいと思えます。

【大背戸貴一】

夏合宿を通して経験したことは、仲間との協調性や団結力や改めて仲間の大切さを知ることができました。合宿に参加する前は不安な気持ちが多く仲良くなれるかなど不安で一杯でしたが何気なく話しかけた一言で話が弾み大東の同期や先輩だけではなく、他大学の同期や先輩とも交流が深められました。またキャンプファイヤーや登山などの体を動かして大勢のアカデミー生が友に行動するのは不思議な感じがしました。頂上に登り着いた時の達成感は大変な思い出になりました。そしてこれから始まるグル研では大東だけの班ではなく他大学の人と混合なのでこれを機に、ディスカッションや話し合いを行い、より班の中を深めたいと思っています。

【大田美希】

今回初めて夏合宿に参加しました。私は、夏合宿前に行われた日大の女子会に参加することができなかつたですし、日大の同期でも知らない人がたくさんいたり、私が泊まった宿舎は大東の人が多かつたりと、最初はこの夏合宿を楽しめるか不安でした。しかし、そんなことを心配する必要は全くなく、すぐに同期や先輩、たくさんの人と知り合いになることができました。特に、同じ部屋になつた大東の同期とは、今でも連絡を取り合うほど仲良くなることができました。夏合宿で知り合いになつた人との繋がりをずっと大切にしていきたいです。

また、今回の夏合宿で先輩の偉大さを改めて実感しました。同じ部屋になつた先輩は生活班として、宿舎の人達に指示を出したり、お酒の管理をしたり、夜中まで話し合いに出たりと、部屋に戻ってくるのが少なく、大変そうでした。大変な思いをしていた先輩方のおかげで私達一年生は楽しめているのだなと強く感じました。私も、来年は何らかの形で夏合宿が成功するようにサポートし、新規生に夏合宿来てよかつた、楽しかつたと思ってもらえるように頑張りたいです。

【大友太陽】

私はこの経営研究会の夏合宿を通して先輩方からお話していただき、同期の友達もたくさんできて充実した四日間となりました。私自信、合宿でたくさんのことを学ぶことができたと感じました。

私は特に登山が思い出に残っています。元々田舎に住んでいましたが、東京に来て一度も自然に触れることがなかつたのでこの合宿で久々に自然を感じることができました。また、登山を通してワークショップの班の人たちとさらに交流が深まつたと思っています。

また、合宿で先輩方の仕事の頑張りにとっても魅せられました。今回の合宿で撮影班の撮影枚数に驚き、生活班の先輩方は夜遅くまで会議をしていたというのを知りました。先輩方の活躍がなければ合宿は成功していなかつたと思ひました。私も役割を持って夏合宿を盛り上げてみたいと思ひました。

来年の活動では、もっと積極的に他の人とも交流し、自分の役割を見つけ、より充実した合宿にしていきたいと思ひます。

【岡崎貴之】

私は今回の梅沢人間力アカデミーの夏合宿で今まで体験したことがない事を経験することができた。その中でも印象に残っていることがいくつかある。

一つ目は多くの人と交流することが出来たという事である。私は合宿前一つの目標を立てていた。それは多くの人と交流しようという目標である。私は今まで積極的にコミュニケーションをとろうとする事が苦手であつた。そこで今回の機会を利用してそれを克服しようと考えこの目標を立てたのである。そして今回の合宿ではおよそ200人の人が参加した。その中では日本大学だけでなく大東文化大学や他の大学の多くの人達がいた。その大

人数の中で私は積極的に人に話しかけることを意識することを心掛け目標通り多くの人と交流することができた。自分で立てた目標を達成することができたことにより合宿で経験したことの中でこの事が大きく印象に残っているのである。

二つ目は4日目の総会での先輩方の姿である。総会でそれぞれが感想を語る中、先輩方の姿から自分たちのやり遂げた仕事からの達成感や仲間への思いを感じることができた。私はそんな先輩方の姿から上級生としての存在を感じることができたのである。ここから総会での先輩方の姿がこの合宿の中でとても印象に残っている。

私は今回の合宿を通じて貴重な経験ができたと思う。是非次回も参加したいと思えるような合宿であった。

【沖殿夏来】

今回この夏合宿では山登り、グループ研究などを通してたくさんの先輩や同期とお話をする機会がありました。夏合宿以前には顔も知らなかった人、なかなか話しかける勇気が出なかった人とこの機会に交流をすることができ、本当に良かったと思います。このサークルは人数がとても多く、知らない人もまだまだいるのでこれからもっと人脈を広げていけるように頑張ります。

また、生活班として活動をさせていただく中で、先輩方の偉大さに気付かされました。指示をしたり、臨機応変かつ冷静に行動する先輩を見て自分はまだまだ未熟者だと実感しましたし、これから先輩方に少しでも近づけるよう努力しようと思いました。また、注意を受けたりアドバイスを頂いたりする中で、何か与えられたことに対しての責任を持つことの重要性を学びました。この合宿で学んだことは数え切れないくらいあります。この経験を活かすことができるかはこれからの自分次第だと思うので、一つ一つの活動に忠実に、一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

【加藤沙織】

私は、今回の夏合宿は2日目の夕食からの参加でした。なので、もう輪ができているところに行くには勇気がいりましたし、うまくとけこめるか、仲良くできるか等不安ばかりがありました。しかし、そのような不安はすぐにはなくなりました。宿舎や同じ部屋の人には皆フレンドリーで、ゲームやお話をして、すぐに馴染むことができました。

この夏合宿で特に楽しかったことは、キャンプファイヤーと3日目の夜の打ち上げです。キャンプファイヤーではじゃんけん列車やフォークダンス等、全く知らない多くの人と手をつないで走り回ったりして、とても楽しかったです。アンケートの結果発表では、今まで知らなかった先輩方の一面を見ることができた気がして、おもしろかったです。打ち上げでは、それまでに仲良くなった人とご飯を食べてお話をしたり写真を撮ったりして盛り上がりました。その後に行われた一年生会も、WSの班、グル研の班の人をはじめ、多くの人と和気あいあいとした雰囲気です話すことができ、楽しかったです。

また、一番印象に残っているのは総括です。特に、4年生の総括が印象的でした。先輩方が涙を流しながら話しをしている姿を見て、これからも社会人交流会で頑張っていこうと思いました。この夏合宿が楽しく終わることができたのは、幹事長をはじめ、幹事団、役職に就いている先輩方、等々が睡眠時間を削って仕事をし、盛り上げて下さったお陰だと強く感じました。今年はまだ楽しむことしか考えていませんでしたが、来年からは自分も先輩方のため、後輩のために夏合宿に貢献できるようになりたいです。

【加藤美波】

私は今回経営研究会の夏合宿に初めて参加させていただきました。

夏合宿参加前、部屋割りを見ると日大生が私ひとりだったため、「同室の人と打ち解けられるだろうか」「本当に友達がたくさんできるのだろうか」ととても不安でした。しかし、いざ部屋の人たちと話してみると、皆さんとても気持ちよく接してくれて、不安がひとつ消えました。

一日目の全体顔合わせの際、夏合宿での目標や意気込みを発表しました。私は、大学や学年関係なく沢山のひとと仲良くなること、夏合宿の全てのイベントを楽しむことを目標として発表しました。

二日目は、山登りで途中心が折れそうになりましたが、馴染みのWS8班のメンバーが一緒だったので、班員に助けられ無事山頂まで登りきることができました。また夜のキャンプファイヤーでは、大きな炎を皆で囲んで盛り上がり、楽しい時間を過ごせました。

三日目、新しい班でディスカッションをしました。初めて顔を見る人ばかりでしたが、特に先輩方が真剣にディスカッションする姿が格好良いなと思いました。さらに夕方からの打ち上げでは、本当に多くのひとと話しました。今まであまり関わりの無かった大東サイドのひととも様々な話で盛り上がり、大学の垣根を越えて楽しむことができました。

最終日の総括で、私は初日に発表した二つの目標が達成出来て良かった、本当に楽しい夏合宿だったという感想を述べさせていただきました。しかし4年生の先輩方はほとんど皆、目に涙を浮かべながらお話しされていました。考えてみれば、私たち1年生が「楽しかった」「また来年も参加したい」と言えたのは、4年生をはじめとする多くの先輩方が一生懸命準備をしてくださっていたお陰でした。一生懸命って素敵だなと感じたので、来年は自分も役職について先輩方を支えられる存在になりたいと考えています。充実した3泊4日でした。ありがとうございました。

【鎌田英壱】

今回の夏合宿のような体験は今まで経験がなく初めてのことだったので、どういう感じなのか雰囲気分が分からずうまく楽しめるのか不安だったのですが、キャンプファイヤーだったりその後の打ち上げだったり、いろいろなひとと和気藹々と楽しい時間を過ごすことができました。そとにブルーシート引いて弁当、ではなく日本と中国の経済関連を話すの

はここにいなかったらまず体験もできないことで、今になって考えてみてもなんとも説明できない不思議な気分です。ただ、資料をいただくまで関心がなかったとはいえ、話す中で自分とみんなとの知識量、考え方にかなりの差があったことにショックをうけて、悔しく思っていたのがほとんどでした。今後予備知識を踏まえたくて良い発言ができるように努力していこうと思いました。新しいことに気づくことができた有意義な時間でした、参加して良かったです。

【鴨志田溪太】

私は他の大勢の1年生も言っていたように、夏合宿が始まる前はとても不安でいっぱいでした。しかし、サークルのほぼ全員が出席する大イベントである夏合宿をただ参加するのでは意味がないと思い、ワークショップで学んだ積極的に多くの人に話しかけ関わることを目標に設定しました。

そして合宿を終えた時には大学や宿舎の垣根を越えて日大だけでなく大東や東洋の同期、先輩たちと知り合うことができるととても充実した合宿生活を送ることができました。話したことがない人に話しかけていくうちに話しかけることに緊張感や不安感が薄れていきました。

また、登山やキャンプファイヤーなど数々の企画を楽しめたことや合宿中快適に過ごせたことは先輩方の弛まぬ努力のおかげであると思いました。生徒たちのきちんとした生活を管理する生活班、スムーズな移動を促す移動班、合宿のあらゆる場面を撮影する撮影班、イベント企画し盛り上げるイベント班などの先輩方の活動ぶりを見て格好いいなと思い、自分もそのように人が楽しいと思えるような活動に貢献できるようになりたいと思いました。そのためにはこの人に仕事を任せてみたいなと思ってもらえるような人間になることが不可欠だと思います。そのような人間になるには責任感や誠実さやユニークな人柄が特に必要だと考えました。そしてそれらを得るのは人脈が必要だと思います。それは自分なりに考えた結果なので正しい答えはこれからも模索していきますが、人脈を広げることはどの場面でも必要だと感じます。だから、これからも合宿で学んだ人脈を大切さを意識しながら日々の生活を過ごしていきたいです。

【川野邊りえ】

今回夏合宿で特に印象に残ったことは、二日目の登山です。普段、運動する機会がなく、体が鈍っていたということもあり、途中で登ることを辞めたいと何度も思いました。しかし、先輩方が優しく声をかけてくださったり、同期が笑わせてくれて、最後まで登ることができました。改めて社会人交流会の縦のつながり、同期で支え合うことの大切さを学びました。新しいグル研の班も発表され、日大の人と初めて一緒に作業するのでお互いの意見を上手くまとめて、自分の成長に繋がる活動にしたいです。夏合宿ではあまり日大の人と話すことが出来なかったのが、グル研やその他の活動を通し日大の人とも仲良くなりました。

と思います。来年の夏合宿も楽しみです。

【川村翔悟】

最初は合宿なんて行かなくてもいいのものだと感じていましたが、4日間で先輩方の行動や言動に志というものを感じました。やっぱり、私たち1年生はまだやるべきことがわかっていない中でも自分から率先して行動することが大切になってくると思いますし、それに先輩方に負けない志を持っていないとやっていけないのだと思いました。

この夏合宿で得るものはほんとに大きかったと思います。

【菊田徹】

夏合宿ではキャンプファイヤーや打ち上げなどのイベントで大東だけでなく日大の方々ともお話しする機会がありました。いろいろな先輩方と話す中でこのアカデミーは大変だけどやりがいがあり絶対続けた方がいいと言われました。どの先輩方も言ってらっしゃるので続けてみようと思いました。

グルケンの活動でのディスカッションでは、先輩方や同期もしっかりした意見や提案をしていて、自分が未熟だと感じました。

これからの活動では、いろいろ調べてみなさんに貢献できることをしていきたいです。この夏合宿に参加して得たことを今後のアカデミーのみならず、日頃の生活にも活かしていきたいです。

【菊池聡美】

私が夏合宿を通して一番大切だと思ったことは、発言力です。そのように感じた理由は、グループ研究の班でインバウンド消費について話し合った時に、自分に発言力がないと相手には伝わらないのだと実感したためです。私は他人に説明すること、伝えることが苦手なので、自分の意見をうまく話すことができませんでした。しかし、同じ班員の先輩が自分の意見をしっかりと他の班員に分かりやすく伝えているのを見て、自分に必要なものは発言力だと知ることができました。また、改めて先輩方の凄さが分かりました。

この夏合宿では、たくさんの方々と関わる機会がありました。今まであまり話したことなかった先輩方や同期のみんな、また他大学の人たちとも交流することができて、交友関係を広めることができたと思います。また、以前から仲の良かった同期のみんなとは、今まで以上に仲を深めることができたと思います。

私はこの夏合宿を通して、たくさんのことを学ぶことができました。これからも経営研究会でたくさんのことを吸収していきたいです。

【岸佑樹】

今回の夏合宿に参加する前は楽しみな気持ちもありましたが、初めてだったためその反

面で不安も大きかったです。しかし実際にバスに乗って長野に向かい、宿舎で一泊した頃には今までの不安だった気持ちが嘘だったかのように楽しく過ごしている自分がいました。部屋の一緒だった人たちとはすぐに打ち解けあうことができ、思い返してみるとあの同期や先輩方で良かったと心から思います。登山やキャンプファイヤーも一部天候で実施できるか心配なところもありましたがどちらも無事大成功という形で終われて良かったです。キャンプファイヤーのような大規模なイベントは百を超える大人数でないと実現できなかったのだろうと思いこのサークルの大きさを改めて感じました。3日目のグル研の顔合わせからのディスカッションでは「なぜこのアカデミーに在籍しているのか」というテーマで班の人たちの様々な思いを知りこれからのディスカッションでもさらに親睦を深めつつ活動していけるような気がします。大学、学部、学年問わず交流し人脈を広げることが出来ました。短い間でしたが様々な価値観にも触れることが出来たのではないかと思います。このように様々な価値観に触れられたのも打ち上げと題した立食パーティーや学年ごとに分かれて開いた一年生会という機会のおかげです。夏の忘れられない一つの思い出として残ったのですが、今回この夏合宿が成功したのは夏季休暇が始まる前から計画、準備をなさっていた先輩方、当日私たち一年生を統率、盛り上げてくださった先輩方、そしてこの夏合宿という機会を設けてくださった梅沢先生のおかげだと再認識すると同時に感謝しております。

【木藤弘樹】

私は、今回の戸隠高原での3泊4日の夏合宿を通して様々な経験をしました。それは私が普通に生活をしていてできるような経験とは違い、とても刺激的で印象深くそして自分の価値観が一新するものでした。

この合宿に参加する前まで私は、内向的な性格で自分から人に話しかけることが苦手でした。この合宿の内容を聞いたとき、知らない人と関わる機会が多く、4日間もやることができると不安な気持ちでいっぱいでした。1日目のバスでの移動の時から、話したことのない人と隣の席になり、私はとても緊張していました。しかし同じバスに乗っていたイベント班の先輩方がレクリエーションをして、バスの中の雰囲気を盛り上げていただいたおかげで、緊張がほぐれて隣の人と楽しく話すことができるようになりました。

2日目は、瑠璃山での登山をしました。自分は登山経験がなく今まで運動部にも所属したことがなく自信がありませんでした。しかし合宿に行く前の経営研究会の活動で、ワークショップの寺田先輩が、「登山は疲れるし大変だったけれどそこで得た友達や経験は絶対に他で体験することはできない。参加して本当に良かった」とお話になったのを聞いてとても楽しみにしていました。実際に登山して、私は寺田先輩の話していたことを実感することができました。登山中に何度か立ち止まってしまったときに、同じワークショップの小山先輩が私を励ましてくれて一緒に付いて居てくれました。そして頂上に立った時の感動は今までで一番心を奮わせ涙が自然と流れてきました。

3日目のグループディスカッション、打ち上げの場では、様々な人と話をすることでコミュニケーションをとることの大切さと難しさについて学びました。初対面の相手に、自分の考えや想いを伝えるためにはどうすればうまくいくのか、それについて常に考えさせられました。そのこともあってか、ディスカッションは深い話をすることができ、打ち上げでは同級生、先輩方と仲良くさせていただく機会を得ることができました。

4日目の総括では参加した人たちがそれぞれの感想を、全員の前で発表しました。私は、合宿に来る前のことと来てから変わったことなどを思い浮かべ、自分自身の思いを精一杯話すことができました。そして私が総括の中で印象深かったことが、4年生の先輩方の話でした。この合宿を支えてきた先輩方の話はとても感慨深く、この合宿にかける思いと今までのサークルの活動の思いが重なっていたように感じました。お話をしている途中で感極まり涙を流す先輩方を見て、私ももらい泣きをしました。

この合宿での様々な活動を通して、私は内向的だった性格から成長したように感じます。この合宿を通して知り合った大東や日大の同級生や先輩方と、合宿が終わった後もラインなどを通じて仲良くさせていただいています。そしてこの合宿での先輩方の活躍を見て、自分も先輩方のようになるため、サークルの活動をもっとがんばろうと決意しました。

【窪一希】

夏合宿では、山登りやキャンプファイヤーなど大自然を感じながら、楽しむことができました。これも、梅沢先生をはじめ、先輩方が素晴らしい企画を考えていただいたおかげだと思っています。また、ワークショップの班とはまた別に日本大学の他の班や他大と交流があり、人見知りの私にとっては不安でありましたが、色々な人と話すにつれて、不安も薄れていき、多くの友達を作ることができました。他人の価値観や将来に対するビジョンなどがしっかりしている人が多く、私も考えを改めなきゃと思うことができ、良い刺激にもなりました。

しかし、先輩との交流が少し消極的だったことが一つ心残りです。私は、縦のつながりに対して少し苦手意識があるので、克服するためにもこれからのアカデミー活動では、先輩とのコミュニケーションを積極的にしていきます。ディスカッションでは、中国のインバウンド消費という難しい課題で、普段ニュースを見ない私にとってかなり戸惑いました。報告会にむけてテーマを考えると、中国の政治的背景や日本の貿易状況などがわからないおかげで、平凡なテーマしか挙げるできませんでした。これから一人の大人としてニュースに関心を持つことが重要だと感じました。このように、夏合宿では、楽しかっただけでなく、困惑することも多くあり、自分の弱点を見つけることができました。このことを幸せに思い、弱点を克服できるよう日々精進していきます。

【久保亮】

長野の戸隠という大自然に恵まれ、心身ともにリラックスできる場所でいろいろなこと

を得ることができました。交友の面では大東よりも日大の人と多く仲良くなることができたりと大学関係なく人と触れ合うことができました。また、合宿の最中に休憩時間や夜中に先輩方が段取りや計画を事細かに決めてくださっており、自分たちが合宿を楽しむことができるのは慎重に計画を練ってもらえているおかげなのだと改めて実感しました。

しかし一番強く感じたことは社会人交流会という組織の仕組みを少しだけですが理解できたことです。梅沢先生がおっしゃっていた「オールラウンドサークルとは違う」というお言葉と、同じ部屋で大東4年の細川先輩の経験談や話の捉え方、考え方についてのお話をお聞きし、このサークルのどのような点がほかのサークルと違うのか、どうやって人間力を成長させるのかが理解することができました。

以上のことを含め、来年は先輩方のように周囲に気を配り自分は何をすべきかを考えて行動し、また、撮影班に魅力を感じたので撮影班の一員として合宿に参加できればと思います。

【久保田佳貴】

夏合宿ではたくさんのものを得られたと思います。夏合宿での目標に掲げていた、たくさんの人と交流して1人でも多くの人と知り合いを作るというものは達成することができたのではないかと思います。夏合宿での経験を活かしてこれからもたくさんの知り合いを作れるのではないかと思います。

最終日の総括の時には約200人以上の人達の前で自分の考えを述べるということはとても緊張しましたが、緊張を押し殺して自分なりに堂々と考えを述べることができました。その経験から大勢の人達の前で堂々と話す事に少しは慣れたのではないかと思います。他にも夏合宿を通じて得ることのできたことはたくさんあり、これからの活動が楽しみになりました。

【倉光保理】

夏合宿当日、私の抱いていた感情は期待感でした。これから多くの同輩や先輩方と知り合えるということ、また、多くの先輩方が口を揃えて楽しかったとおっしゃっていたということが私の期待感を高めました。結論から言えば合宿は楽しかったし、多くの同輩と知り合えました。多くの先輩方と知り合う事は叶いませんでしたが、それでも何人かの先輩とお話しさせていただくことができたのは嬉しく思います。ですが、楽しいことだけでもありませんでした。自分はあぜりあの大部屋に宿泊したのですが、昼間はとても暑かった印象があります。また、その暑さのせいで初日、大部屋の方の口数がとても少なかったのも残念でした。正直に書きますと、合宿中、一番大変だったのは登山です。登ること自体大変だったというのがありますが、自分が高い場所が苦手で、景色を楽しめなかったことが挙げられます。とはいえ、その後のキャンプファイヤーは楽しかったですし、打ち上げも、同輩と沢山話せて楽しかったですし、今後のサークル活動において、円満な関係を築くに

あたって有意義だったと感じました。

私は来年も夏合宿に参加し、次は多くの先輩、後輩とも仲良くさせていただけたらなと思いました。

【栗原将崇】

私はこの夏合宿で大きく二つのことを感じました。

一つ目は先輩方の行動はオンとオフの切り替えがしっかりしていることです。先輩方は飲み会のときは、たくさんの人と会話してとても楽しそうに見えました。また私たち一年生にも気づかって、話しかけてくれます。ですが、ディスカッションや 200 人を超える大人数の移動を指揮しなければいけないときは、常に先のことを考えて活動がスムーズに行くように動いていらっしゃいました。このように、やりとげなければならない仕事があるとき、先輩方はすぐに切り替えて行動するという姿を、近くで見させていただきました。

二つ目は、話したことがなかった同期と仲良くなれたのではないかということです。私は夏合宿前までは他のワークショップの班の一年生とは全くとっていいほど話したことはありませんでした。ですが、この夏合宿では、同期と話すことができる機会が沢山与えられています。なので必然的に知らなかった同期のことをよく知れたと思います。この夏合宿に参加したことで、自分の価値観や考え方が変わったところも多くありました。このような経験ができる夏合宿に参加して本当に良かったです。

【桑村知里】

夏合宿を通して、人の暖かさを学ぶことができました。

私の諸事情により、山登りは参加できませんでした。キャンプファイヤーでは先輩方が企画を考えて下さったおかげで、楽しい時間を過ごさせていただきました。ディスカッションでは新しいグル研の班でしたので、緊張しました。ですが、先輩が積極的にお話して下さい、緊張が解けました。私はこの班の役に立てるよう精一杯頑張ります。打ち上げではお話したことの無い方と話す機会がありました。出身地や趣味など相手のことを知ることができ、他大学の友達も作ることができました。ただ、私はもう少し早く打ち上げを行っても良かったのではないかと思います。そうすれば多くの時間をより沢山の人の人と関わることができたからです。

総括では全員の話聞くことができ、特に四年生の総括は感動しました。私も先輩方のような存在になれるよう、濃い四年間を過ごします。

夏合宿に参加して良かったです。楽しい思い出をありがとうございました。

【小林義之】

今回私は初めて夏合宿に参加して率直に楽しかったと思いました。合宿に参加する前は初めてのことであったので不安で、他大学の人たちとの交流がなかったのでとても緊張し

ていました。一日目は移動がほとんどでしたが様々な人たちと話をしていくことで不安や緊張がなくなっていきました。二日目の午前中は登山をしました。暑かったということもありとても大変でしたがまわりの人たちと楽しく上ることが出来、頂上に着いた時の景色はとても素晴らしく達成感を得ることが出来ました。夜のキャンプファイヤーも楽しく出来ました。三日目はグループ研究の班でのディスカッションでした。初めて顔を合わせる人もいたので緊張しましたが楽しく行うことが出来ました。打ち上げでも普段話すことのない人たちと話すことができとても楽しかったです。

私はこの合宿を通して積極的に行動することはとても大切なことであると一番感じました。私自身まだまだ人に話しかけに行くことは苦手ではありますが、自分から積極的に行動をしていくことはとても大切であると思ったのでこれからも実行していきたいと思います。またディスカッションや人前での発言もまだまだ苦手であると感じたので克服するために様々なことに参加していきたいです。

私にとって普段体験することの出来ない3泊4日の夏合宿はとてもいい経験になったのでこれからの活動に活かしていきたいと思います。私はこの合宿に参加することが出来てとてもよかったです。

【齋藤大介】

私は夏合宿が始まる前は友達が出来ると不安なことが多く心配でしたが、登山、キャンプファイヤー、飲み会を通して大学関係なく仲良くなれて良かったです。有意義な3泊4日でした。

【作野肇紀】

私作野肇紀は夏合宿の目標として、「先輩・同期に自ら話をすることで自分がどんな人か知ってもらおう」という目標を掲げて夏合宿に参加させていただきました。しかし、2日目の夜まではあまり自分から話かけることをせず、一部の仲良くなった人達と固まってしまったことが心残りではありますが、3日目には自分から積極的に様々な方々に話しかけ、少しでも自分がどのような人であるかをアピールすることが出来たので、結果としては今回掲げた目標を達成できたのではないかと思います。

最後になりますが、今回夏合宿を計画・運営して下さいました梅沢先生、先輩方に感謝の気持ちを忘れず、日々休まずに活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

【佐藤優也】

私は今回の夏合宿を通して、良い経験をできたと思いました。私は夏合宿に行く前は参加するか迷っていました。その理由としてはまず、お金がかかる、夏休みくらい自由になりたい、ただ単に面倒だと考えていて夏合宿に対して前向きではありませんでした。でも、先輩方が一度は行って見た方がいい、行ってよかったと思えると、言ってくれたのとWSの

メンバーが行くと言っていたのでとりあえず参加することに決めました。

合宿初日、バスの中で私の席の周りには日大生しかいなくて正直宿舎までやっていけるのか心配な状態でした。相手も緊張していて話しかけることができないんだと考え、それなら自分から話しかけるしかないと思い話しかけたら相手も普通の受け答えしてくれてその時はほっとしました。そこからは話が弾んで宿舎まで苦を感じずに行けました。

合宿二日目、この日は山登りをしました。スタートして少し歩いただけで汗が出るくらい暑くて私は頂上まで体力が持つのか心配になりながら登って行きました。しかし実際に登っている間は班の人と話しながら登っていたらあっという間につきました。頂上からの眺めは凄く綺麗で登って良かったと思いました。夜のキャンプファイヤーでもより多くの人とも交流ができたので良かったです。

合宿三日目、この日は今後メインに活動するグル研の人との初顔合わせでした。WS とは違い大東と日大の生徒が混合して行うので、知らない人ばかりでやっていけるか自身は無かったです。でも、WS の最初の時みたいに殻にこもっているだけでは何も変わらないので自分から積極的に行くように頑張っていきたいです。

合宿四日目、合宿最終日と思ったらあっという間の四日間だったと思えました。最後の総括での四年生の話を聞きこのサークルの対しての思いの強さが伝わり、涙ぐんでいる人を見て私ももらい泣きしそうになりました。池袋に着きバスを降りて私はこの合宿に参加してよかったと思えました。

今回の合宿中での先輩方の大学間を超えての仲の良さを見て私は羨ましいと思いました。それと同時に自分たちもああやって仲良くなれるのかと考えました。私はこの合宿で新たな仲間を作れたと思います。そして新しくできた仲間とより良い関係にしていけるために頑張っていきたいです。

【佐藤玲央】

私は今回の夏合宿に参加する前、サークル活動をこれからも続けていくか考えていました。そこで、サークル活動の中で最も大きなイベントの一つである夏合宿に参加してから決めようと思い参加しました。

初日は元々の友達など身内同士で固まってしまい、なかなか新しい友達ができずに楽しくないと思っていました。しかし、2日目以降からアゼリアの人を中心に自分から話しかけていくことで2日目の登山、キャンプファイヤー、3日目のサークル生全員での打ち上げなどで多いとは言えないけれど、元々の友達以外にも新しい友達ができることで夏合宿のイベントを楽しむことができました。

また、この夏合宿では先輩方の凄さを実感しました。具体的には、自分達1年生は夏合宿をただただ楽しむことだけを考えていたと思いますが、先輩方、特に3.4年生は寝る時間を削って夜まで話し合いをしていたのに、次の日にはしっかり寝ていた1年生よりも精力的に活動していたのを見て、本当に凄いと実感しました。

最後になりますが、夏合宿を通して学んだことを今後を活かしていきたいです。

【眞田康平】

今回の夏合宿に行く前先輩たちがとても楽しいよというので私も楽しみにしていました。自分は社会人交流会内で知っている人が班の人くらいしかいなかったのでたくさんの人と交流できることを期待してました。実際行ってみてたくさんの人と交流できました。日大生ともたくさん交流することができました。山登りやキャンプファイヤーでもたくさん笑ったり励まし合ったりできて、とても貴重な体験ができました。グループ研究活動のディスカッションで新しい班ができ、この前も飲み会をしたりしてより班員の仲が深まっているとおもいます。夏合宿に参加して憧れるような先輩も見つかりました。先輩たちのようになれるようにこれからも活動に精を入れていきたいです。

【佐野祐弥】

夏合宿前は、ワークショップ同じ班だった人以外とはほとんど話したことがなかったため4日間、同じ宿に仲がいい人がいなく、グル研の班もまったく知り合いがないという環境は正直なところ早く終わらないかなとか思っていました。しかし、実際に参加してみると同期の人や先輩の方はとても面白く優しく接して下さったため、ものすごく楽しく過ごすことができました。4日間参加してみて今まで関わったことがなかった、たくさんの日大生や大東生、東洋生と関わって充実した4日間だったのでないかと思っています。また、自分は一人暮らしをしているので朝ごはんは基本一人で食べることが多いのですが、朝からたくさんの人たちと話せて朝からいい気持ちになるのだと感じました。

また、今回の夏合宿は、ただ楽しかったばかりではなく、もっと他の人に話しかける積極性や1年生で集まった時のリーダーシップ力など周りの同期や先輩方と一緒に過ごさせてもらっている中で、ものすごく自分の力の無さを痛感しました。今回の合宿で出来た課題をそのままにするだけでなく、グル研の活動から自分の課題を克服できるように積極的に活動していきたいと考えております。

今回の夏合宿がこんなにも楽しく出来たのは先生、先輩方の努力のおかげだと思っています。来年は、生活班や写真班などの役職につかせていただき貢献できるような人間になれるように日々頑張っていきたいです。

【重森陽香】

今回の合宿は行く前は不安しかありませんでした。WSの班は東洋の人もたくさんいて、班活動を通して班の人たちと仲良くなれましたが、同じ部屋にも、新しいグル研の班にも知り合いが全くなかったからです。最初は帰りたいとずっと思っていたのですが最終日には友人もでき楽しい時間を過ごすことができいい思い出になりました。

特に印象深かったのは芝生の上でのディスカッションでした。3日目はグル研のメンバー

との顔合わせができ、なんとなく安心しました。その中でもディスカッションを通して自分の知識のなさを痛感しました。既存生の先輩方はインバウンドについての知識があり原因についてもこのようなものがあるのではないかと意見を出していらっしやいましたが、私はただただ聞くことだけしかできませんでした。また、新しいメンバー、新しい環境となり自分の意見を思ったより出すことができませんでした。自分の知識の幅を広げ、どのような場所でも自分の意見を述べるようにすることが今後の課題であると気づくことができました。

夏合宿全体を通して、WSの17班の人たちとの仲をより深めることや、知らなかった大東生と話すことができたり、普段関わりがない日大生と関わることができたりして、新しい友人ができ、たくさんの人たちと関わることで貴重な経験になったと思います。これからはゼミ活動を通して自分自身の課題と向き合い成長していきたいです。来年は機会があれば先輩方のように運営側にまわって今年とは違った角度から夏合宿に携わりたいです。

【完倉健太】

夏合宿を終えて私が思ったことは、先輩達の偉大さです。正直自分は参加するまでこの合宿がどれだけ時間をかけて計画されてきたのかなど、全く検討がつかなかったのですが、バスの手配から宿の手配、イベントの計画など、どれもしっかりと考えられて、1日しか参加出来なかった私でも先輩方のこの合宿にかける思いが伝わってきました。また、私のことをよく知らない先輩方も積極的に話しかけてくれるなど、後輩である私達のことを気にかけてくれてとても嬉しかったです。

そして、そんな先輩達の姿に憧れるとともに自分達が4年生になるまでには先輩達のような後輩に憧れられる存在になることができるのかと不安になる気持ちも生まれました。しかし、先輩達にしてもらった楽しい思い出を、後輩達にも味わせてあげられるように頑張りたいと思うことができました。

これらのことから夏合宿では、先輩方の偉大さを改めて認識したとともに、これから自分達が先輩になっていくことに対しての覚悟を決めることができた貴重な体験だったと思いました。

【澁谷佳穂】

私は夏合宿を通して、仲間の大切さを学びました。それを強く感じたのは、合宿二日目の山登りです。普段運動をしていない私は、無事登り切れるか不安でいっぱいでした。私の予想は的中、暑くて、足場の悪い山に私の体力は徐々に奪われていきました。しかし、そのとき体力を奪われていたのは私だけでなく皆も同じということに気づき、班員みんなで声をかけ励ましあいながら、山頂を目指しました。山頂に着いたとき、普段なかなか味わうことのない達成感を感じました。後輩をととても可愛がってくれる班の先輩方、何でも話せる同期の班員、この大好きな班員たちと山頂という一つの目標に向かって共に頑張る

ことの大切さを学ぶと同時に、より班の仲が深まったと思います。

また、魅力的な人たちと出会うことができた夏合宿は私にとって良い刺激を与えてくれました。素敵な夏合宿になったのは、魅力的な人たちが同じ時間を同じ所で共有できたからだと思います。この夏合宿で感じたことをただ楽しかった思い出としてだけでなく、今後の活動に生かします。最後になりましたが、夏合宿成功を導いてくれた先生、先輩方に感謝いたします。

【城理紗子】

率直の感想は、楽しすぎてあっという間の3泊4日でした。夏合宿以前は、私自身、人見知りで初対面のひとに話しかけることが苦手だったこともあり、バスの中や宿泊班でうまくやっていけるか、など多くの心配がありました。しかし、いろいろな行事（登山・キャンプファイヤー・打ち上げ・ディスカッションなど）を通して、それらの心配はなくなりました。特にキャンプファイヤーでは、先輩や同期のことを少し知ることが出来、一体感が生まれたような気がしました。先輩方が必死に盛り上げようとして下さったおかげで、自然と周りのひとと打ち解け、楽しむことができました。3日目の夜の打ち上げでは、自分から初対面のひとに話しかけ、会話ができるようになり、少し成長出来たのではないかと思います。しかし、一番思い出に残ったイベントは、WS2班での登山です。登山は、暑くてとても疲れましたが、2班でおしゃべりをしながら楽しく登ることが出来てさらに、2班でよかったなと強く感じました。写真もたくさん撮れて良い思い出になりました。

【末吉光莉】

私はサークルに入ったばかりで、普段のサークルの活動にほとんど参加していない状態で今回の夏合宿に参加することになってしまったのですが、この四日間を通してたくさんの貴重な体験をすることができました。また、山登りやキャンプファイヤー、朝昼晩の食事など、他にも色々な場面で今まで交流する機会がなかった方々ともお話しすることもできました。二百人ちかくの人が集まるせっかくの機会なので、少しでもたくさんの人と交流を図るという私の目標は達成できたのではないかと思います。

これからグループ研究の活動が本格的に始まるので、合宿での経験をいかしつつ積極的に取り組んでいきたいと思います。

【神保克樹】

今回合宿に参加して、多くの事を学びました。まずは、交流イベントで多くの一年生と関わることができた事です。色々な性格の人と一斉に会話をした事で、これまでにない交流ができたなと実感しています。自分は人見知りではないものの、話しかける瞬間は多少の緊張感がありました。多分話した相手も最初は同じ状況の人が多かったと思いますが、意外とすぐに打ち解けられた人が多かったです。その中で、相手の話もよく聞くとする事を

学びました。

次に、17 班と山登り等をするにより、より仲が深まったと思います。先輩等も含めて様々な話が聞いてよかったです。

最後に、先輩方のメリハリのある行動を見ることができ、自分に足りない行動を学びました。後輩を上手くまとめ、尊敬される人を目指して行こうという目標にして今後を過ごしていきたいです。

【鈴木悠輔】

今回の夏合宿では、普段の活動とは違い他大学の多くの方々と交流することができました。他大学の生徒とは今回の合宿が初めてかかわる機会であったので緊張していましたが、同じ宿舎の人や打ち上げなどのイベントを通して多くの人と打ち解けられ、夏休みの初めに良い思い出が出来ました。

また、私が今後の活動をしていく上での目指すべき先輩像をより明確にすることが出来ました。私が夏合宿を楽しめたのは、先輩方が事前に綿密な計画を立て、いろいろな手配などしてくださったり、当日も私たちがより多くの人と関われるようにイベントを運営してくださったり、夜遅くまで会議したりなど夏合宿を成功させるために動いてくださっていたからです。そしてこのような先輩方の姿を見てより具体的に理想の先輩像をイメージすることが出来るようになった反面、私に後輩が出来たときに先輩方のようになれるか不安ばかりではありますが、

今後も経営研究会を続けて行き、インゼミ・グルケン班で活動が始まった今、さらに積極的に活動に参加していこうと決心することが出来ました。

【須田佳奈恵】

私は夏合宿に参加するまでは、登山で全く話したことのない人がたくさんいることが不安で正直あまり合宿に行きたくないと思っていました。実際に参加してみて合宿に来てよかったですと強く感じました。私がそのように感じた理由としては、今まで話したことなかった人と交流することができたことと、普段の日常生活では体験出来ない大自然の中で4日間も活動することができたこと、今の自分にとって何が足りないのかを改めて実感できたことがあります。私は夏合宿を通じて人生で初めての登山をし、思っていたよりも大変で辛かったのですが頂上に着いたとき達成感を感じて感動し、また登山をしたいと思いました。

私にとって積極性、社交性、即時に対応する力が足りないと夏合宿を通して改めて感じました。これらの反省を生かしてこれからの活動をしていこうと思います。ありがとうございました。

【須田夏美】

初対面の人と話す事が苦手な私は、夏合宿で同期や先輩方としっかり話す事ができるか不安でした。しかし、それと同時に今まではワークショップの班員の同期、先輩としか殆ど話した事が無かったのもっと沢山の人と交流がしたいとも思っていました。

そんな不安と期待を胸に参加した夏合宿はとても充実していました。バスの中、登山、新しいグループ研究の班でのディスカッション、学年会など必然的に沢山のひととお話しをする機会が設けられていて、最初は緊張していましたが、合宿前に私が抱いていた不安はいつの間にか無くなっていました。それだけでなく、宿舎で先輩方が気さくに話しかけてくださったり、同期とトランプをして楽しく過ごしたりする事ができました。

2日目の登山は特に印象に残っています。想像以上に過酷でした。しかし、班員の先輩方から楽しい話や励ましの言葉をかけて頂いたので、頂上に着いた時は疲れを忘れ、達成感を感じる事ができました。また、私が社会人交流会に参加するきっかけとなったMホールで手に取ったチラシに登山での写真があった事を思い出しました。インパクトがあって一番に目に飛び込んできたのを覚えています。今年の写真には自分もいると思うと少し不思議です。

3日目の芝生の上でのディスカッションも貴重な体験でした。自然の中で意見を交わす事は、普段あまりないので新鮮でした。

そして、最終日の先輩方の涙ながらの総括では、合宿当日までの準備の大変さ、同期の大切さや気持ちなどを知り、これらのことは他のサークルでは感じられないと強く思いました。自分の様々な面を成長させたいと思い参加した社会人交流会は、最初は不安がとても大きかったのですが、春季ワークショップや今回の夏合宿を通していつの間にかこのサークルが自分の生活の中で大切になっています。特に先輩方の存在はとても大きいです。最初の頃の私は自分からは全く話しかけられなく、緊張しっぱなしでした。そんな時、先輩方が私たち一年生を楽しませてくださったり、パワーポイントや文章の作成など基礎的な事を親切に教えてくださったりして下さいました。そんな素敵な先輩方の様になるために、これからのグループ研究や様々な行事で積極的に行動し、経験を積んで成長していきたいです。最後に、この夏合宿を企画して下さった梅沢先生、先輩方にとても感謝しています。

【須田裕貴】

私は初めてこの社会人交流会の合宿に参加させて頂いて、大変貴重な体験をさせていただきました。

森の中でのディスカッション、これは自然の中で仲間たちと一つの事に対して話し合う。私はこのような体験は初めてでした。今回はグループ研究がこれから始まるという事で、班編成が決まりこれからはこのグループで一つの事について学習していきます。インバウンド消費について今回は研究していきます。学年や学校の違うメンバーで一つのテーマについて話し合う。自分の意見を発表する。私にとってはどれも初体験でとても貴重でした。

同時に私は経済問題に関心がある事がわかり調べる様になり成長する事が出来たと実感出来ました。

また、この合宿を通して私が感じた事は、四年生の偉大さです。大人数での3泊4日を成功させるには相当の力が必要だと思います。

私はこれからこの社会人交流会で自分を成長させ自分が四年生になった時には、今の四年生に追いつき追い越せる様になりたいと思います。

【須山翔登】

私はこの3泊4日の合宿で本当に充実した、貴重な時間を過ごすことができました。

1日目のバスの中では、隣の席の大東4年渡邊夏樹さんとジブリから面接時の話まで様々なことを教えていただきました。また、前後の先輩方ともお話をさせていただく機会がありました。到着後に行われた自己紹介では、緊張しましたがしっかりやることができ、まだあまり関わりの少ない大東の方たちや先輩方を知ることもできました。

2日目の山登りでは、WS8班のメンバーと協力しながら登っていきました。最初は、炎天下の中での山登りの不安と期待で、前日あまり寝ることができませんでした。休憩を多くとって頂いたり、先輩方が声をかけてくださったのでそんなに暑さを感じませんでした。大自然の中で食べる昼食は新鮮で楽しく、頂上に着いた時の達成感と景色にとっても感動しました。少し体力的に苦しいところもありましたが班のみんなと色々なことを話したり、登っていくうちに変わる素晴らしい景色を楽しみながら登ることができ、忘れられない思い出となりました。その夜に行われたキャンプファイヤーでは、小学校で行った時よりも大人な雰囲気がありつつ、じゃんけん列車やマイムマイムなど楽しみました。様々な企画があり、飽きることなく盛り上がりました。

3日目のグル研のディスカッションでは、WSの時学んだことをいかし、積極的に意見を出すことができました。今まで経験したことのないことですが、先輩方のお力を借りつつ、少しでもグル研に貢献できるようがんばります。その夜の打ち上げでは、色々な人と話すよう心がけ、多くの先輩方とお話をさせていただくことができました。また1年生会などを通じ、同期とも親睦を深めることができました。

4日目の総括では合宿を通して自分の思ったことや感じたことを発表会しました。そんな中で特に4年生の発表には、とても胸を熱くさせられました。今まで、このアカデミーにかけてきた思いを涙ながらに語り、心からこのアカデミーに入って良かったという先輩方を見て、改めてアカデミーの素晴らしさを感じ、自分も先輩方のようになりたいと強く決心した瞬間でもありました。

私は、この合宿を通して、4年生の合宿を成功させたいという絆から同期の大切さを、また自分の未熟さを感じました。私にとって有意義な夏合宿にすることができました。本当にありがとうございました。これからも自分を高めていけるようにこの経験をいかし、今後に繋げていきたいです。

【砂川美樹】

初めての夏合宿、参加する前は不安な気持ちがありました。私は東洋生なので日大生はもちろん大東生にも、WS 班員以外には知り合いが全くいなかったからです。結構な山奥に滞在すると聞いたので、普段とは違う環境で4日間過ごすことにも緊張していました。ですが行きのバスから不安は少し解消されました。隣の席になった日大1年生とお互いの大学やこれから始まる夏合宿の話題で話もはずみ、イベント班によるバスレクで盛り上がったからです。

いよいよ長野・(名前忘れた)に到着して最初に思ったのは、暑いけれど爽やかな暑さということです。虫が想像以上にいて少し複雑な気分にもなりました。初日は全体で自己紹介をしましたが、200名以上は改めてすごい人数だと思いました。何年か前に数十名・1カ所で済んでいた宿舎に収まりきれないので、今回お世話になったあぜりあ他3つの宿舎を先輩方が探してきたというお話は印象に残りました。初参加ではありますが夏合宿を毎年行うことができるのは、先輩方の御尽力や宿舎の方の御好意あってのものだと感じました。

2日目は登山にキャンプファイヤーとイベントが盛りだくさんで楽しみにしていました。登山は結構きつめと聞いてはいましたが、その通り本気の登山で驚きました。大きな石がゴロゴロした山道を永遠と進むので、つらくて頂上までたどり着けるのかと思った瞬間もありました。そのような時はWS班員が声をかけてくれて、お互いに励ましあいながら楽しく登ることができました。途中で昼食として食べたおにぎりは、普段より美味しく感じたような気がします。苦勞して到達した頂上からの景色はとても綺麗でした。その後のキャンプファイヤーはイベント班の先輩方が趣向を凝らした催し物でとても楽しめました。特に火を囲んでのダンスはどれも盛り上がりました。

3日目はグループ研究班の初顔合わせ・ディスカッションを行いました。今回は大東・東洋だけではなく日大も含まれた班編成なので、少し緊張していました。しかしその必要もなく和気あいあいと自己紹介と話し合いができたと思います。WSでは途中からの参加で班活動にあまり貢献できませんでした。なので、今回のグループ研究では積極的に参加していきたいと思います。テーマの「インバウンド消費」はニュースで“爆買い”という言葉で耳にしたこともあり、気になってはいましたが実態や影響等については考えたことがありませんでした。なので、この活動を通して理解を深めていきたいとも思います。夜の打ち上げではWS班や同じ大学だけではなく、今回の合宿を通じて知り合った方々と楽しく話しながら飲食できました。たくさん写真を撮ったりして本当に楽しめました。

最終日は全体で感想を発表する場を設けられていました。初日の自己紹介では周りを見渡す余裕もありませんでしたが、緊張しながらも少し余裕を持って発表できたように思います。同じ4日間でも人によって様々な感想が出て面白いと感じました。その中でも3年生・4年生の先輩方の発表は想像できませんでした。何ヶ月も前から準備に取り組み、合宿中

も滞りなく進行できるように遅くまで活動されていました。その達成感や反省など様々な思いから涙を流す姿には、1年生の自分にもグッとこみ上げるものが伝わってきました。努力から流す涙は人の心を動かします。先生が仰ったように、この場に立ちあえたことに合宿参加の意味があると思えました。

振り返ると今回の夏合宿は1年生なので知り合いを増やしてただ楽しめる、指示に従うだけで言われるがままの4日間でした。移動班や生活班で懸命に指示されている先輩方の姿を随所で見かけて、このような取り組みがあってこそ夏合宿が成り立っていると思いました。時間や指示された行動を心がけてはいましたが、先輩方からはどのように感じていたのでしょうか。来年この合宿に参加できる機会があったら、今度は自分が夏合宿を作り上げる立場に少しでも携わりたいと思います。

【宗田真澄】

夏合宿に参加する前は合宿に行くのがすごく嫌でした。しかし、先輩方からこの夏合宿に参加するかしないかでこの梅ゼミに残れるか残れないかの分かれ目になると聞いたので、4日間我慢しようと言う気持ちでこの合宿に参加しました。僕は皆さんと違って東洋大学なので参加する前はほとんど知り合いのいない状態の参加でした。朝の池袋駅ついても知り合いがいなく誰とも話すことなくバスに乗りました。バスに乗るまでは本当に嫌でした。このまま一人ぼっちで4日間過ごすものだと考えていました。

しかし、バスに乗った時から両となりの先輩方がすぐに話しかけてくださいました。自分は1号車の最後列の真ん中に座らせていただいたのですが、両となり先輩だったので先輩方の方から話しかけていただきました。本当にうれしかったです。ずっと一人ぼっちで過ごすものだと考えていたのですぐに話しかけていただいたのはうれしかったです。そこから僕が考えていた合宿と全く変わっていきました。バスの中では先輩方のおかげで気まずい雰囲気になることなく過ごせました。

宿舎についてからも部屋のメンバー全く知らない方々でしたが、そこでもまた先輩たちが気を使ってどんどん話しかけてくれたのですぐに部屋のメンバーとも打ち解けることができました。自分たちの部屋は3年生4年生がいなく、1年生2年生で構成されていたらしく部屋の先輩方も先輩に気を使うことなくありのまま自分たちに接してくれたので、それが逆に打ち解けられたのだと思います。部屋のメンバーは最高でした。夜はみんなで人狼ゲームをしたり、将来について語ったり、今まで赤の他人だった人たちと同じ部屋で生活するだけで、こんなにも打ち解けられることができるなんてバスに乗る時までは想像もしていませんでした。

一番嫌だった山登りも山登りに行くまでが楽しかったので山登りも楽しい気持ちで登ることができました。先輩方がかけてくれたBGMがまた山登りの辛さをかき消してくださいました。山登りも想像していた半分くらいの辛さしかありませんでした。その後の人生初のキャンプファイヤーもとても楽しかったので良かったです。天気も予報では雨でしたが

実際はほとんど降っていなかったので天候にも恵まれて最高でした。

新しいグル研の班も先輩たちがリードしてくれたので素晴らしいディスカッションが出来たと思います。班長の峯川先輩のディスカッションのやり方に非常に感激しました。また、副班長の東條さんのみんなの統率力もすごかったです。夜の打ち上げも素晴らしかったです。1年生の懇親会があって他の皆さんと仲良くなることができました。打ち上げ後、自分はもう一人の東洋の子と今後について語ったり、不安や悩みなども打ち明けたりできたのでとても有意義な時間を過ごせたと思っています。これら全て合宿に参加しなければ経験することができなかつたと思います。

合宿期間はほとんど寝ることができなかつたので帰りのバスでは、ぐっすり寝ることができました。

今回、合宿に参加させていただいて、想像していたよりもはるかに多くのものを得ることができました。これらは合宿に参加しないと得ることができなかつたと思います。一番大きかったのはたくさんの人と知り合いになることができたことです。もう一人ぼっちじゃないことが非常にでかいです。今回、仲間になった皆さんと今では普通に連絡を取ったり、ご飯の約束をしたりすることができたので、これだけでも参加して良かったと思っています。来年は先輩になるので、自分と同じようにたくさん経験できるように1年生を支えていきたいと思っています。

【高木大輝】

今回夏合宿に参加して本当に良い経験が出来てよかったと思いました。その中でも理由は2つあります。

1つ目は夏合宿という一大イベントで先輩方の姿を見れたという事です。普段の活動では先輩方の話などしか聞けませんでした。またディスカッションなどの姿しか見れていませんでした。しかし今回改めて夏合宿に参加し先輩方の行動面での姿を各場面で見ることが出来、自分の刺激になると同時に先輩方のように行動で示しのつく人間になりたいと思いました。総括でも4年生の熱い思いを聞くことが出来て経営研究会だからこそ成長できるのだと思いました。

2つ目に色々な人と関わりを持てたという事です。自分は人間関係のことで少し不安はありましたが色々なイベントがある度に人と関われる機会があり、たくさんの人と交流を持て良かったです。登山ではワークショップ班の人と今まで以上に深い関係を築け、キャンプファイヤー・一年生会では全く知らない人と楽しく過ごすことが出来ました。3日目のディスカッションではグル研の人と顔合わせが出来て、色々な事が知れて次のグル研の良いステップになりました。総括では皆の熱い思いを聞かせていただきました。

このように3泊4日を楽しく充実したものに出来たのも先生・先輩のおかげです。夏合宿を終えて素晴らしい先輩の様に自分も経営研究会で頑張ろうと思いました。

【高坂教文】

夏合宿が終わって今、思うことは、参加して良かったということです。というのも、合宿前の私は正直気乗りせず、社会人交流会自体を辞めようとさえ考えていました。しかし、長野県戸隠での3泊4日を経て、その様な気持ちは段々と払拭されていきました。

まず、きっかけとしては、一日目に行われた、自然豊かな環境下での班別ディスカッションです。自然に囲まれた状態と、各班それぞれ、春季ワークショップ班で集まったの活動だったことで、億劫だった気持ちも比較的にリラックスした状態に持ち込め、集中できました。

次に、二日目に行われた山登りとキャンプファイヤーです。山登りも春季ワークショップ班での活動だったので、いい意味で気楽に楽しめました。途中、暑さと足場の悪い道で苦戦を強いられましたが、頂上に皆でゴールした瞬間の達成感はたまらず、たくさん写真を撮ってしまいました。下山した後、キャンプファイヤーが始まりました。大学生が本気になってマイムマイムを踊ったり、イベント班のランキング形式のコーナーで盛り上がったり、皆で合唱したりと、山登りの疲れが吹き飛ばす程に、物凄く楽しかったです。

最後に、最終日の総括です。自分は発表時、緊張して上手く話せず仕舞いで、悔しい思いをしたのですが、先輩方の発表では、堂々と緊張せず話していて、かつ、込み上げてくるものが一年の私達にも伝わってきて、強く心を打たれました。同時に先輩達の様になりたいと思いました。

今回の合宿を通して、これからは、安易な考えで辞めるなどと考えず先輩方の背中を見て、たくましく成長出来る様に精進していきます。

【高橋慧】

この夏合宿は一言で言うと「楽しい」です。

その理由も沢山ありますが、初日は寝不足で乗ったバスは本当に辛かったです。ですが隣には日大の1年生が居てお互いの大学についてなど沢山お話しをしながら仲良くなって、夏合宿に入ってから友達1号が出来ました。宿舎に着いてからはルームメイトである友達2号と友達3号が出来ました。他にも先輩方とトランプをして遊びました。

2日目は、寝不足の疲れを抱えたまま山登りに挑みました。しかし、先頭になる機会があった時には音楽を流しながら先輩とはしゃいで疲れを吹き飛ばして登りました。天候にも恵まれ、最高の思い出になりました。頂上では司さんが段差に足をとられ腰が抜けている姿が印象的でした。キャンプファイヤーも人生初で大きな火柱を目の前にして興奮しました。安藤さんのクリオネちゃんが忘れられません。

3日目はグル研の班の顔合わせで、自己紹介の後なぜか盛り上げ役に任命されて一人で焦っていました。この日の夜は夜更かしどころかオールナイトをしてしまいました。途中でリタイアした先輩方を朝イチたたき起しに行ったり、誠さんと2人で荷づくりをしながらネタ大会を開いたり一番楽しかった日です。オールナイトの代償にバスではところどころ爆

睡してしまいました。

4日目、総括がありました。総括では4年生の熱いスピーチに涙が止まりませんでした。1年生の中で誰よりも泣いた自信があるくらい泣きました。その理由も先輩方はこれまでの事を思い出しながら話している中で自然と涙が出てくる姿をみて、絆とか見えないなにかを自分なりに感じ取っている内に僕自身、涙で鼻をつまらしてました。自分も3年後こんな風に涙を流しながら話せたらなと憧れをもちました。

笑いあり涙ありの本当に内容の濃い4日間でした。楽しかったです。

【高橋尚也】

私にとって夏合宿は大学一年生の夏で最も成長できたと感じられるものでした。

今まで見たことはあるが話したことはないという人たちばかりの環境で三泊四日を過ごしたのは初めてでした。

最初は緊張していつも一緒にいたメンバーで固まってしまいがちでしたが、少しずつ様々な人と会話していくうちに仲良くなり、いつも一緒にいるメンバーだけではなく、初めて出会った人と過ごすようになりました。コミュニケーションをとることは大事だなと改めて思いました。

一年生会では一年生の皆を纏めさせていただきました。高校時代までに多くの場面で長という経験をしていて、その経験を活かし楽しい一年生会にすることができたと思っています。今後も幹事の仕事をしたいと強く思っています。

また、先輩の総括を聞いている時にはこみあげてくるものがありました。この夏合宿を成功させるために多くの時間と努力を費やしたことが伝わってきました。そんな先輩方に感謝しなくてはならないと思いました。とれと同時に、そんな先輩になりたいなと強く思いました。

【徳永夏海】

今回梅沢人間力アカデミーの夏合宿に初めて参加させていただいて、私はたくさんの良い刺激を受けることが出来ました。合宿が始まる前の目標として、私は様々な人と交流を取ることを目標としていたのですが、本当にその目標が達成できるか心配でとても緊張していました。しかし合宿が始まってみると同学年の人だけでなく先輩方とも交流を持つことが出来ました。

3日目のグル研班でのディスカッションをビニールシートの上でなく、芝生の上で行ったことも普段とは違う環境でとても新鮮な気分になりました。また二百人近い人数のアカデミー生をまとめ指揮を執る先輩方の姿に強く憧れました。合宿を終えて先輩方に尊敬の念を抱くと同時に、どうすれば先輩方のようにになれるのかと考えるようになりました。3泊4日、自然に囲まれた中での合宿は私にこれまでになかった経験を与えてくれました。

最後にこのような合宿を企画、運営してくださった梅沢先生、先輩方に深く感謝してい

ます。

【友居ゆか】

8/2～5 にかけて初めて夏合宿に参加しましたが、本当に充実した時間を過ごすことができました。私は人見知りで、参加前は知り合い以外と仲良くできるか不安しかありませんでしたが、そんな不安など全く感じない3泊4日でした。

初日、まず戸隠に到着し、自然の豊かさに驚きました。その分虫も多かったですが、空気も澄んでいてとても素敵な場所だと感じました。そして、200人を超える人前での自己紹介はやはり緊張しましたが、改めて人数の多さを実感しました。また、宿でも先輩、同期、話したことない人ばかりでしたが、特に同期とは1日目から仲良くなり、少しの時間を見つけては皆で集まっていました。

2日目、少し不安のあった山登り。WS班で登ることになり、やはり安心感がありました。途中、少し息が上がり辛いこともありましたが、班のメンバーと支え合いながら、終始楽しく登山することができました。山頂の景色を見たときの達成感は忘れられません。そして、キャンプファイヤー。マイムマイムなど、初めは少し乗り気ではなかったのですが、想像を超える楽しさで、多くの人と話すことができました。

3日目、グル研メンバーと顔合わせ。知り合いが一人もおらず不安がありましたが、すぐに溶け込むことができ、インバウンドについてのディスカッション時には意見を進んで発言できるまでになりました。その後の打ち上げ。こんなにも楽しいとは思っておらず、特に1年生会では多くの1年生と話すことができ、とてもいい機会だったと思います。

初日は自己紹介の時に緊張していたのですが、最終日の総括では緊張せずに話すことができました。これは、たったの3日間でも楽しく、かつ充実した時間を過ごすことができたことで、自分の中で早くも成長できたのだと思います。

この夏合宿を通して、何より楽しく活動することができ、大きな収穫も得られました。他人から見たら少しのことでも、自分の中では大きな成長をすることもでき、先輩方が夏合宿を勧められていた理由を、身を以て感じることができました。こんなにも楽しく内容の濃い活動ができるサークルは他には絶対ないと改めて実感し、既にこの素敵なサークルに入ったことを誇りに感じています。この夏合宿で学んだことを生かして、今後の活動も積極的に参加していきたいです。

【中島詩織】

私は、今回の夏合宿に参加し、2つのことを学ぶことができました。1点目はコミュニケーションのはかり方です。以前の私は、どちらかというと受け身だったため、なかなか会話が続きずつかなく会話が始まっても、すぐに途切れてしまうことが多々ありました。しかし、夏合宿で大勢の人と関わったことで会話の広げ方に少しずつ慣れ、以前より会話が弾むようになりました。特に3日目の夏合宿の打ち上げの終わりに、夏合宿の一年生会

において一年生同士で話す機会があり、そこで少しずつ会話が続くようになり、終始途切れることなく話すことが出来ました。具体的に、私が実践したのは相手が話していることについて興味を持つことです。そうすることで自分から質問することができるので会話が広がりました。

2点目は、多くの人と関わることの楽しさです。今回の夏合宿は200人以上の人が参加したことにより、大学の壁を越えて様々な人と出会うことができました。価値観や考え方が異なる人と出会えたことはとても新鮮で、良い刺激を受けました。

これからは、夏合宿で学んだことを活かし、様々なことに挑戦し成長していきたいと思っています。

【南雲大樹】

3泊4日の長野市戸隠での夏合宿では、総勢約220名の学生が参加したため、普段の火曜アカデミーで関わる機会が持てなかった多くの日大生や、東洋生・帝京生たちと交流できました。初日のバス移動では、バスレクやPAでの食事をきっかけに他校生たちと仲良くなって、新たな仲間を増やすことができました。私は、あぜりあ前で行なった自己紹介で、「100人の人たちと交流を持つ」ことを目標に掲げました。春季WS班の先輩方や同輩たちと共に登山したため、あまり他の班員たちと交流できませんでした。キャンプファイアーや打ち上げなどで親交を深めることができ、100人という目標は早くも達成されました。

3日目のグループ研究班別のディスカッションでは、インバウンド消費をテーマにして、具体的に今後どのように活動していくのかを話し合いました。初対面の人たちと接し、議論する機会は貴重ではありますが、少々緊張や不安を感じ、集中して他人の自己紹介や意見などに耳を傾けられませんでした。しかし、「何事にも積極的にチャレンジする」ことの大切さを春季WSで学んだので、その学びを意識してディスカッションに参加し、自ら班員たちに話しかけにいきました。その行動を起こしたことによって、多少は人見知り改善された気がして、新たに自己成長を遂げられたと実感できました。

今思い返すと、夏合宿は「ただ楽しむだけの行事」ではなく、「さまざまな刺激が受けられる行事」であったと感じました。一番印象に残っている出来事は、最終日の総括でした。先輩方、特に4年生の先輩方の総括を聞いて感銘を受けました。涙を流しながらお話をされていた姿を見て、私が想像もできない程の責任感や重圧を抱えながら、この合宿に全力を注いでいたのだと、恥ずかしながら最終日まで思いもしませんでした。私も、3年後に立派な姿を後輩たちに見せられる先輩になりたいと思い、また、共に切磋琢磨し合える最高の仲間を作っていきたいと改めて感じました。よって、このゼミで活動を続けていくことを決心しました。

梅沢先生が総括の終盤で仰っていたように、総括を聞く事を逃してしまった人たちは非常にもったいないと思いました。また、OBの藤井先輩が仰っていた「真っ直ぐで、熱

い思い」を持つことは、活躍できる社会人になる上で重要であると感じました。今回の夏合宿で得た学びを活かし、今後のグループ研究活動も春季WSと同様、先輩や同輩との人間関係を大切にして頑張っ活動していきたいと思います。ぜひ、来年の夏合宿も参加させて頂きたいです。ありがとうございました。

【習靖智】

私は今回の夏合宿の全体的な目標として、多くの知らない人に話しかけて知り合いを増やすことを目指した。1日目の全員一人ひとりによる自己紹介の時でもこのことを含めた、宿舎に着いてからの感想を述べたが、合宿が終わった今、結果からいうとこの目標は概ね達成できたのではないかと思います。

合宿中の起った大きな出来事でまず思い浮かぶのは、残念ながら2日目の朝から高い熱を出して体調を崩してしまったことである。もともと風邪気味で臨んだせいか、気温と気圧の変化に影響されてしまったのかもしれない。当然、2日目の日程であった登山は辞退し、宿舎ですずっと寝ていることとなった。夜からのキャンプファイヤーも微熱が下がらなかったため大事をとって参加しないことになった。このため、合宿での貴重な機会の一部を逃してしまったことになるが、今回はこの出来事によって驚き気づかされることがあった。朝、体調がすぐれないことを部屋長に相談すると、朝食の後に4年生の先輩が宿舎の方々から借りた氷枕と体温計を持ってきてくれ、風邪薬を持ってきていた人を探してそれも借りてきてくれた。また、その日全員に配られた昼食も別の生活班の先輩が持ってきてくれた。今までかわりのなかった多くの人たちが親身に自分の体調を気遣ってくれたことに驚き、とても嬉しく感じました。

2日目は参加できなかったものの、その後のグル研でのディスカッションや打ち上げで多くの先輩や同期の一年生と交流することができた。アカデミーメンバーの優しさや、人との繋がり大切さを身をもって実感できた合宿でした。

【西田航】

私が夏合宿に参加して一番感じたことは、もっと早くからこの経営研究会というサークルに積極的に、全力で取り組むべきだったのではないかと思います。夏合宿の最後の4年生の総括をきき、自分にはなんて力がないのだろう、なぜもっと真剣にこのサークルと向き合っこなかったのだろうかと後悔しました。夏合宿に参加する以前の私は、毎週木曜日の活動には、取りあえず参加しとけばいいか、というように何の目標もなく、ただ参加だけする日々を過ごしていました。しかし、先輩方や先生のお話を聞いた後これからは、少しでも多く先輩方から学べるものを吸収して自己の成長につなげていきたいと思い、木曜の活動に積極的に参加し、毎回の活動にただ参加するのではなく、なにか目標をもって参加していきたいと思いました。それほどまでに4年生の総括はとても力があり心に響きました。

またこの合宿を通して、まだ話したことのない同期・先輩方、また話したことのあった同期・先輩方ともより話をする事ができ、人脈を広げることができ、自分という存在をより多くの人に知ってもらうことができたのではないかと思います。本当に充実した夏合宿を過ごすことができ参加してよかったと心から思います。

このような機会を設けてくださった梅沢先生をはじめ、先輩方や同期の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

【西村勇輝】

私は1年生ということで初めての夏合宿でしたが、参加する前はとにかく不安でいっぱいでした。私はとても人見知りで、宿の班員やグループ研究の班は日本大学の生徒が多かったからです。私は今回の夏合宿で日本大学の友達を作るという目標を立て、合宿に参加しましたが、すぐに打ち解けることは出来ませんでした。しかし山登りやキャンプファイヤー、打ち上げを通して自然と会話出来るようになり、合宿が終わる頃にはグループ研究の班員だけでなく、他班の班員とも仲良くなる事が出来ました。人見知りの私が3泊4日という短い期間でまったく話したことが無い人と話すことが出来たのは私にとってとても嬉しいことだったし、このような素晴らしい環境で日常を忘れて過ごせたことはとてもいい思い出になりました。

【庭山達成】

私は1年生でという事で初めての合宿参加でしたが、参加前は不安のほうが大きかったです。同じ部屋になった方たちが私を除いて日大生という事も不安の1つでした。ですが、同じ部屋の方たちとはとても話しやすく、2年の先輩とは寝る前に2時間ほど話す機会もあり、とても優しい方たちで初日の不安は杞憂に終わってよかったです。

合宿中のイベントの山登りでは、登山道が野球ボールぐらいの石からラグビーボールぐらいの岩がごろごろと転がっており、歩きにくくとても大変な道のりでしたが、その分山頂に着いた時の達成感は一入のものがありませんでした。撮影班の方たちは列の先頭と最後方を何往復もしていて、とても大変そうでしたが色々遣り甲斐のある役職だと感じました。

合宿のもう一つのイベントのキャンプファイヤーでは直前の雷鳴や、前日も同じ時間帯に雨が降っていたので無事に行えるか心配でしたが、雨も最後まで降らずとても楽しかったです。宿のご主人からは下のキャンプ場では大雨だったと聞いたときは初めての合宿でイベントの目玉とも言えるキャンプファイヤーが中止にならなくて本当に良かったと思いました。

グル研の顔合わせでは先輩、同学年の人たちの人となりを知ることが出来ました。そのおかげか、グル研で調べてく内容について有意義な話し合いが出来たと思います。

打ち上げ、1年生会では多く人の顔と名前を覚えることが出来て交友関係が広がったので、初めての夏合宿に参加して本当に良かったと感じました。

また来年も参加したいと思います。

【長谷川和彦】

私は今回の夏合宿を通して感じたことが3つあります。

1つ目は先輩方の偉大さです。今回の合宿は大東の4年生が主となり指揮を執っていました。200人以上もの人数を混乱させることなく、合宿を終了まで導いたリーダーシップや4年生同士の団結力には感銘を受けました。

2つ目は先輩方の話の重みです。合宿では多くの先輩方からのお話を伺うことが出来ました。その一つ一つに自分の経験が含まれており、私にも当てはまることも多く、今後の糧となるものばかりでした。

3つ目は同期の存在です。合宿のおかげで共に励まし競い合う同期を見つけることが出来ました。今回の夏合宿では様々な価値観と触れ合うことができ、今までの私の価値観、考えを見直すことのできた夏合宿となりました。このような場を与えて下さり本当にありがとうございました。

【畑沢秀人】

私は今回の夏合宿を終えて、新たなアカデミー生たちとの交流を、大学や学年に関わらずに出来たことが貴重な経験になったと思いました。初めて話した同期とも友好的な関係を築き、楽しい居場所が作れました。

また、他大学の4年生の先輩の方などとじっくりと話す機会が作れて、就活やコミュニケーションスキルの実践的な話を聞いたり、社会人になっていく先輩の振る舞い方などを近くで見て学ぶこともできました。登山やキャンプファイヤー、ディスカッションなどのイベントを一つ一つこなすうちに、自ら全体をひとつにするべき意識を持って、楽しもうと積極的に活動した結果の充実だったと思います。

今回は完全に、参加して提供される姿勢で居てしまったことが反省点であると思います。自分は何ができるか、何をすべきかを積極的に考えて、次回は関わっていきたいと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を準備して下さった梅沢先生、合宿関連の方々、先輩方に感謝の気持ちをお伝えしたいです。本当に楽しかったです。

【林朋美】

私は、夏合宿当日まで楽しみというより、とても不安な気持ちでした。なぜなら、元々人見知りで、知らない人がたくさんいる環境が苦手だということ、そして、宿の同じ部屋の人が私以外は東大生だったので、私以外は仲良くなってしまっているのではないかと心配していました。しかし、合宿当日は、宿に到着してすぐに先輩方が声をかけてくださり、仲良くなっていただき、不安な気持ちはすぐになくなりま

した。また、同じ宿の1年生女子は、皆すぐに仲良くなり、気がつくとも自然と1つの部屋に集まり、いつまでも話が絶えないという感じで、3泊4日とても楽しく過ごすことができました。

また、私が夏合宿を通して1番印象に残っていることは、4年生の先輩方の総括です。ほとんどの方が同期の仲間存在についてや、アカデミーで活動することができるのがあと半年しかない、といったお話を涙を流しながらされていたのが印象的でした。私は、夏合宿を通して多くの同期と知り合い、仲良くなることができましたが、まだまだ知らない人もいますので、これからは自分から積極的に関わり、先輩方のように大切な同期の仲間をたくさん作っていきたくと改めて感じました。また、そのかけがえのない仲間たちと過ごす時間を大切にしていきたいと思います。

【深野未来】

私は夏合宿を通じて感じたことが2つあります。一つ目は人を動かすことの大変さです。生活班に配属され、先輩たちの仕事を近くで見ることが出来たり、仕事を任せていただく中で、夏合宿に参加した200人を超える人たちをまとめるのはほんとうに大変なんだということを実感しました。バスの休憩時間であったり、お風呂の入る時間、移動時間も、規制があり、初めはなぜだろうと思いました。しかし、それには団体をどうすればスムーズに動かすことが出来るのかということを考え、色々なルールを作ってくれた先輩たちの工夫が詰まっているからなんだと気が付きました。みんなが自由に行動していたら、あれほどみんなが参加して良かった、という夏合宿を作ることができなかつたと思います。先輩たちが、少しでも良くなるように、夜遅くまで仕事をしてくださったり、2ヶ月以上前から準備をしてくださっていたことを知り、感謝でいっぱいです。

二つ目は人と関わることの楽しさです。夏合宿では、たくさんの人と関わる事が出来ました。部屋割りやバスの座席も学年関係なく割り振られていて、初めはものすごく不安でした。初対面の人と4日間も山の中で過ごせるのか。楽しめるのか。でもそんな不安もすぐに吹き飛びました。私は4日目の総括をしているときに、帰りたくないなと感じました。それほど、たくさんの同期と関わる事ができましたし、新しいグループ研究の班も発表され、ディスカッションをしていく中で、また新たな価値観にも触れることが出来ました。

今回の夏合宿で、改めて先輩方の偉大さを感じました。先輩方と一緒に活動出来る時間は限られているので、今のうちにもっとたくさんのことを吸収したいなと思いました。そして、来年の夏合宿にも是非参加させていただきたいなと思っています。

【保科慶紀】

今回、初めて夏合宿に参加させてもらい、企画や運営には全く携わることはありませんでしたが、先輩のお言葉や先輩の姿を見ていると企画や運営をすることの大変さ、難しさを少なからず知ることができました。残念ながら、企画をしている先輩方の姿を直接見る

ことはできませんでしたが、運営をしている先輩方の姿は見ることができ、やはり頑張っている人の姿というのは本当に格好いいと思いました。

今回の合宿では指示を受け、ただただ先輩方についていくだけの合宿でした。しかし、何の運営もしていないからこそ、見えるものもあったと思います。今後はこの合宿での経験を次回合宿にだけでなく、今後の色々な活動に活かしていくことで、今回の合宿がさらに意味のあるものとなるように頑張っていきたいです。

【保坂憲一】

私は初めての夏合宿ということで行く前まで知らない人が沢山いる中、上手くやっているか、どのようにして自分を知ってもらおうかなど不安がありました。特にインゼミ・グル研の班が発表されて知っている人が少なくて本当に不安でした。そんな中この合宿で一番感じる事ができた先輩の暖かさを実感できました。

また、私はキャンプファイヤーのイベントで特に何かしたわけではないですが劇の一員として参加できたことは凄く大きくて、自信がつくきっかけにもなっていると思います。そこでも何をしたいのかもわからないまま話合いに参加している時でも、先輩方が面白いことをしたり、話しかけてくれたりと場の雰囲気と和ませてくれて楽しくできました。

この合宿で一番強く感じたことはやっぱり先輩方の偉大さです。

最後に4年生の総括を聞いて、中途半端な気持ちでやっていたら涙が出るほどの感動は生まれないのかなと思ったので、これからの活動にはしっかりと参加していき、技術なども身につけていきたいなと思いました。

私も来年は先輩になるので後輩には積極的に話しかけ、まだ名前を覚えてもらっていない先輩にも覚えてもらいたいと思います。合宿も運営する側になれば協力して楽しい合宿にしていきたいと思いました。

楽しい合宿をありがとうございました。

【本田ひかり】

私は、3泊4日の夏合宿を通して、仲間の大切さや自らが積極的に行動していくことの大切さを学ぶことができました。この合宿に参加する前は正直怖くて、4日間を無事乗り越えられるかが不安でした。実際に朝バスの前に集合してみると知らない人がほとんどで更に緊張してしまいました。しかし、このままでは何も変わらないと思い前回のワークショップを通して学んだことである「何事にも挑戦してみる」というフレーズを思い出し自ら積極的に話しかけることができました。気づけば、大東の人たちだけでなく日大や東洋の人たちとも関わりを持てるようになりました。そして同期だけでなく先輩方とも話す機会があり、今からしておくべきことなどという貴重なお話も聞けたので良かったです。また、普段の生活では味わうことのできない山登りやキャンプファイヤーがとても楽しかったです。山登りは思っていた以上に険しい道のりでしたが、班の仲間同士で励ましあって登っ

た山頂からの景色は疲れを忘れさせるとても素晴らしい眺めでした。キャンプファイヤーでは少しの演出でしたが村人として前に出ることができたので良い思い出になりました。そして最後の総括では、四年生のお話を聞いてとても感動しました。四年生間での信頼感や絆の深さが真摯に伝わってきて改めて偉大さが身に沁みました。私達も三年後には、今の四年生のような素晴らしい学年でありたいと思える合宿でした。

【牧史弥】

夏合宿を通して、この経営研究会では人と人とのつながりを大切にしているのが改めてよくわかりました。

この合宿の初めは具体的になにを行うのかわかんなくて戸惑いとか周りには知らない人ばかりで不安が多少なりともありましたけど、ちょっとした時間に会話をしたり、登山やキャンプファイヤーで同じ思い出を共有することによって同期や先輩方と仲を深めるきっかけになりました。また、この夏合宿を楽しく過ごせたのも先生や先輩方の尽力のおかげでした。私達の目に見えないところでも先輩方はたくさんの苦労があったのも最後の総括をきいていて感じました。でも、その苦労を成し遂げるには仲間が存在が非常に大きく、仲間がいたからこそやっていけたという意味がこの合宿を通してわかりました。それは共に苦労した経験や楽しかった経験を共有することができた仲間だというのが一つの大きな要因なのかなと思いました。楽しいことだけじゃなく、苦しいことも乗り越えたからこの仲間ができたのかと先輩方を見ていて思いました。

この合宿で人や自然と触れてみて、大学生の今だからしか経験することができない経験をして、同期の仲間や身近に先輩方のようなお手本があることを知れて、人と人とのつながりをすごく実感することができた夏合宿でした

【幕田流星】

夏合宿に参加して私は、学校・学年・性別問わず様々な人と交流することが出来、これから活動を通してまた交流し続けたいと思いました。また普段当たり前に行っていることを普段と違う環境ですることの新鮮さと私は幸せなのだなと感じました。合宿参加前は正直あまり乗り気ではありませんでした。行きたくないなと思っていました。それは200人以上もいてその半分以上が知らない人たちというなかでやっていけるのか不安があったからです。人と交流することは元々嫌いではないむしろ好きな方だけど、人数が人数なだけに不安しかありませんでした。でも参加してみて、宿舎で一緒になった同期や先輩とお話することで、打ち上げなど様々なイベントを通して知り合いが増えていくのがとても楽しくて参加してよかったなとすごく思いました。打ち上げでは今までも話したことのある人との交流が多かったですが、打ち上げの後の1年生会でたくさんいる同期の中の話したことのない人とも少し話すことが出来ました。人数が多くて半分以上知らない人たちでも、人と交流することは楽しい！と改めて実感できました。知らない人と交流すると様

々なことが楽しく感じるので不思議だなと思います。まだ交流することの出来なかった人もたくさんいるのでこれからのアカデミー活動を通してもっとたくさんの人と交流していきたいと思いました。また、朝食や夕食のときに全員が自由なところに座ってお話しをしながら食べたのが私の中ですごい印象に残っています。もっと他に様々なイベントがありましたが、食事が一番印象深いです。すごい楽しく食べることができたというわけではないのですが、いつも当たり前にする食事で、隣も前も斜め前も座っている人が違って、ぎこちない会話をしながらするのは新鮮な感じがしました。誰かとする食事っていいなと改めて感じました。他にもお風呂とか宿舎の中でする挨拶とか当たり前のことが全体的に新鮮に感じた合宿だったなと思います。そして何よりこんな風に当たり前のことが出来る自分が幸せだと感じました。今回この夏合宿に参加して、自然に囲まれた中で200人以上の同期や先輩方と楽しく過ごせたことを本当に幸せに思っています。ありがとうございました。

【松崎帆那】

夏合宿に参加する前、私は三泊四日のこの活動に二つの不安を抱えていました。一つ目は友人や知り合いの少ない状況で参加することから生じる不安です。これはバスや宿泊またその他様々な活動をアカデミーのまだ知り合っていない人と行うことに対するものでした。そして二つ目の不安は夏合宿の活動の一環である登山でした。先輩方の夏合宿勧誘でのお話を聞き、登山を楽しみにすると同時に体力面での不安がありました。

しかし実際に夏合宿に参加すると、私はこの不安を忘れてしまうほど充実した四日間を過ごすことができました。アカデミーのみんなと囲んだキャンプファイヤーや瑠璃山の頂上から見た風景は、忘れられない夏の思い出になりました。また宿舎での生活や芝生の上でのディスカッションは、普段のアカデミー活動で会うことのできない他大生との交流、また先輩方とお話しさせていただく貴重な機会となりました。今夏合宿を企画、運営してくださった幹事を始めとする先輩方、そして梅沢先生には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にすばらしい四日間でした。

【松元日向】

今回の梅沢人間力アカデミーの夏合宿を終えてまず率直に感じたことは凄まじい疲労でした。自分は家の事情で残念ながら二日目の登山を終えてから帰宅をしたのですが、登山が終わって風呂に入っただけでほとんど休まずすぐにバスで五時間、そして電車は人身事故の影響により一時間で家に到着する予定だったのが二時間をかけてやっと家に到着しました。次の朝起きたら筋肉痛で歩くのが大変でした。

しかし悪いことばかりではありませんでした。登山はもちろん辛かったけれど、その辛さを一緒に登っていた仲間たちと共有することでみんなも同じようにつらいけど頑張っていると私をもっと頑張ろうと思った不思議と頑張れたこと、そしてワークショッ

ブ班のみんなと楽しい話をしながら登ったのでとても充実したこと、登山以外にも宿舎で一緒の部屋になった友達や先輩が自分は二日しかいれなくても親しくしてくれたこと、食事のとき同じテーブルだった人と積極的に話しをできたこと、行きのバスでも他己紹介を通して周りの人と仲良くなれたこと、帰りも一緒に早退する人とバスが来るまで一緒にラーメンを食べに行ったりできるほど仲良くなれたこと、などなどこの合宿に来て本当に良かったと思いました。

私はワークショップが終わったくらいからこの経営研究会に入ったのでワークショップ班のみんなとは合宿の前までなかなか皆と打ち解けられずにいて悩んでいたのがこの合宿の目標の一つを達成できて本当に良かったです。合宿の前の自分は早々早退をするから全然充実なんてするわけないと思っていましたが、こんなにも充実して本当にもっと残っていたかったと思いました。来年こそは絶対最後まで参加したいです。

【松村泰志】

自分はこれまでの活動で17班の仲でしか交流がなかったので、合宿は話したことのない人とも交流をする良い機会になりました。そして気の合う友達が何人もできて4日間楽しむことができました。

【丸山寛之】

今回の夏合宿に参加できてとても良かったです。色々な人とつながる良いきっかけになったと思いました。

一日目は朝早かったです、無事に起きられてよかったと思いました。バスの中では隣に座った先輩がとてもいい人で良かったです。でも、昼の自己紹介の時は失敗してしまったので、悔しい思いをしました。その日は夕食が美味しかったので良かったです。

二日目は山登りしました。山登りはとても大変でしたが色々話しながらだったのでとても楽しかったと思いました。また、キャンプファイヤーもあったのでとてもいい日でした。そのおかげで話したことなかった人とも色々話せてよかったと思いました。

三日目は昼にグル研の人たちとディスカッションして班の人と話せて良かったです。その夜一年生会があって、その時に話したことなかった人とも少しではあったが話せて良かったです。

四日目は朝に総括があって、感想を話しました。その時は上手く言えて良かったです。バスの中ではやはり疲れて寝てしまいました。

合宿はとても良いものだったと思いました。参加させていただき感謝しています。

【見田直也】

今回の合宿に参加させてもらって、自分は色々なことを得ることができました。

まず、みんなの前で一人で発表するという緊張感を体験させていただきました。このよ

うな機会はなかなか経験することができなく、また自分の苦手なところを発見することができました。みんなの前で自分の感想をまとめそれを伝えるのがこんなにも難しいことなんだということを知ることができました。

そして山登りを通して仲間との団結力が深まったことです。みんなで声をかけあったり、励ましあったりすることで辛い山登りも楽しく苦ではないものになりました。このようなことで、仲間との仲が深まり、そして協調性もまた強まりました。この合宿を計画して下さった先輩方、そして梅沢先生このような経験をさせていただき本当にありがとうございました。

【宮下奈那子】

私は、今回の夏合宿を通して学び成長したことが1点あります。それは受け身の姿勢から能動的に動くことが出来るようになったことです。以前の私は夏合宿に参加する前は不安で仕方ありませんでした。何故なら、今回の夏合宿は私にとって初めての合宿であり、それに加え私用で途中参加であった為、初対面の人と上手く関われるかと考えていたからです。

今回の夏合宿では、先輩方から登山で仲良くなれた人が多いという話を聞いていたため参加できなかったことが心に引っ掛かり、途中参加でみんなの輪の中に入れるか不安で行動も消極的になっていました。しかし、キャンプファイヤーや打ち上げの際、隣りにいた人と話してみると、気さくに話してくれる人が多く、とても楽しい時間を過ごすことができました。その結果、自分からも積極的に会話できるようになり、当初の不安も自然となくなりました。

今回の夏合宿では、多くの人と関わることができたけれど、まだ話せていない人も大勢います。従いまして、これからの社会人交流会の活動を通して、まだ関わっていない人と話してみたいと思いますし、合宿で仲良くなれた人とももっと絆を深めたいと思います。

【村上彩恵】

梅沢人間力アカデミーの合宿に参加する前に「多くの友人をつくる」という目標をたてました。目標を達成するためには自ら積極的に話しかけることが大切だと考えました。最初は緊張から上手く話すことが出来ませんでしたが、同室の友人から始まり、友達の輪を広げていくことができました。人脈はこのように点と点を結びつけていくようにして広がるのだなど、実体験を通して感じることができました。日本大学をはじめ、大東文化大学や他の大学との垣根を越え、一年生女子とは少しではありますが、全員とコミュニケーションを取ることができたのではないかと思います。一年生女子だけではなく、一年生男子や先輩方ともお酒の力を借りてではありますが、打ち上げやキャンプファイヤーなどのイベントを通して、親しくさせていただきました。

バスではレクリエーションを通して、知らない人とコミュニケーションをとる機会があ

りました。また、宿舎での生活や、食事の際でも初めての方との出会いに溢れていました。登山の際は、足場が悪く、何度も挫けそうになりました。しかし、一緒に登山した春季ワークショップの班員が「リュックサックをつかんで登っていいよ」と助けてくれ、転んだ時には、手を差し伸べてくれたおかげで、頂上からの美しい景色を眺めることができました。励ましあいの大切さ、仲間の大切さ、団結力を学びました。

春季ワークショップ 8 班は、人数が多く、また、日大生のみで構成されているので、安心感がありました。グル研では、多くの大学の学生が混在していて、自分の意見を述べることは、とても緊張しました。しかし、その緊張を乗り越えることで、僅かではありますが、成長できたのではないかと考えています。

しかし、多くの事を学んだと同時に、自分自身の未熟さを痛感した 4 日間でした。先輩方や、同期までもが生活班などで、前に立って、合宿を円滑にすすめるために、行動している中、私は自分自身のことしか考えていませんでした。周囲を見て、考えて行動してこうと、改めて決心しました。

また、先輩方の団結力、忍耐力、決断力、行動力、積極性、責任感を目の当たりにし、先輩方のようにになりたいという目標を新たにたてました。先輩方の背中が、まだまだ遠いですが、梅沢人間力アカデミーでの活動を通して、先輩方のように、人に目標とされるような人間として成長していきます。

このような機会を与えてくださった梅沢先生に感謝しています。忘れられない素敵な夏の思い出ができました。ありがとうございました。

【八木橋和生】

夏合宿に参加してみて、4 日間を自然の中で過ごすというだけでもなかなか出来ないところであるにも関わらず、この夏合宿では普通に生活している中で関わりを持つことがないような先輩方などとも知り合うことができ、

また、1つのことを共有出来ると同期とも知り合うことが出来、このような出会いがとても貴重であるという事を感じました。

このような出会いが今回の夏合宿においての山登りやキャンプファイヤーといったイベントを一段と盛り上げる事につながったのではないかと思います。そして、先輩方のこの夏合宿を成功させようとどれだけ頑張ってくれていたかが凄く伝わってきましたし、自分達の先輩方はこんな凄いのだと改めて実感した 4 日間でした。

【矢澤和希】

今回夏合宿に参加して 1 番感じた事は、参加して本当に良かったということです。

最初は日大や大東に知らない人が多く、本当に楽しめるのかとても不安でした。しかし、登山、キャンプファイヤー、打ち上げ、ディスカッションを通して沢山のひとと友人になることができました。誰一人として知らなかった日大生とたくさんの関わりを持つことがで

き嬉しく思いました。

そして、新しくなったグル研の班でもすぐに打ち解けて、楽しくディスカッションすることができました。ディスカッションでは一人ひとりがそれぞれ違う考えを持っているんな価値観にふれることができおもしろいなと感じました。色々な価値観を持った人たちがいる、このサークルの魅力の一つだと思います。

最後に、この夏合宿をきっかけにこれからの活動がとても楽しみに感じるようになりました。これから、楽しく活動し、学び、成長していきたいです。

この夏合宿を作り上げていただいた、先生をはじめ先輩方、本当にありがとうございました。来年もぜひ参加したいです。

【柳瀬真奈】

私はこの夏合宿を今振り返ったとき、多くの人と関わることができたなと思うと同時に、時としてその方から良い刺激を与えていただけたなと思います。私はこの夏合宿へ行く前、まだ関わったことのない多くの人と関わりたいと思い参加しました。私は今までの活動の中で班内の同期や大東の先輩方としか、ほとんど関わってきませんでした。だからここの機会を使い、自ら積極的に話しかけることを心がけ、4日間を過ごしました。時に自ら話せないときもありましたが、今まで話したことのなかった方や、お会いしたことのない方なども沢山関われ話せたと思います。中でも、行きバスで隣だった先輩とはかなり話せ良い刺激を与えていただけたなと思います。その先輩とお話する中で、自分の将来の夢のことについても考えることが出来ました。また他にもグループ研究のチームで集まりインバウンド消費について話し合ったとき、それぞれで考えていることや見方が違い、それぞれの考えなどを共有し決めていく中で、皆で話し合う楽しさなど感じました。

最後に、先ほど多くの方と関われたと言いましたが、まだ話したことのない方も数多くいるので、これからの活動をしていく中で、さらにいろんな方と関わって行きたいと思います。

【柳瀬由花子】

私は、今回の夏合宿に参加する前は、普段交流のない他大学の生徒などと3泊4日を共にすることに対して、とても不安を抱いていました。しかし、夏合宿を楽しみ思い出にするために、夏合宿に参加するにあたって、多くの人に自分から話しかけるという一つの目標を立てました。目標を立てたおかげで、意識して自分から話しかけることができたため、有意義な3泊4日を過ごすことができたと思います。

また、幹事団やイベント班の皆様が企画して下さった、山登りやキャンプファイヤー、打ち上げなどを通して、横のつながりだけでなく、縦のつながりも築くことができました。その結果、人とのつながりの大切さを改めて認識することができました。

私は、夏合宿を通して多くの素敵な思い出と大切な仲間を作ることができました。夏合

宿を楽しい思い出にできたのは、梅沢先生をはじめ、幹事団や様々な班の皆様が、長い間多くの時間を割いて、企画して下さったためだと思います。また、参加者全員が楽しい夏合宿にしようという意識をもって参加していたためだと思います。私は、改めて既存生の偉大さを感じることができました。それと同時に、次回参加する際には、自分も夏合宿を支える側になりたいと強く感じました。今回の夏合宿は、自分の価値観を変えるととても貴重な時間であったと思います。とても楽しい3泊4日を過ごすことができました。このような機会を与えてくださった梅沢先生をはじめ、今回の夏合宿を企画、運営して下さった幹事団、様々な班の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

【山崎慎斗】

私は夏合宿に参加する前は、あまり夏合宿にいい印象を抱いていませんでした。その理由は単純で参加費にだいぶ痛手を負ったからです。私はまだ1年で費用は先輩方や梅沢先生と比べると、比較的安めではありますが、やはり3万円近い金額というのは学生の視点から見るととても大金です。合宿の内容が薄くて、あまり意味のない物だったらどうしようかとも思っていました但实际上に合宿がおわってみると、あれだけの事ができて3万円が良かったのかと思いました。あれだけの事という言葉の中には2つの具体的な理由があります。1つ目は単純に楽しかったということです。私のなかで最も楽しかったことは3日目の夜に行われた1年生会です。なぜかと言うと、他学部他大学の人との交流を深める事ができたからです。それまであまり話したことがなかった人や既に仲のいい人、初対面の人とまで話で盛り上がりとても楽しかったです。しかし、その中には課題も残りました。まず初めに、1人ずつ簡単に自己紹介をしたのですが、この人大東なのか、と驚いたことが少なからずありました。同じ大学で同じサークルの同期の人の名前ぐらいは完璧に知っておきたいと思いました。2つ目は先輩方どうしの信頼を目で見る事ができたからです。幹事長をされた倉田先輩は役職の長にその人を信頼して任命されていましたし、任命された先輩も倉田先輩の事を信頼されていて、やはり長い間一緒にいらした先輩方の絆はとても深くて固いのだと思いました。合宿中も役職を任された方も役職を楽しそうに全うしていました。最後の総括では3.4年生が涙ながらに信頼や感謝の意を語っていらっしゃいました。役職というのはとても大変で、でも信頼できる、してくれる仲間がいる。そんな先輩の様に私もなりたいという憧れが一層強くなりました。3つ目に梅沢先生と2人でお話する機会があったということです。3日目の夜私は1人で歯を磨きに行きました。そこに梅沢先生もいらっしゃり、歯を磨きながらではありましたがお話しをさせて頂きました。梅沢先生が私に将来の事をお訪ねになり、私は行きたい業界が既に決まっていたのでその事を話すと先生は、その事が私の人生を狭めているとおっしゃっていました。上級生になって視野が広がってから考えてみた方がいいともおっしゃっていました。それを聞いて私は何か胸に刺さる様な物がありました。やはり梅沢先生はとてもすごいお方なのだと改め

て思いました。最後に、夏合宿に参加して本当に良かったと思いました。来年は私もできるなら何かの役職について先輩方に少しでも近づいていきたいと思えます。

【山田知玄】

私には夏合宿に行くに向けての目標がありました。それは、宿舎が同じ人達を含め 30 人の人達と交流することでした。夏合宿に行く前は知らない人がほとんどですしさらに先輩もたくさんいる、その中でホントにそんなにたくさんの人と交流できるのか不安でした。ですが、山登りやキャンプファイヤーを通して山登りでは、互いに励まし合ったり、キャンプファイヤーでは、一緒に騒いで盛り上がりなどたくさんの人達と交流することができました。

このような機会を設けていただきありがとうございました。とても、楽しい合宿になりました。

【山田隆誠】

とても楽しみであった 3 泊 4 日の夏合宿を無事に終えることができた。私は、人見知りの性格なので、上手に友達を作ることができるのか、気温の変化が激しいところなので、体調管理は大丈夫か等、夏合宿に行く前は不安なことがたくさんありました。私は夏合宿の目標を、たくさんの人に話しかけて友達を作ること、体調管理に気を付けること、そして、また来年も夏合宿に参加したいなと思えるように 3 泊 4 日を過ごすことにしました。

夏合宿初日、緊張の中、長野行きのバスに乗り出発した。バスの中のレクを通して、周りの席の人と話すことが出来た。周りの日大の人たちは、みんなフレンドリーで、とても話しやすく楽しかった。私は、宿舎は あぜりあ で、大部屋でした。大人数の部屋で、他のルームメイトは話したことのない人たちばかりでしたが、1 年生が多くて、すぐに場になじむことが出来ました。初日の自己紹介では、緊張はしましたが、自分の目標など話したいことを大きな声で話せて、とても良かったです。自己紹介も終わり、初日は無事終了だと思えました。夕食のとき、同じ席になった先輩方とお話をしていて、私と同じ地元の方もいて、とてもびっくりしたのを覚えています。お風呂は、アコールドまで行かないと入れなかったのが、大変でしたが、とても気持ちよかったです。

2 日目は、楽しみにしていた山登りです。WS の班で登ることになり、道中、いろんなことを話したり、写真を撮ったり、さらに仲が深まったような気がします。山登りは、運動不足の私にとっては、辛いところもありました。先輩方に話を聞くと、今年の山登りは昨年より辛かったと仰っており、年々辛さが増していくのかなと思ったり、来年が大変だなと思ったりしました。夜のキャンプファイヤーでは、イベント班の皆さんが、夏合宿が始まる前から考えてくださり、とても楽しい時間を過ごせました。

3 日目は、グル研の班でのディスカッションを行いました。私の班は、日大生の数のほうが多いですが、同じ部屋だった人や同じ WS の班の人もいて、気まずい場にはならず、今後

の活動が楽しみになってきました。夜の立食パーティーでは、多少お酒の力も借りて、多くの人に話しかけることが出来ました。その後の学年会でも、いろんな方と話すことが出来、あっという間に時間が過ぎてしまいました。ついに明日は最後の日と思うと、もう少しここにいたいなという気持ちが出てきて、寂しくなりました。

最終日は総括で、夏合宿の感想を発表しました。私は、夏合宿での目標を達成できたのではないかなと思っています。体調管理を整えることも出来、多くの友達も作ることが出来ました。また、来年も参加したいと思うことが出来ました。これはすべて、梅沢先生と4年生を中心とした先輩方のおかげです。本当にありがとうございました。

私も来年になれば、後輩が出来るので先輩になります。来年の夏合宿では、何かしらの役職についてもつかなくても、合宿が成功するように少しでも力になればいいなと思っています。これからの活動を精一杯頑張っていこうと思います。

【山之内優花】

私は夏合宿に参加して、沢山のことを学ぶことができました。特に印象に残っているのが、先輩が仰っていた“人脈は宝”という言葉です。夏合宿を通して、この言葉の大切さを知ることができました。

私は外せない用事が入ってしまっていた為、夏合宿の初日から参加することができませんでした。そのため、二日目の登山後からの参加になってしまいました。登山後の夕食前の時間では、大学の壁を越えてみんな仲良くお喋りをしながら夕飯を食べるまでの時間を楽しそうに過ごしていました。そんな中、夕飯の席は自由席だったため、まだ話したことのない子が多かった私はどこに座ろうかと戸惑っていました。すると、唯一話したことのある同じ大学の同じ学科の友達が「ここにおいで」と席に誘ってくれました。その子が他大学の子たちに私の紹介をしてくれたおかげで、同じテーブルに座っていた他大学の子たちと仲良くなることができました。

夕飯後、部屋に行くと、夕飯のときに同じテーブルで喋り仲良くなった他大学の子がいました。その子は私を見ると笑顔で「さっき話したよね」と言ってくれました。部屋にはその子以外に、他大学の先輩、同級生、同じ大学の先輩がいました。先輩方は優しく気さくに話しかけてくれ、他大学の同級生の子も親しげに話しかけてくれたのですぐに打ち解けることができました。

夏合宿三日目のディスカッションでは、“インバウンド”という難しい課題について話し合いました。自分にはなかった意見を先輩方や同級生から得ることができ、とてもためになりました。

夏合宿最終日の総括の時間、途中から私は体調が優れず宿舎で休ませてもらいました。しばらくすると生活班の先輩が、総括中にも関わらず薬を持ってきてくれて「遅れてごめんね」と声をかけて下さいました。また、その先輩は私が寝ているときに自分の上着を掛けて下さいました。

私はこの夏合宿で“人脈は宝”という言葉を変えて実感することができたと思います。これからはこの夏合宿で学んだ人との繋がりを大切に、先輩方のように周りに気遣いができ、積極性のある人間を目指していこうと思いました。

この夏合宿を企画、主催して下さいました梅沢先生、先輩方、本当にありがとうございました。貴重な良い経験をすることができました。

【山本航輝】

6月後半から経営研究会に行き始めた私は、正直合宿に行きたくなかった。なぜなら知り合いがほとんどいなかったからだ。友達を作れるか不安だった。

しかし、その考えは、集合場所に到着した瞬間一変した。乗車待ちで列に並んでいた時、前にいた先輩が私に話しかけてきてくれたのだ。それから緊張がほぐれ、全日程が終了する頃には親しくなった人がかなりの数になっていた。とても息が合う人とも知り合うことができた。

また、登山やキャンプファイヤーを始め、すべてのイベントが楽しく、本当に良い思い出を作ることができたと思う。

始めは嫌々参加した合宿だったが、今思えば参加して本当に良かったと思う。

【山村真子】

今回、私が夏合宿に初めて参加して主に思ったことが2つありました。

1つ目は、人脈がとても広がったということです。夏合宿前は、ほとんどワークショップ班の先輩方や同期しか知らない状況でした。また、自分自身が人見知りなので自分から話す事が苦手で知り合いを作る事が出来ませんでした。しかし、夏合宿で他大学の人や同じ大学の初対面の人と話さなければならない場面が多く、話している間に自分から積極的に話せるようになっていました。同期から自分から話せるようになったねと合宿後に言われた時はとても嬉しかったです。

2つ目は、先輩方みたいにならなければいけないと思ったことです。先輩方の周りの状況を細かく確かめて的確な判断をして臨機応変に指示を出すという行動は、今の自分には絶対に出来ないなと思いました。そして、そのような先輩になるためにはこれから様々な経験を積んでいかなければならないと思うことができました。

今回の夏合宿でとても自分自身にとっていい経験が多くできました。この経験を無駄にしないようにこれから頑張っていこうと思いました。

【山本麻莉子】

初めての夏合宿に参加させて頂きとても身のためになる経験をしました。

登山ではあまり他の班との交流が少ないのかなと思いました。休憩の合間などお互いに話す機会があつて頂上にたどり着いた時はお互いに「お疲れ様」と掛け合い自然を体

全体で感じただけでなく達成感があってすごく貴重な体験でした。

グル研では新しいメンバーで今までとは違う活動で他大学のメンバーが多かったこともあり不安でしたが、先輩が優しくして下さり、同期とも仲良くなれて一安心でした。今後の活動でさらに仲良くなって交流を深めたいと思いました。

キャンプファイヤーや打ち上げでは一番様々な人と交流ができてとても楽しかったです。自己紹介恋バナなどお互いの話をしているうちに第三者を通して繋がっていたことにとっても驚きと共に意外と世界は狭いなとも感じました。さらに、心理ゲームを行ったときは相手がどんな風に考えているのか分かってこれからのアカデミー活動に役立つのではないかと思いつても面白かったです。

総括では先輩たちが一生懸命に夏合宿を成功させようと頑張っていたことがとても身に染みました。同室の先輩方も部屋長の務めを果たし夜遅くまで反省会など話し合いなどして感謝のきもちでいっぱいになりました。私も先輩の立場になったら今の先輩方のように立派になりたいです。

来年も夏合宿に参加してさらに交流を深めて多くの人と繋がり楽しみたいです。

【湯浅充】

僕が社会人交流会の夏合宿に参加し感じたことは2つあります。1つは自然のありがたさを感じたことです夏真っ盛りのあの時期にあれほど外で冷たい風を浴びる経験は初めてでした。改めてそのような自然の力を失ってはいけなないと考えさせられました。

2つ目はこの社会人交流会に対しての先輩たちの思いです。総括での先輩たちの言葉、その思いを聞き後輩たちがなにを考えなにを思うか、間違いなく後輩たちはその言葉を受け一人一人社会人交流会に対しての思いが変わったかと思えます

私は社会人交流会で1年レクリエーションの幹事をやらせていただき、まとめることの大変さを身をもって感じました。

ここが自分の居場所なんだと改めて考えさせられました。今後はこの合宿で得た経験を無駄にせずこの社会人交流会に貢献していきたいと思えます。

【吉井章裕】

私は遅刻早退で合宿に行きました。そのためみんなと一緒にいる時間があまり多くはありませんでした。中でも一番楽しかったのは最終日前日の立食打ち上げパーティーでした。今まで絡んだことのなかった日大や先輩方とお話をできたり仲良くなれることができ楽しかったです。今までは話すことがなかった人と合宿をきっかけに話すようになりました。また、たくさんの人との新しい出会いがあり新たな友達、交流がより深まりました。合宿に参加してよかったです。

【吉田知世】

私がこの合宿を通じて最も感じたことは、いままで話したことのなかった多くの同期や先輩と交流することが出来たことです。

今回初めて参加する合宿だったので、キャンプファイヤーや打ち上げなどがどういったものなのかと楽しみに思う反面、慣れない場になると

人見知りをしてしまうことがあり、話したことのない人と仲良くすることが出来るのかと合宿前日まで不安に思うところがありました。なので、私は自分の中で「話したことのない人と交流をする」ことを心掛け、少しでも人見知りをしないようにと決めたのですが、合宿初日ではまだ場に慣れることが出来ず話しかけることにも躊躇してしまいあまり話しかけることが出来ませんでした。でも過ごしているうちに少しずつですが同期や先輩と会話を増やすことが出来るようになり、同じペンションの同期とは、時間があるとみんなで1つの部屋に集まり、話をしたり遊んだりするくらい仲良くなることが出来ました。

もしも合宿に参加していなかったらこんなにも多くの同期、先輩と交流することは出来なかったと思いますし、ましてや他大学との交流はこのサークルに入っていなければ大学生活の中でなかったと思います。

私はこんな素晴らしい機会に参加できて本当に良かったです。また次参加するときはより多くの人と交流を深めたいと思います。

【渡邊慧】

私はこの三泊四日の合宿で得るものが沢山ありました。合宿には初めての参加だったのでどのような感じなのかも分からず不安と緊張感を持って初日の朝を迎えました。先輩方からのお話で楽しいという意見もあったのでワクワクもしていました。この合宿では100人くらいの人と話すことを目標としていましたが、実際には70人程の人としか話せず目標を達成することは出来ませんでした。70人でもこれだけの人と話せる機会というもの滅多になく誇らしく凄いことなのだ実感しています。山登りでは眩しい日差しの中、汗を流しながら班員と登り、翌日筋肉痛になるほど大変でしたが山を登り切り頂上から景色を見て達成感を得ることが出来ました。下り坂のほうが私は大変で何度か転んでしまいましたがそれもまた楽しい思い出です。夜のキャンプファイヤーはとても綺麗で楽しかったです。沢山の人の繋がりを感しました。

そして翌日のディスカッションではグループ研究の班員と顔合わせを初めてしましたがとても話しやすく穏やかな班でこれからの活動が楽しみになりました。とても良い天気の中芝生の上に直接座って開放的な気分になり自然を感じる事もできました。夜の打ち上げでは先輩方や同期と沢山話することが出来ました。私はアコールデの宿舎なのですがその一年生の女子は大学関係なくとても仲が良くて本当に毎日が楽しかったです。気が付いたらみんな集まってくれない話をしたりゲームをしたり友情を築くことも出来ました。最終日の総括では先輩方のお話を聞いて感動しました。役職の達成感や人の繋がりの大切さを感じる事が出来ました。一人一人違う目標で参加し違う考え方があり、

合宿に対する思い入れがあり、涙を流しながら話す先輩方はとてもかっこよかったです。私も来年は役職に就くことがあるかもしれないのでその時は先輩方のようにちゃんと仕事ができるかは分からないけれど先輩方のようになりたいと心から思いました。この四日間で沢山の人と関わることができ、終わってしまうのが正直寂しく思えました。人間力アカデミーの素晴らしさを実感することが出来たととても有意義な時間でした。参加をして本当に良かったです。そして来年に向けてこれからの活動も頑張ろうと思います。

【渡邊由唯】

大学生活の中で初めてサークルの合宿に参加させていただくことができ、たくさんのお話を学ぶことが出来ました。人見知りなので自分から話しかける、他人任せなので自ら積極的に行動する。この二つが今回の合宿での目標でした。人見知りは他大学の友達に話しかけることで、少し克服出来たのかなと思います。また、朝の配膳を積極的に行いました。わたしは用事があり、合宿を早退したことによってディスカッションなどから学ぶことは出来ませんでした。登山、キャンプファイヤーや皆での食事での会話などから沢山のことを発見し、学ぶことができました。

今回の合宿から自分自身を見つめ直し、どのようにしたら改善できるのだろうと考える機会を与えていただきました。とても楽しく、仲間の大切さを改めて教えていただきました。この経験を今後の生活に活かしていきたいと思います。

以上